

# 平成30年度における業務の実績に関する報告書

(事業年度評価)

令和元年6月28日

地方独立行政法人山口県産業技術センター

## 目 次

### I 法人の概要

- (1) 名称
- (2) 所在地
- (3) 法人成立の年月日
- (4) 設立団体
- (5) 中期目標の期間
- (6) 目的及び業務
- (7) 資本金の額
- (8) 代表者の役職氏名
- (9) 役員及び職員の数
- (10) 組織図

### II 平成 30 年度における業務の実績に関する自己評価結果

- (1) 総合的な評定
- (2) 評価概要
- (3) 対処すべき課題
- (4) 従前の評価結果の活用状況
- (5) 平成 30 年度評価における項目別評価結果総括表

### III 中期計画の各項目ごとの実施状況

- 第 1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項
  - 1 戦略産業の育成・集積に向けた地域イノベーションの推進
    - (1) 戦略産業分野における研究開発を支援する体制の整備
    - (2) 産学公や企業間連携による研究開発・事業化の促進
  - 2 中小企業力の向上に向けたものづくり力の高度化・ブランド化の推進
    - (1) 事業化戦略を踏まえた実用化研究への重点的取組
    - (2) 研究開発成果の普及とその活用
    - (3) 各種技術研究会活動の積極的展開
    - (4) 研究開発計画策定や資金獲得の支援
    - (5) 数値目標
  - 3 「中核的技術支援拠点」としての更なる機能強化
    - (1) 効果的かつ切れ目のない企業支援の一層の充実
    - (2) 技術相談の充実
    - (3) 新たな技術課題の掘り起こし
    - (4) 先端的試験研究機器の整備等による技術支援サービスの充実
    - (5) 数値目標

### 第 2 業務運営の改善及び効率化に関する事項

- 1 運営体制や経営資源配分の継続的見直し
- 2 職員の職能開発の計画的実施
- 3 法人サービス業務の「見える化」の推進
- 4 コンプライアンスの確保
- 5 情報管理の徹底
- 6 危機管理対策の推進

### 第 3 財務内容の改善に関する事項

- 1 自己収入の確保
- 2 経費の抑制

### 第 4 その他業務運営に関する重要事項

- 1 施設設備の適切な管理
- 2 環境負荷の低減

### 第 5 予算（人件費の見積りを含む。）収支計画及び資金計画

- 1 予算
- 2 収支計画
- 3 資金計画

### 第 6 短期借入金の限度額

### 第 7 出資等に係る不要財産又は出資等に係る不要財産となることが見込まれる財産の処分に関する計画

### 第 8 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画

### 第 9 剰余金の使途

### 第 10 法第 40 条第 4 項の承認を受けた金額の使途

### IV その他法人の現況に関する事項

- 1 地域別企業支援状況
- 2 産業分類別企業支援状況
- 3 施設利用
- 4 財務関係
  - (1) 資産、負債
  - (2) 損益計算書
  - (3) キャッシュ・フロー計算書
  - (4) 行政サービス実施コスト計算書
- 5 組織関係
  - (1) 役職員数
  - (2) 役員の状況
- 6 主要な設備等の状況
- 7 その他の評価結果等の活用状況
- 8 その他法人の現況に関する重要事項

**I 法人の概要（平成30年5月1日現在）**

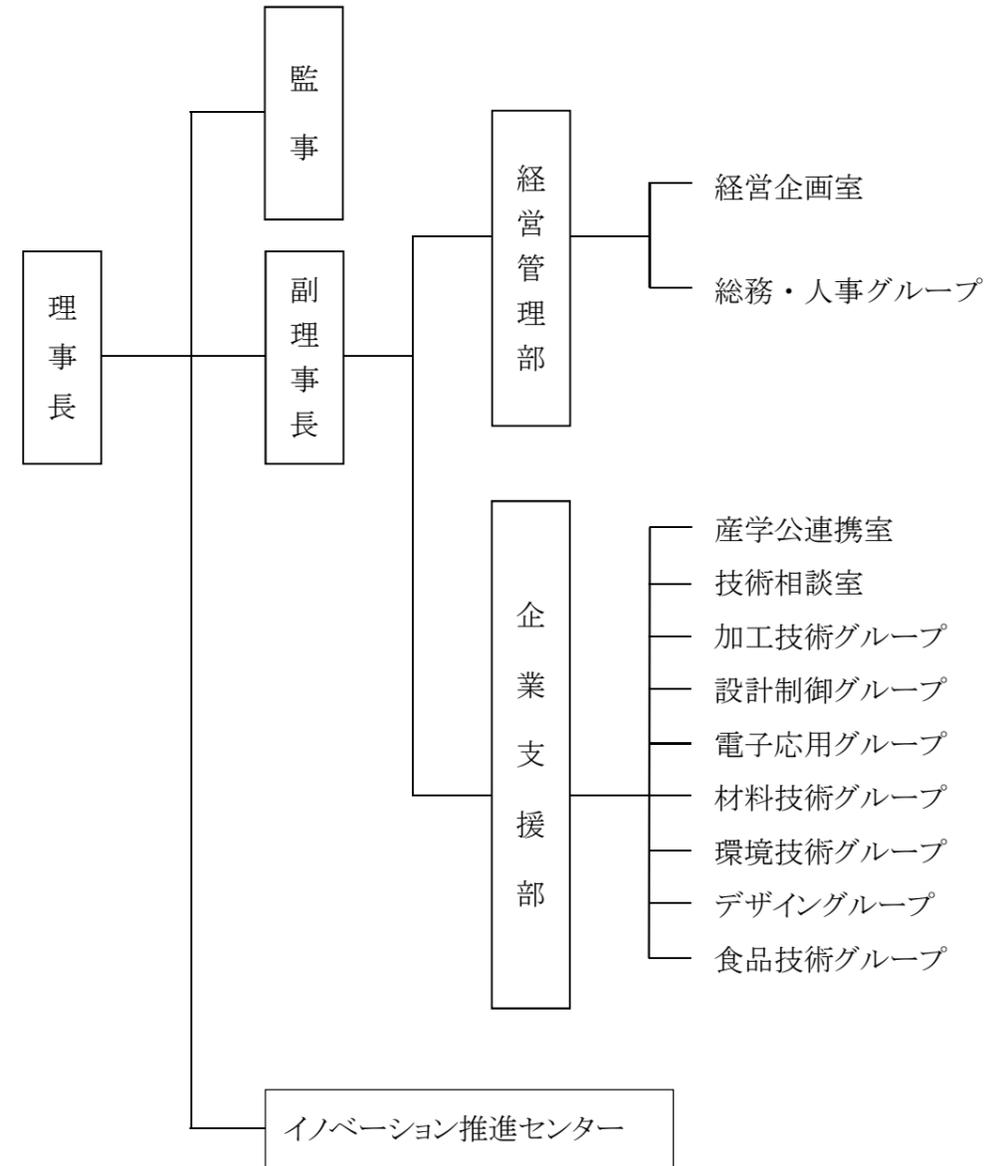
- (1) 名称  
地方独立行政法人山口県産業技術センター
- (2) 所在地  
山口県宇部市あすとぴあ四丁目1番1号
- (3) 法人成立の年月日  
H21年4月1日
- (4) 設立団体  
山口県
- (5) 中期目標の期間  
H26年4月1日からH31年3月31日まで
- (6) 目的及び業務
  - ア 目的  
産業技術に関する試験研究、その成果の普及、産業技術に関する支援等を総合的に行うことにより、産業の振興を図り、もって山口県における経済の発展及び県民生活の向上に資する。
  - イ 業務
    - (i) 産業技術に関する試験研究を行うこと。
    - (ii) 産業技術に関する試験研究の成果を普及し、及びその活用を促進すること。
    - (iii) 産業技術に関する照会及び相談に応じ、並びに助言その他の支援を行うこと。
    - (iv) 試験研究設備その他の設備及び施設を一般の利用に供すること。
    - (v) 前各号の業務に附帯する業務を行うこと。
- (7) 資本金の額  
6,375,046千円
- (8) 代表者の役職氏名  
理事長 木村悦博
- (9) 役員及び職員の数
  - ア 役員
 

理事長	1名
副理事長	1名
監事	1名
役員計	3名
  - イ 職員
 

職員(常勤)	49名
--------	-----

職員(非常勤) 23名  
職員計 72名

(10)組織図



## II 平成30年度における業務の実績に関する自己評価結果

### 【1】総合的な評価

評価 中期計画の進捗は順調 (A)

#### 【理由】

大項目別評価の評点平均値に各大項目のウエイトを乗じて得た数値の合計値は3.7(当該大項目内の細項目別評価の評点の単純平均値は3.5)であり、「A評価」の判断の目安である「3.5以上4.2以下」の範囲内となっている。

### 【2】評価概要

#### ア 全体的な状況

4つの大項目(「県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上」、「業務運営の改善及び効率化」、「財務内容の改善」及び「その他業務運営に関する重要事項」)に係る中期計画の進捗は、いずれも順調である。

#### イ 大項目ごとの状況

##### 第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

評価 中期計画の進捗は順調 (a)

#### 【理由】

当該大項目内の中項目別評価の評点平均値に各中項目のウエイトを乗じて得た数値の合計値は3.9(当該大項目内の細項目別評価の評点の単純平均値は3.9)であり、「a評価」の判断の目安である「3.5以上4.2以下」の範囲内となっている。

#### 当該大項目内の状況

「県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項」を構成する3つの中項目のうち「戦略産業の育成・集積に向けた地域イノベーションの推進」に係る中期計画の進捗は、新たに「バイオ関連推進チーム」を創設して更なる体制の充実をはかると共に、その機能を十分に発揮することで事業化件数や提案公募型事業の採択、競争的資金の獲得支援において多数の成果を上げており、順調である。「中小企業力の向上に向けたものづくり力の高度化・ブランド化の推進」では、実用化研究が概ね順調に進み、研究開発成果の速やかな知的財産化を行った。また、新たに「スマート★づくり研究会」を加えた5つの研究会における積極的な活動により、技術革新計画の承認支援、国等の提案公募型事業の獲得及び企業による製品化事例等において順調な成果を上げている。「中核的技術支援拠点」としての更なる機能強化については、「バーチャル3Dものづくり支援センター」の運用開始に向けた取り組みを進めると共に、海外展開への支援や、農業・漁業分野、衛星データ活用などでの新たな課題に引き続き取り組むとともに、先端的試験研究機器の整備等による技術支援サービスの充実を図るなど、順調に推移している。

#### 長所及び問題点等

##### 第1-1 地域イノベーションの推進 a

- (1) 「環境・エネルギー推進チーム」、「水素関連技術支援チーム」、「医療関連推進チーム」に加え、新たに創設した「バイオ関連推進チーム」【新】を含む4つのチームにおいて、研究テーマの発掘、コーディネート活動、競争的資金の獲得支援、展示会出展支援などの取組を効果的に実施した結果、多くの企業の参画や研究開発グループの形成により、環境・エネルギー分野で22件(累計57件)、医療関連分野で6件(累計24件)の事業化に繋がった。また、県内中小・中堅企業の水素利活用製品や関連部品等の技術開発・試作等に対する支援を継続して行うとともに、第15回国際水素・燃料電池展～FC EXPO 2019～に出展し、県内企業の研究開発成果等をPRした。 4
- (2) 産学公や企業間連携による研究開発・事業化の促進については、イノベーション推進センターや産学公連携室を中心として企業・大学等訪問による積極的なコーディネート活動を行い、関係機関と連携して国等の提案公募型事業(競争的資金)獲得に向けた積極的な取組により、イノベーション推進センターを中心とした取組で新たに5件、産学公連携室を中心とした取組で新たに3件の競争的資金を獲得した。 4

##### 第1-2 ものづくり力の高度化・ブランド化の推進 a

- (1) 実用化研究では、研究開発(主要6テーマ)が概ね順調に進捗し、そのうち「製品開発チーム」が実施した1テーマ(3件)で事業化に向けた取り組みが始まり、2テーマで県内企業と共同で取り組む競争的資金の獲得に発展(うち1テーマが「3Dものづくりチーム」による)するなど、チーム再編の効果が順調に現れ始めた。 3
- (2) 研究開発成果の普及とその活用については、研究会や研究(技術)発表会の開催、研究報告書等の刊行、ホームページ等様々な方法により県内企業に発信した。また、研究開発成果を事業化するために、技術移転する企業から資金を得て製品化研究を実施するとともに、研究員等による継続的なフォローアップにより、4件の事業化・商品化実績が上がった。 3  
知的財産管理では、研究開発成果の知的財産化(職務発明2件、特許出願5件)を速やかに進め、申請から取得、普及(新規実施許諾6件)への対応を適切に行った。また、権利の廃棄・継続を判断するしくみの適切な運用の結果、独法化後最も多い権利処分(10件)を行い、知財管理を適切に行った。 3
- (3) 研究会活動の積極的展開については、新たに創設した「スマート★づくり研究会」【新】を加えた5つの研究会を組織し、「やまぐちブランド技術研究会」では技術革新計画の策定に向けた個別支援により4企業が承認を受けた。また、「衛星データ解析技術研究会」では、積極的な活動(セミナーやワーキングなど20回)に加え、大学及び企業等の国等の提案公募型研究開発事業への申請を支援し、新たに2テーマが採択された【新】。さらに「やまぐち3Dものづくり研究会」では、県東部において研究会活動に関わる情報発信を行った【新】。 4
- (4) 研究開発計画策定や資金獲得の支援については、「やまぐちブランド技術研究会」の取組と一体的に、企業自ら実施する研究開発から事業化までの計画(シナリオ)を策定

するとともに、そのシナリオの実現に必要な資金として、国等の提案公募型事業（競争的資金）の獲得に向けて積極的に支援を行い、40件の競争的資金を獲得した。 **4**

(5) 数値目標については、全ての項目で100%以上の達成率であり、年度目標を達成した。

- ・特許等の出願及び新規使用許諾件数 11件（目標11件） **4**
- ・山口県技術革新計画の承認支援件数 4件（目標4件） **4**
- ・センター支援による国等の提案公募型事業の獲得件数 11件（目標6件） **5**
- ・研究開発・技術支援が事業化（商品化）に至った件数 10件（目標8件） **5**

### 第1-3 「中核的技術支援拠点」としての更なる機能強化 **a**

(1) 効果的かつ切れ目のない企業支援の一層の充実については、「バーチャル3Dものづくり支援センター」の平成31年度からの運用開始に向けた取組を行う【新】とともに、大学・国公設試や民間機関、やまぐち産業振興財団や金融機関等との連携を深める取組を引き続き行った。 **4**

(2) 技術相談の充実については、グループウェアによる1回/週の技術相談・依頼試験・開放機器等の情報共有や技術相談室を中心とした複数グループの連携等により、県内企業が抱える多様な技術課題に対する対応力の強化に務めた。また、サテライト窓口では、地場産センター職員に同行して積極的に企業訪問を実施した。さらに、県内企業の海外展開支援に関して、標準化支援パートナーシップ機関として標準化支援アドバイザーの派遣【新】や中国及びシンガポールでの市場調査を行った。 **3**

(3) 新たな技術課題の掘り起こしについては、農業・漁業分野で県内事業者や公設試等から課題抽出を行い10テーマの研究開発に反映し、4件の事業化を達成した。また、サービス分野では医療関連の課題の掘り起こしからの製品開発によって3件の事業化を達成した。 **4**

(4) 技術支援サービスの充実については、企業ニーズの調査結果を踏まえ、翌年度の機器導入に反映させるとともに、それらに追加して機器の新規・更新・増設による整備、機器寿命の長期化のための修繕を行い、より一層の充実に努めた。また、機器活用事例のパネルを作成・掲示し、依頼試験・開放機器の見える化を図るとともに、機械加工関連企業の利用促進に向けたパンフレットの作成・先行配布やセミナー・個別相談会を行った。 **4**

(5) 数値目標については、全ての項目で達成度120%を上回り、年度目標を大幅に超えた。

- ・技術相談件数 4,368件（目標3,300件） **5**
- ・訪問企業数 414社（目標230社） **5**
- ・開放機器・依頼試験の利用件数 3,842件（目標3,040件） **5**

## 第2 業務運営の改善及び効率化に関する事項

【評価】 中期計画の進捗は概ね順調 **(b)**

【理由】

当該大項目内の中項目別評価の評点平均値に各中項目のウェイトを乗じて得た数値

の合計値は3.0（当該大項目内の細項目別評価の評点の単純平均値は3.0）であり、「b評価」の判断の目安である「2.7以上3.4以下」の範囲内となっている。

### 当該大項目内の状況

「業務運営の改善及び効率化に関する事項」を構成する6つの中項目は、それぞれ概ね順調に実施されている。特に、「運営体制や経営資源配分の継続的な見直し」について国税ダイレクト方式電子納税を採用して業務効率化を図ると共に、「情報管理の徹底」では老朽化したネットワーク関連機器の計画的な更新を開始した。

### 長所及び問題点等

#### 第2-1 運営体制や経営資源配分の継続的な見直し **b**

理事長主催の経営委員会及び合同会議（経営委員会＋企業支援委員会）を定期的に開催し、迅速な意志決定を行った。定年退職者の豊富な知識や経験を活用するため、定年退職者2名をシニアスタッフとして再任用した。また、国税ダイレクト方式電子納税を採用して業務効率化を図る【新】など、業務の改善・見直しを行った。 **3**

#### 第2-2 職員の職能開発の計画的実施 **b**

H29年度に整理した人材育成の基本方針に従って研修計画を策定し、この計画に基づき、外部機関で開催される研修への派遣や所内研修の開催を積極的に実施した。また前年度に引き続き、弁理士を交えた技術グループ毎の知財勉強会を実施した。 **3**

#### 第2-3 法人サービス業務の「見える化」の推進 **b**

法人サービス業務の「見える化」の推進については、開放機器一覧2018など刊行物の発行、成果発表などを計画的に実施した。また、ホームページを積極的に活用し、法人主催のセミナー、成果事例について速やかに周知した。また、機器活用事例のパネルを作成・掲示し、依頼試験・開放機器の見える化を図った。 **3**

#### 第2-4 コンプライアンスの確保 **b**

前年度整備した研究開発に係わるコンプライアンス確保のための規程類を確かに運用し、全ての研究員並びに希望する職員を対象とした研究倫理教育や、当該競争的資金等に係る研究活動を実施する構成員に対するコンプライアンス教育を実施した。さらに、ハラスメント防止についても、外部講師による研修を引き続き実施した。 **3**

#### 第2-5 情報管理の徹底 **b**

情報管理の徹底については、新規採用職員を対象に職員教育を実施し、情報セキュリティに対する職員への指示・伝達を行った。また、産技センターの情報セキュリティを高めるため、ウイルス対策ソフトのライセンス更新並びにクラウド化【新】を行った。さらに、老朽化したネットワーク関連機器の計画的な更新【新】を開始した。 **3**

## 第2-6 危機管理対策の推進 **b**

風水害対策マニュアルの作成に着手した。また、「業務継続計画」(BCP)の初動体制の充実を図るため、職員の参集可否の連絡先であるBCP専用のメールアドレスを記載した「H30年度非常連絡系統図」を作成し、全職員に配布・周知した。 **3**

## 第3 財務内容の改善に関する事項

評価

中期計画の進捗は順調 **(a)**

### 【理由】

当該大項目内の中項目別評価の評点平均値に各中項目のウエイトを乗じて得た数値の合計値は3.6(当該大項目内の細項目別評価の評点の単純平均値は3.5)であり、「a評価」の判断の目安である「3.5以上4.2以下」の範囲内となっている。

### 当該大項目内の状況

「財務内容の改善に関する事項」を構成する2つの中項目に係る中期計画は順調に進捗している。

### 長所及び問題点等

## 第3-1 自己収入の確保 **a**

機器整備に係る補助事業や研究開発に係る競争的資金の獲得に努め、機器整備で6機種、研究開発で9件の競争的資金を獲得した。また、イノベーションの推進に外部資金を活用するとともに、使用料・手数料、受託研究及び知的財産の実施料などによる自己収入の確保に努めた。 **4**

## 第3-2 経費の抑制 **b**

予算編成において、事業費の積上と併せて前年度事業費の実績を考慮するとともに、より厳密な積算を行い、効果的な予算配分に努めることにより、予算の抑制を図った。また、上半期終了後の予算執行状況の集計に基づき効果的な予算執行に努めた。さらに、管理運営に係る経費について、引き続き委託業務、物品購入等における仕様及び旅費等の精査による縮減など比較的規模の小さな経費まで縮減に努めた。 **3**

## 第4 その他業務運営に関する重要事項

評価

中期計画の進捗は順調 **(a)**

### 【理由】

当該大項目内の中項目別評価の評点平均値に各中項目のウエイトを乗じて得た数値の合計値は3.5(当該大項目内の細項目別評価の評点の単純平均値は3.5)であり、

「a評価」の判断の目安である「3.5以上4.2以下」の範囲内となっている。

### 当該大項目内の状況

「その他業務運営に関する重要事項」を構成する2つの中項目に係る中期計画は、何れも概ね順調に進捗している。

### 長所及び問題点等

## 第4-1 施設設備管理 **a**

施設・設備の保守業務については、計画的に予算配分することで、安全性や業務の信頼性の確保に努めるとともに、修繕についてもその必要性が高いと判断されるものについては優先的に予算執行することで施設・設備が良好な状態に保たれるよう配意した。また施設の利用促進において、外来者受付数が第2期(H26年度以降)最高となった。 **3**

(数値目標)

・中期計画期間中の来庁者数 13,294人(目標値11,000人) **5**

## 第4-2 環境負荷の低減 **b**

環境負荷の低減に向けた環境マネジメントの取組を継続し、省エネ・省資源の取組、廃棄物排出量の削減、グリーン購入等に取り組んだ。電力については、玄関ロビーに設置した電力モニターやWeb画面で電力使用量が見える化することにより、省エネ行動喚起を図っている。また全職員を対象に、省エネのアイデアを募集するアンケート調査を実施した【新】。加えて、化学物質管理規定(化学物質リスクアセスメント)について運用を開始すると共に、実用段階における課題の抽出を行った【新】。 **3**

### 【3】 対処すべき課題

本年度から始まる第3期においては、第2期までの取組により培われてきたイノベーション創出基盤やものづくり技術基盤などの成果を活かしながら、今後も成長が見込まれる分野に焦点を当て、効果的・効率的に取り組む必要がある。

このため、第3期の初年度にあたる2019年度は、中期計画の達成に向けて取り組む業務の方向性を盛り込んだ第3期「技術戦略」の策定などによりセンターの一層の「見える化」を図りながら、本県の特性を活かした付加価値の高い成長産業の育成・創出や、新たな市場に向けた新技術・新商品の開発に寄与する成果を着実にあげるために必要な体制やしきみを整備するとともに、新たな取組を速やかに開始することを本年度計画策定の方針とする。

### 【成長産業の発展に向けた地域イノベーションの推進】

(成長産業における研究開発を支援する体制の強化)

成長産業の発展に向けて、県内企業のニーズ、シーズの発掘から事業化に至るまでの研究開発プロジェクトを総合的に支援するセンター内のコーディネイト体制を以下のとおり強化するとともに、企業支援部の関連部署との連携を密にするしきみを構築する。

- ① 医療関連（ヘルスケア関連含む）、環境・エネルギー関連（水素エネルギー関連含む）、バイオ関連産業を対象として、イノベーションの推進を支援する「イノベーション推進センター」の継続・運営
- ② 基礎素材型や輸送用機械関連産業を対象として、県内企業の研究者や技術者が参画する技術交流の場（やまぐちR&Dラボ）を構築し、企業連携による新技術・製品等の創出を支援する「R&Dラボ推進事務局」の設置・運営
- ③ 航空機・宇宙産業を対象として、県内企業の衛星データの利用促進を支援する「宇宙データ利用推進センター」の設置・運営
- ④ I o T等関連分野を対象として、I o Tベンダーとユーザーの協創によって新ビジネスの創出を支援する「I o Tビジネス創出支援拠点」の設置・運営

（産学公や企業間連携による研究開発・事業化の促進）

センター内のコーディネート体制の強化により、これまでの取組により培われた産学公や大企業・中小企業の連携体制等を活かしつつ、県内外にネットワークを広げて、成長産業の次代を担う研究開発プロジェクトの発掘に取り組む。

また、研究開発プロジェクトが円滑に実施され、県内中堅・中小企業での事業化につながるよう、プロジェクトの進捗管理、国等の提案公募型事業（競争的資金）の獲得支援、展示会出展等の必要な支援を、県、大学、やまぐち産業振興財団等と連携して適切に行う。

#### 【中小企業力の「底力」の発揮に向けたものづくり力の高度化・ブランド化】

（実用化研究の推進とその成果の普及）

##### ア 実用化研究の推進

実用化研究の基盤となる技術を生み出す研究開発に持続的に取り組むとともに、企業のニーズ、県の産業振興施策や社会経済情勢の変化を捉えつつ、事業化戦略を踏まえた実用化研究を重点的に実施する。

##### イ 研究開発成果の普及

研究開発成果については、各種研究会や企業訪問、学協会等で広く発信するとともに、共同研究・受託研究などにより企業への移転を推進する。また、成果移転後の継続的なフォローアップの効果的・効率的な手法について検討する。さらに、研究開発成果の知的財産化を速やかに進め、発明から出願、取得、実施に至る管理を適切に行う。

（企業の技術革新の促進）

##### ア 各種技術研究会活動の積極的な展開

新しい技術研究会の創設を含め、「やまぐちブランド技術研究会」を中心とした技術研究会の再編を適切に行い、それらの研究会活動を積極的に展開し、当該研究会会員による技術革新を促進することで、新技術・新商品の開発を促す。

##### イ 研究開発計画策定や資金獲得の支援

県内企業（企業間連携を含む）の技術革新に対する「強い思い」を新事業展開につなげるために、県の技術革新計画制度などを活用しながら、技術開発から事業化までのシナリオづくり（研究開発計画の策定）を進める。

また、それらのシナリオに必要な資金獲得を支援するため、提案公募型事業（競争的資金）を積極的に活用する。

#### 【「中核的技術支援拠点」としての更なる機能強化】

（産業技術に関する相談等の充実）

##### ア 技術相談の充実

県内企業への積極的な企業訪問や相談窓口機能（技術相談室、電子メール相談、サテライト窓口、巡回相談窓口等）の活用により技術相談できる機会を充実させる。また、技術相談室を中心としたセンター職員の連携強化による県内企業が抱える複雑・多様な技術課題への対応力を強化することで、企業の技術課題の的確な把握、課題の解決に向けた迅速かつ適切な技術支援に努める。さらに、支援結果の継続的なフォローアップの効果的・効率的な手法について検討する。

##### イ 地域課題解決への取組

県内企業のものづくり技術を地域に有効に活用する観点から、1次産業や3次産業、自治体、県民生活等に係る地域の様々な技術課題を発掘し、その技術課題を地域の技術力により解決する取組を関係機関と連携しながら支援する。

（試験研究機器の整備等による技術支援サービスの充実）

県内企業のニーズを踏まえた計画的な先端的試験研究機器整備に努め、その機器を有効に活用できるしくみや体制を整備するとともに、以下の技術支援サービスの充実を図る。特に今年度は、遠隔地から3D機器の活用を促進するしくみとして、「バーチャル3Dものづくり支援センター」の運用を開始する。

また、技術支援業務のサービス内容やニーズ適合性について、アンケート調査などによる検証を行い、その結果を技術支援サービスの充実に活かす。

##### ア 開放機器、依頼試験

###### ① 開放機器

新規導入機器の速やかな開放に努めるとともに、計画的な機器の保守・校正を継続的に行うことで開放機器の信頼性を確保する。

また、操作マニュアルの整備、継続的な見直し及び開放機器活用事例集の充実により利用促進を図る。

###### ② 依頼試験

試験方法の見直しや機器の保守、校正を継続的に行うことで、試験結果の公正性を確保するとともに、試験項目以外の企業が望む試験に対してはオーダーメイド試験により、柔軟な対応を行う。

##### イ 受託研究・共同研究

企業ニーズに即応し、迅速に研究に着手するとともに、開始時期や研究期間についても柔軟な対応を行う。

##### ウ 技術者研修

企業の技術者を受け入れる所内研修や職員を企業に派遣する所外研修などを、企業の要望に即応して行うとともに、開始時期や研修期間についても柔軟な対応を行う。

また、若者に技術開発の魅力を伝えるため、大学や高専などのインターシップを積極的に引き受ける。

##### エ 新事業創造支援センターの効果的活用

入居メリット（機器利用料の減免措置）や入居要件の緩和（スポット利用）をPRすることにより、利用の促進を図る。

(効果的かつ切れ目のない企業支援の一層の充実)

企業の海外展開など多様化する県内企業ニーズへの対応や、センター単独では解決が困難な課題について、研究支援機能を有する大学・国公設試や民間機関、経営支援機能を有するやまぐち産業振興財団や金融機関等との連携を図る。

#### 【業務運営の改善及び効率化】

(運営体制や経営資源配分の継続的見直し)

全体会議等の開催、グループウェアの効果的な活用による全職員の情報共有を図るとともに、運営体制や経営資源の配分の継続的な見直しを行い、業務内容・運営の改善及び効率化を図るために、理事長による迅速な意思決定を経営委員会での審議を経て適切に行う。

(センター業務の「見える化」の推進)

第3期「技術戦略」を策定し、冊子にして県内企業や連携機関などに配布する。

また、県民に分かり易い情報発信を心がけるとともに、各種パンフレットや機器活用事例集の発刊、研究開発・技術支援成果の情報発信、ホームページへの掲載、発表会の開催等を適時適切に行う。

(職員の職能開発の体系的・計画的実施)

職員の意欲と業務遂行能力を高めながら、職員の主体的なキャリア形成を支援するため、第2期に策定した人材育成方針に基づいた以下の職能開発を体系的・計画的に実施する。

(コンプライアンスの確保)

内部統制を強化するため、経営委員会や監査（監事監査、内部監査等）の適切な運用に努める。また、労働安全衛生法等の法令遵守や職員倫理の確保に資するため、安全衛生委員会などの適切な運用に努めるとともに、実効性ある研修を行い、職員のコンプライアンス意識の向上を図る。

(危機管理対策の推進)

情報セキュリティの確保に努めるとともに、業務を通じて知り得た秘密情報（個人情報、企業情報、技術情報等）について、漏洩防止や適切な利用のために必要な措置を講じる。

また、災害時の緊急対応では業務継続計画を適切に運用するとともに、計画の継続的な見直しを行う。

#### 【財務内容の改善】

(自己収入の確保)

研究開発、機器整備等に係る外部資金を積極的に活用するとともに、使用料・手数料の適正な料金設定、機器・施設の利用促進、知的財産権の使用許諾等の推進等による収入の確保に努める。

(経費の抑制)

経費の効率的使用の観点から、必要な予算措置を事業毎に編成し、決められた執行管理方法に基づき適切に運用する。

また、管理運営にかかる経費について見直しを行い、抑制を図る。

#### 【その他業務運営に関する重要事項】

(施設設備の適切な管理)

安定的なサービスの提供の基盤となる施設設備が効果的・効率的に活用されるよう、計画的な保守点検・整備・修繕等を行うとともに、利用者の視点に立ち、利便性の向上を図る。

(環境負荷の低減)

省エネルギーや廃棄物の適正な処理など、環境負荷の低減に向けた取組を適切に実施するとともに、その実施方法については持続的に見直す。

#### 【4】従前の評価結果の活用状況

第3期の初年度となる本年度は、第3期中期目標の達成に向けて必要な体制やしくみを整備するとともに、新たな取組を速やかに開始することを基本方針としている。中でも「事業化後（成果移転後）や、技術支援後のフォローアップ」は強く求められている取組であるため、フォローアップの効果的・効率的な手法について急ぎ検討を行うこととしている。また、想定していなかった新しい取組に関する目標値等の適切な取り扱いも求められており、今期からは、「イノベーションの推進による成長産業分野の事業化件数」を新しい数値目標の項目とした。

【5】H30 年度評価における項目別評価結果総括表

平成30年度評価における項目別評価結果総括表

(大項目) (中項目) (小項目) (細項目)	中期計画 における 対象細項 目数	年度計画 における 対象細項 目数	細項目別評価の評点内訳 (個数)					細項目別 評価の評点 の平均 値	小項目 別評価 の評点	各小項目のウエイト		中項目別 評価 (加重平 均値)	各中項目のウエイト		大項目別 評価 (加重平 均値)	各中項目 のウエイト	全体評価 (加重平 均値)
			5 点	4 点	3 点	2 点	1 点			計	配分		考え方	配分			
全体評価	34	34	6	12	16	0	0	34	3.7								
第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上	23	23	5	11	7	0	0	23	3.9								
1 戦略産業の育成・集積に向けた地域イノベーションの推進	2	2	0	2	0	0	0	2	4.0			ウエイト平均 a(4.0)	0.4				
(1) 戦略産業分野における研究開発を支援する体制の整備 各種研究開発プロジェクトを総合的に推進する体制の構築と運営	1	1	0	1	0	0	0	1	4.0	4	0.5	a(4.0) 単純平均 a(4.0)					
(2) 産学公や企業間連携による研究開発・事業化の促進 企業間や産学公が連携した研究開発プロジェクトの発掘等	1	1	0	1	0	0	0	1	4.0	4	0.5						
2 中小企業力の向上に向けたものづくり力の高度化・ブランド化の推進	9	9	2	4	3	0	0	9	3.9			ウエイト平均 a(3.6)	0.3				
(1) 事業化戦略を踏まえた実用化研究への重点的取組 第2期技術戦略の明示と計画的な研究開発の実施	1	1	0	0	1	0	0	1	3.0	3	0.3	a(3.8) 単純平均 a(3.8)					
(2) 研究開発成果の普及とその活用 ア 研究開発成果の発信とその成果の活用支援 イ 知的財産の適切な管理	2	2	0	0	2	0	0	2	3.0	3	0.2						
(3) 各種技術研究会活動の積極的展開 各種技術研究会活動の積極的な展開及び研究開発の促進	1	1	0	1	0	0	0	1	4.0	4	0.2						
(4) 研究開発計画策定や資金獲得の支援 研究開発計画策定や資金獲得の支援	1	1	0	1	0	0	0	1	4.0	4	0.2						
(5) 数値目標 ア 特許等の出願及び新規使用許諾件数 イ 山口県技術革新計画の承認支援件数 ウ センター支援による国等の提案公募型事業の獲得件数 エ 研究開発・技術支援が事業化(商品化)に至った件数	4	4	2	2	0	0	0	4	4.5	5	0.1						
3 「中核的技術支援拠点」としての更なる機能強化	12	12	3	5	4	0	0	12	3.9			ウエイト平均 a(4.0)	0.3				
(1) 効果的かつ切れ目のない企業支援の一層の充実 国等の産業振興施策への積極的な協力及び他の支援機関との連携	1	1	0	1	0	0	0	1	4.0	4	0.2	a(4.0) 単純平均 a(4.0)					
(2) 技術相談の充実 相談窓口機能の充実及び職員の対応力の強化	1	1	0	0	1	0	0	1	3.0	3	0.2						
(3) 新たな技術課題の掘り起こし 1次産業や3次産業の技術課題を掘り起こす取組の強化	1	1	0	1	0	0	0	1	4.0	4	0.2						
(4) 先端的試験研究機器の整備等による技術支援サービスの充実 機器操作補助員の拡充による技術支援機能の強化	6	6	0	3	3	0	0	6	3.5	4	0.2						
ア 開放機器 イ 依頼試験 ウ 受託研究・共同研究 エ 技術者研修 オ 新事業創造支援センターの効果的活用	1	1	0	0	1	0	0	1	3.0								
(5) 数値目標 ア 技術相談件数 イ 訪問企業数 ウ 開放機器・依頼試験の利用件数	3	3	3	0	0	0	0	3	5.0	5	0.2						

第2 業務運営の改善及び効率化	6	6	0	0	6	0	0	6	3.0										
1 運営体制や経営資源配分の継続的見直し	1	1	0	0	1	0	0	1	3.0										
運営体制や経営資源の配分についての調査検討及び適時見直し	1	1	0	0	1	0	0	1	3.0										
2 職員の職能開発の計画的実施	1	1	0	0	1	0	0	1	3.0										
研修計画に基づく体系的・計画的な研修の実施	1	1	0	0	1	0	0	1	3.0										
3 法人サービス業務の「見える化」の推進	1	1	0	0	1	0	0	1	3.0										
第2期技術戦略の策定及び周知並びに情報発信内容及び方法の見直し	1	1	0	0	1	0	0	1	3.0										
4 コンプライアンスの確保	1	1	0	0	1	0	0	1	3.0										
法令遵守等に資する仕組みの適切な運用及び職員教育の実施	1	1	0	0	1	0	0	1	3.0										
5 情報管理の徹底	1	1	0	0	1	0	0	1	3.0										
漏洩防止のために必要な措置の実施	1	1	0	0	1	0	0	1	3.0										
6 危機管理対策の推進	1	1	0	0	1	0	0	1	3.0										
「業務継続計画」(BCP)の策定	1	1	0	0	1	0	0	1	3.0										
第3 財務内容の改善	2	2	0	1	1	0	0	2	3.5										
1 自己収入の確保	1	1	0	1	0	0	0	1	4.0										
国等の外部資金の獲得及び運営費交付金以外の収入の確保努力	1	1	0	1	0	0	0	1	4.0										
2 経費の抑制	1	1	0	0	1	0	0	1	3.0										
予算の配分や執行管理方法の見直し	1	1	0	0	1	0	0	1	3.0										
第4 その他業務運営に関する重要事項	3	3	1	0	2	0	0	3	3.7										
1 施設設備の適切な管理	2	2	1	0	1	0	0	2	4.0										
保守点検・修繕等の計画的な実施及び有効活用策等の検討	1	1	0	0	1	0	0	1	3.0										
数値目標 来庁者数	1	1	1	0	0	0	0	1	5.0										
2 環境負荷の低減	1	1	0	0	1	0	0	1	3.0										
環境マネジメントの継続実施	1	1	0	0	1	0	0	1	3.0										

※小項目がない中項目については、細項目別評価の評点の平均値により評価を行う。

Ⅲ 中期計画の各項目ごとの実施状況

大項目	第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項
中項目	1 戦略産業の育成・集積に向けた地域イノベーションの推進

中 期 計 画 目 標	<p>&lt;戦略産業の育成・集積に向けた地域イノベーションの推進に関する目標&gt;</p> <p>全国トップレベルの医療関連産業の集積や、瀬戸内沿岸部の素材・部材の供給基地などの本県産業の特性や強みを活かし、今後の成長が期待できる医療関連産業や環境・エネルギー産業などの戦略産業の育成・集積に資する持続的な地域イノベーション創出環境の整備に資するため、戦略産業分野において、県内企業のニーズ、シーズの発掘から事業化に至るまでの研究開発を支援する体制を整備し、産学公や企業間連携による研究開発・事業化を促進する。</p>
----------------------------	---

第1-1(1) 戦略産業分野における研究開発を支援する体制の整備

中期計画	H30年度の年度計画	評価	H30年度計画の達成状況等の具体的説明	評価の理由等
<p>各種研究開発プロジェクトを総合的に推進する体制の構築と運営</p> <p>県の特性や強みを活かし、今後の成長が期待できる「医療関連分野」や「環境・エネルギー分野」などの戦略産業における次世代産業クラスターの形成に向け、県内でのイノベーションを促進するため、「やまぐちイノベーション推進協議会」等との連携を図りながら、県内企業のニーズ、シーズの発掘から事業化に至るまでの各種研究開発プロジェクトを総合的に推進する体制をセンター内に構築し、効果的・効率的に運営する。</p>	<p>各種研究開発プロジェクトを総合的に推進する体制の構築と運営</p> <p>地域イノベーションの推進に向けて、「医療関連推進チーム」、「環境・エネルギー推進チーム」、「水素関連技術支援チーム」に、新たに「バイオ関連推進チーム」を加えた4つのチームで構成される「イノベーション推進センター」を、「やまぐちイノベーション推進協議会」や県等と一体となって、効果的・効率的に運営する。</p> <p>さらに、センター研究員や産学公連携室等との連携や文部科学省補助事業などの提案公募事業を活用して、県内企業等のニーズ、シーズの発掘から事業化に至るまでの各種研究開発プロジェクトを総合的に推進する。</p>	4	<p>H26年4月に設置したイノベーション推進センターを中心として、「環境・エネルギー分野」、「医療関連分野」におけるイノベーションを推進するため、産学公金からなる「やまぐちイノベーション推進協議会」での議論を踏まえ、県等と協働して、「環境・エネルギー推進チーム」、「水素関連技術支援チーム」、「医療関連推進チーム」の3つのチームにおいて、研究テーマの発掘、コーディネート活動、競争的資金の獲得支援、展示会出展支援などに取り組んだ。</p> <p>加えてイノベーション推進センターに新たにバイオ関連推進チームを創設(7/1~)し、バイオテクノロジーを専門とするプロジェクトプロデューサーを県内大手企業から招聘することにより、これまでの医療関連分野、環境・エネルギー分野にバイオテクノロジーで横串を入れるとともに、食品などの新たなバイオ関連分野を含めたイノベーションに取り組む体制を整えた【新】。</p> <p>「環境・エネルギー分野」においては文部科学省補助事業である「地域イノベーション戦略支援プログラム」を引き続き活用し、研究開発プロジェクトの推進、国際ミニシンポジウムや成果発表会の開催、展示会出展等により県内企業の環境・エネルギー産業への参入を促進し、文部科学省の終了評価で高い評価(A評価)を得た【新】。</p> <p>また、県内中小・中堅企業の水素利活用製品や関連部品等の技術開発・試作等に対する支援を継続して行うとともに、第15回国際水素・燃料電池</p>	<p>年度計画を十分達成</p> <p>○新たにバイオ関連推進チームを創設し、バイオテクノロジーを専門とするプロジェクトプロデューサーを配置【新】</p> <p>・国等の補助事業を活用し、4つのチームにより地域イノベーション創出のための活動を推進</p> <p>・第15回国際水素・燃料電池展~FC EXPO 2019~への出展</p> <p>○環境・エネルギー分野で22件(累計57件)、医療関連分野で6件(累計24件)の事業化</p> <p>○「地域イノベーション戦略推進地域及び戦略支援プログラム」の終了評価で高い評価(A評価)</p>

		<p>展～FC EXPO 2019～に出展し、県内企業の研究開発成果等をPRした。</p> <p>「医療関連分野」及び「バイオ関連分野」においては、山口県からの委託事業により、研究開発の推進、セミナーの開催、展示会への出展等を実施し、県内企業の参入を促進した。</p> <p>これらの取組を効果的に実施した結果、多くの研究開発グループの形成や多くの企業の参画により、環境・エネルギー分野で22件（累計57件）、医療関連分野で6件（累計24件）の事業化に繋がった。</p>	
--	--	---	--

地域イノベーション戦略推進地域（4省共管）及び地域イノベーション戦略支援プログラム	補助期間5年間 (H26～H30年度)	総合調整機関：産業 技術センター
---	------------------------	---------------------

■イノベーション推進センターの体制 ※H30年7月1日現在

(イノベーション推進センター)

- ・センター長：1名（理事長と兼務）

(環境・エネルギー推進チーム)

- ・プロジェクトプロデューサー：1名
- ・サブリーダー：1名（産技C副部長、医療関連推進T及びバイオ関連推進Tと兼務）
- ・コーディネータ：4名（内1名、産技C研究員と兼務）
- ・事務補助：1名

(水素関連技術支援チーム)

- ・プロジェクトリーダー：1名
- ・事務補助：1名

(医療関連推進チーム)

- ・プロジェクトプロデューサー：1名
- ・サブリーダー：1名（産技C副部長、環境・エネルギー推進T及びバイオ関連推進Tと兼務）
- ・コーディネータ：2名（内1名、バイオ関連推進Tと兼務）
- ・事務補助：1名

(バイオ関連推進チーム)

- ・プロジェクトプロデューサー：1名
- ・サブリーダー：1名（産技C副部長、環境・エネルギー推進T及び医療関連推進Tと兼務）
- ・コーディネータ：3名（内1名、産技C研究員と兼務、内1名、医療関連推進Tと兼務、内1名、環境・エネルギー推進Tと兼務）

(事業管理)

- ・事業管理責任者：1名（産技C副部長、イノベーション推進センターサブリーダーと兼務）
- ・事業事務・経理担当：1名
- ・水素関連技術支援拠点機能強化・補助金関連事務担当：4名（産技C事務職員と兼務）

■イノベーション推進センターによる企業訪問

	H26	H27	H28	H29	H30
訪問企業数	117 企業	272 企業	304 企業	255 企業	264 企業
延べ訪問回数	239 回	533 回	664 回	657 回	681 回

■研究会・セミナー・展示会等の開催状況

名 称	場 所	開催日
国際ミニシンポジウム (Power devices and its related materials)	山口グランドホテル	8/3
やまぐちアクアポニックス研究会オープンセミナー	第2研修室	10/17
国際ミニシンポジウム (Regional technologies focusing on“ H2 & CO2 ”)	山口大学常盤キャンパス	10/30
水素関連技術マッチングセミナー ※個別商談会件数 14 件	多目的ホール	11/8
介護・福祉機器開発セミナー	翠山荘	11/12
地域イノベーション戦略支援プログラム最終成果発表会	山口グランドホテル	1/21
やまぐちバイオ関連産業推進協議会スタートアップセミナー	翠山荘	2/5
医療現場からのニーズ・シーズ発表会	山口大学医学部	3/7
研究開発支援型公募事業への応募に向けた事前準備のための講習会	第1研修室	3/8
医工連携の推進に向けたシーズ発表会	山口大学工学部	3/19

■展示会・商談会等への出展支援

名 称	開催日
イノベーション・ジャパン 2018	8/30-31
Life2018	9/6-8
BioJapan2018	10/10-12
CEATEC JAPAN2018	10/18-19
HOSPEx Japan2018	11/20-22
第 15 回国際水素・燃料電池展～FC EXPO 2019～ ・山口県の取組、企業等の研究開発成果や実用化に向けた試作品等の出展（水素関連） ・出展企業：10、商談件数：1,705 件（内、見積依頼 8 件、後日面談約束 11 件） ※山口県ブース（県・財団・産技 C） ブース来場者：約 3,500 名（推計）	2/27-3/1

■環境・エネルギー分野の製品開発(事業化・商品化)：22件

1	水素ステーション用高圧配管溶接事業
2	水素ガス対応計装システム組立事業
3	電解層製作事業
4	水素製造用電解層表面処理事業
5	水素製造電解システム組立事業
6	熱機能性アクリル粒子
7	オゾンファインバブル排水処理システム用ステンレス層

■環境・エネルギー分野の製品開発(事業化・商品化) (つづき) : 22件

8	オゾンファインバブル排水処理システム用制御装置
9	植物栽培条件比較試験プラン
10	ケナフコアを使用した油吸着材
11	自立機能搭載型 3.5kW 純水素型燃料電池システム
12	粉末梱包自動化装置
13	粉末梱包作業補助装置
14	水素製造装置のチュービング配管の自由曲線化技術
15	水素製造用光触媒等向け光助触媒(銅錯体)
16	水素製造用光触媒等向け光助触媒(コバルト錯体)
17	濃度差水素製造システム用セル部材
18	垂直栽培式可搬型植物工場テナユニット
19	天然素材を活用した自動車内装材の開発
20	水素ステーション用高圧配管溶接
21	水素冷却用膨張タービンシステム用精密インペラ
22	水素冷却用膨張タービンシステム用小型アフタークーラー

■医療関連分野の製品開発(事業化・商品化) : 6件

1	八角断面縫合針を実現するワイヤ伸線加工技術の高度化とその装置※
2	白血病疾患分類用遺伝子検査用チップ(DNA チップ)(研究用)
3	遺伝子検査用チップ(DNA チップ)の自動検査装置(医療用)
4	省電力デバイスによる包括的在宅・訪問医療、看護向け電子聴診解析システム
5	医療・健康分野における水素応用技術開発【水素輸液製造装置】
6	医療・健康分野における水素応用技術開発【水素炭酸風呂】

※H28～29 サポイン成果

■水素関連技術支援拠点機能強化

- 外部アドバイザー派遣：アドバイザー5名、計11件
- 技術検討ワーキンググループへの参加・支援：16グループ（H30年度新規4グループ）
- 補助金交付：1企業（2件）

■取組の成果

分野	項目	H26	H27	H28	H29	H30	累計
環境・エネルギー分野	事業化件数	0件	12件	7件	16件	22件	57件
	新たな研究開発グループ	11組	5組	6組	2組	0組	24組
	新たに参画した企業	15社	8社	21社	10社	8社	62社
医療関連分野	事業化件数	1件	4件	9件	4件	6件	24件
	新たな研究開発グループ	14組	2組	1組	7組	6組	30組
	新たに参画した企業	26社	3社	1社	10社	4社	44社
バイオ関連分野	事業化件数					0件	0件
	新たな研究開発グループ					4組	4組
	新たに参画した企業					5件	5社

第1-1(2) 産学公や企業間連携による研究開発・事業化の促進

中期計画	H30年度の年度計画	評価	H30年度計画の達成状況等の具体的説明	評価の理由等																																											
<p>企業間や産学公が連携した研究開発プロジェクトの発掘等</p> <p>戦略産業分野における企業間や産学公の連携による研究開発プロジェクトの発掘に取り組むとともに、当該プロジェクトが円滑に実施され、県内中堅・中小企業への波及等につながるよう、国等の提案公募型事業（競争的資金）の積極的な活用をはじめとする必要な支援を関係機関と連携しつつ適切に行う。</p>	<p>企業間や産学公が連携した研究開発プロジェクトの発掘等</p> <p>イノベーション推進センターや産学公連携室を中心としたコーディネート活動の一層の充実により、戦略産業の次代を担う研究開発プロジェクトの発掘と、研究開発から事業化までのシナリオ（研究開発・事業化計画）作成の取り組みの強化を図る。</p> <p>また、研究開発プロジェクトの継続的な実施、研究成果の県内中堅・中小企業への技術移転や事業化に向け、国等の提案公募型事業（競争的資金）の積極的な活用をはじめとする必要な支援を、戦略産業分野を重点的に、県、大学、やまぐち産業振興財団等と連携して適切に行う。</p>	4	<p>イノベーション推進センターや産学公連携室を中心として、企業訪問等によるコーディネート活動を積極的に実施し、研究開発から事業化までの計画を策定して、研究開発プロジェクトの競争的資金を獲得し、そのプロジェクトの円滑な実施から事業化までを支援し、多くの事業化に繋がった。</p> <p>特に、<u>イノベーション推進センターを中心とした取組により新たに5件、産学公連携室を中心とした取組により新たに3件の競争的資金に採択された。</u></p> <p>■イノベーション推進センターを中心とした取組による獲得支援 10（うち新規 5件）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>課題名</th> <th>提案公募事業名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>低純度水素及び低カロリーバイオマス対応コージェネレーションシステム開発</td> <td>H28年度やまぐち産業戦略研究開発等補助金（一般枠）</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>高品質 AlN 結晶基板を用いた最短波長領域高出力深紫外LEDの研究開発</td> <td>「高輝度・高効率次世代レーザー技術開発」プロジェクト（NEDO）</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>革新的再エネ利用水素ステーションパッケージ製品開発</td> <td>H29年度水素サプライチェーン技術開発支援補助金</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>オリゴトロフ藻類を用いた、水産加工排水資源化技術の開発</td> <td>H29年度地域産学バリュープログラム(JST)</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>革新的コア医療技術に基づく潜在的アンメット・メディカル・ニーズ市場の開拓及び創造</td> <td>地域イノベーション・エコシステム形成プログラム(文部科学省)</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>縫製技術とエアバック製造技術の加工ノウハウを活かした「医療用加圧縫製製品」の新商品開発、市場調査【新】</td> <td>やまぐち中小企業活力アップ補助金</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>再生医療向け3Dフリージングによる細胞組織凍結保存技術の革新とその装置の開発【新】</td> <td>H30 やまぐち産業イノベーション促進補助金</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>3次元細胞培養を高度化する細胞分注ロボットシステムの開発とその事業化【新】</td> <td>H30 やまぐち産業イノベーション促進補助金</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>AI/IoT/ウェアラブルデバイスによる次世代介護支援システムの開発【新】</td> <td>H30 やまぐち産業イノベーション促進補助金</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>ヒト用高純度DNAワクチンの実用化時代に向けた大容量PCR技術・装置の開発【新】</td> <td>H30 やまぐち産業イノベーション促進補助金</td> </tr> </tbody> </table> <p>※H28年度、H29年度採択事業については、継続審査を受け採択されたものを記載</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>29件(23件)</td> <td>29件(15件)</td> <td>34件(14件)</td> <td>25件(6件)</td> <td>10件(5件)</td> </tr> </tbody> </table> <p>( )内は新規</p>		課題名	提案公募事業名	1	低純度水素及び低カロリーバイオマス対応コージェネレーションシステム開発	H28年度やまぐち産業戦略研究開発等補助金（一般枠）	2	高品質 AlN 結晶基板を用いた最短波長領域高出力深紫外LEDの研究開発	「高輝度・高効率次世代レーザー技術開発」プロジェクト（NEDO）	3	革新的再エネ利用水素ステーションパッケージ製品開発	H29年度水素サプライチェーン技術開発支援補助金	4	オリゴトロフ藻類を用いた、水産加工排水資源化技術の開発	H29年度地域産学バリュープログラム(JST)	5	革新的コア医療技術に基づく潜在的アンメット・メディカル・ニーズ市場の開拓及び創造	地域イノベーション・エコシステム形成プログラム(文部科学省)	6	縫製技術とエアバック製造技術の加工ノウハウを活かした「医療用加圧縫製製品」の新商品開発、市場調査【新】	やまぐち中小企業活力アップ補助金	7	再生医療向け3Dフリージングによる細胞組織凍結保存技術の革新とその装置の開発【新】	H30 やまぐち産業イノベーション促進補助金	8	3次元細胞培養を高度化する細胞分注ロボットシステムの開発とその事業化【新】	H30 やまぐち産業イノベーション促進補助金	9	AI/IoT/ウェアラブルデバイスによる次世代介護支援システムの開発【新】	H30 やまぐち産業イノベーション促進補助金	10	ヒト用高純度DNAワクチンの実用化時代に向けた大容量PCR技術・装置の開発【新】	H30 やまぐち産業イノベーション促進補助金	H26	H27	H28	H29	H30	29件(23件)	29件(15件)	34件(14件)	25件(6件)	10件(5件)	<p>年度計画を十分達成</p> <p>・イノベーション推進センター及び産学公連携室を中心とした取組による競争的資金の獲得支援と、多くの事業化</p>
	課題名	提案公募事業名																																													
1	低純度水素及び低カロリーバイオマス対応コージェネレーションシステム開発	H28年度やまぐち産業戦略研究開発等補助金（一般枠）																																													
2	高品質 AlN 結晶基板を用いた最短波長領域高出力深紫外LEDの研究開発	「高輝度・高効率次世代レーザー技術開発」プロジェクト（NEDO）																																													
3	革新的再エネ利用水素ステーションパッケージ製品開発	H29年度水素サプライチェーン技術開発支援補助金																																													
4	オリゴトロフ藻類を用いた、水産加工排水資源化技術の開発	H29年度地域産学バリュープログラム(JST)																																													
5	革新的コア医療技術に基づく潜在的アンメット・メディカル・ニーズ市場の開拓及び創造	地域イノベーション・エコシステム形成プログラム(文部科学省)																																													
6	縫製技術とエアバック製造技術の加工ノウハウを活かした「医療用加圧縫製製品」の新商品開発、市場調査【新】	やまぐち中小企業活力アップ補助金																																													
7	再生医療向け3Dフリージングによる細胞組織凍結保存技術の革新とその装置の開発【新】	H30 やまぐち産業イノベーション促進補助金																																													
8	3次元細胞培養を高度化する細胞分注ロボットシステムの開発とその事業化【新】	H30 やまぐち産業イノベーション促進補助金																																													
9	AI/IoT/ウェアラブルデバイスによる次世代介護支援システムの開発【新】	H30 やまぐち産業イノベーション促進補助金																																													
10	ヒト用高純度DNAワクチンの実用化時代に向けた大容量PCR技術・装置の開発【新】	H30 やまぐち産業イノベーション促進補助金																																													
H26	H27	H28	H29	H30																																											
29件(23件)	29件(15件)	34件(14件)	25件(6件)	10件(5件)																																											

■産学公連携室を中心とした取組による獲得 10件（うち新規3件）

	課題名	提案公募事業名
1	和食ブームを支えるワサビの施設化による超促成・高付加価値生産技術の実証	H28 年度革新的技術開発・緊急展開事業
2	「山田錦」レベルの優れた適性を有する酒米新品種と革新的栽培・醸造技術の活用による日本酒輸出倍増戦略	H28 年度革新的技術開発・緊急展開事業
3	国産果実の供給期間拡大を目指した鮮度保持・栽培技術の開発	H28 年度革新的技術開発・緊急展開事業
4	下関の「ふく」の差別化と輸出拡大のためのIT利用「めきき」技術の開発	H28 年度革新的技術開発・緊急展開事業
5	EMI 測定環境の相関性評価のための疑似試験機の開発と評価法の確立	中国電力技術研究財団 (H29 年度事業)
6	金属3Dプリンターを用いた複雑形状ダイカスト金型における加工技能データを活用した仕上げ工程及びその製造プロセスの構築	H29 年度戦略的基盤技術高度化支援事業
7	めっき技術を応用した水素発生用電極触媒の開発	中国電力技術研究財団 (H30 年度事業)
8	機械加工におけるオイルレス潤滑技術の確立【新】	やまぎん地域企業助成基金 (H30 年度事業)
9	次世代表示技術向けシミュレーションソフトウェアの開発【新】	キューテック研究開発助成金
10	徳地和紙および和紙原料を活用したスマートフォン用装飾ケースの開発【新】	山口市ビジネスマッチング・連携支援補助金

※H28 年度、H29 年度採択事業については、継続審査を受け採択されたものを記載

H26	H27	H28	H29	H30
12 件(9 件)	10 件(4 件)	13 件(11 件)	16 件(10 件)	10 件(3 件)

( ) 内は新規

大項目	第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項
中項目	2 中小企業力の向上に向けたものづくり力の高度化・ブランド化の推進

中 期 目 標	<p>&lt;中小企業力の向上に向けたものづくり力の高度化・ブランド化の推進に関する目標&gt;</p> <p>本県産業を支える中小企業のものづくり力の高度化・ブランド化の推進に資するため、事業化戦略を踏まえた実用化研究に重点的に取り組み、その成果の普及を図るとともに、当該成果を活用した事業化の取組を支援する。</p> <p>また、関係機関との緊密な連携の下、各種技術研究会活動を積極的に展開するとともに、研究開発計画の策定や必要となる資金の獲得を支援し、企業の技術革新の取組を促進する。</p>
------------------	---

第1-2(1) 事業化戦略を踏まえた実用化研究への重点的取組

中期計画	H30年度の年度計画	評定	H30年度計画の達成状況等の具体的説明	評定の理由等						
<p>第2期技術戦略の明示と計画的な研究開発の実施</p> <p>企業のニーズや県の産業振興施策の動向を踏まえつつ、事業化を視野に入れた実用化研究に重点的に取り組む。</p> <p>具体的には、第2期「技術戦略」の中で、以下の3つの方向性に沿って</p> <p>センターが研究開発を行う技術(重点技術)と当該重点技術ごとの取組方針や実施工程(ロードマップ)を明示し、センターの研究開発を計画的に行う。</p> <p>① 戦略産業分野への県内企業の参入の先導</p> <p>② 県内企業のものづくり技術の高度化促進</p> <p>③ 地域の魅力を活かした製品開発のための企画段階からのセンターの参画</p>	<p>第2期技術戦略の明示と計画的な研究開発の実施</p> <p>策定した第2期「技術戦略」を、県内企業へ向けて積極的に見える化を推進すると共に、技術戦略に基づく事業化を視野に入れた実用化研究を重点的に実施する。</p> <p>なお、技術戦略に掲げる研究開発の3つの方向性における平成30年度の主な研究開発テーマは、次のとおりである。</p> <p>①戦略産業分野への県内企業の参入の先導</p> <p>・めっき技術を応用したアルカリ水電解用電極の開発</p>	3	<p>技術戦略&lt;第2期&gt;[ロードマップ](H27.3策定・刊行)を広く配布し、法人が取り組む技術戦略を分かり易く示した。</p> <p>その技術戦略に基づく実用化研究は概ね順調に進み、H30年度に実施した主要な研究開発6テーマ中、1テーマ(魅力ある製品づくり)で県内企業と3件の事業化に向けた取り組みが始まり、2テーマ(めっき技術、3Dものづくり)で、競争的資金の獲得に発展した。</p> <p>①戦略産業分野への県内企業の参入の先導</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="text-align: center;">研究テーマ (期間)</td> <td>めっき技術を応用したアルカリ水電解用電極の開発 (H29-30)</td> </tr> <tr> <td colspan="2">進捗状況(100%)</td> </tr> <tr> <td colspan="2"> <p>山口県の副生水素発生量は、全国の1割を占め、そのうち食塩電解工業(苛性ソーダ工場)が1割を占める。その食塩電解工業に用いる電極の一部がめっき技術を応用して製作されている。また、水素発生側の陰極電極は、食塩電解のみならず、国が研究を推進しているアルカリ水電解、県内企業が取り組んでいるバイオエタノールからのエネルギー回収用の電極としても応用可能である。しかし、電極として評価するには、高価で技術難易度が高いゼロギャップ電解システムが必要であった。本研究により、ゼロギャップ式電極材料評価システムを導入し、県内中小企業と共同研究により電極を試作し、従来型のめっき電極より高性能な(電解電圧が小さい)電極の作製技術を確立した。実用化については、時期を見極めながら受託研究事業を利用して進める。</p> </td> </tr> </table>	研究テーマ (期間)	めっき技術を応用したアルカリ水電解用電極の開発 (H29-30)	進捗状況(100%)		<p>山口県の副生水素発生量は、全国の1割を占め、そのうち食塩電解工業(苛性ソーダ工場)が1割を占める。その食塩電解工業に用いる電極の一部がめっき技術を応用して製作されている。また、水素発生側の陰極電極は、食塩電解のみならず、国が研究を推進しているアルカリ水電解、県内企業が取り組んでいるバイオエタノールからのエネルギー回収用の電極としても応用可能である。しかし、電極として評価するには、高価で技術難易度が高いゼロギャップ電解システムが必要であった。本研究により、ゼロギャップ式電極材料評価システムを導入し、県内中小企業と共同研究により電極を試作し、従来型のめっき電極より高性能な(電解電圧が小さい)電極の作製技術を確立した。実用化については、時期を見極めながら受託研究事業を利用して進める。</p>		<p>年度計画を概ね達成</p> <p>・主要な研究開発6テーマ中、1テーマ(3件)で事業化に向けた取組を開始、2テーマで競争的資金の獲得に発展</p>
研究テーマ (期間)	めっき技術を応用したアルカリ水電解用電極の開発 (H29-30)									
進捗状況(100%)										
<p>山口県の副生水素発生量は、全国の1割を占め、そのうち食塩電解工業(苛性ソーダ工場)が1割を占める。その食塩電解工業に用いる電極の一部がめっき技術を応用して製作されている。また、水素発生側の陰極電極は、食塩電解のみならず、国が研究を推進しているアルカリ水電解、県内企業が取り組んでいるバイオエタノールからのエネルギー回収用の電極としても応用可能である。しかし、電極として評価するには、高価で技術難易度が高いゼロギャップ電解システムが必要であった。本研究により、ゼロギャップ式電極材料評価システムを導入し、県内中小企業と共同研究により電極を試作し、従来型のめっき電極より高性能な(電解電圧が小さい)電極の作製技術を確立した。実用化については、時期を見極めながら受託研究事業を利用して進める。</p>										

②県内企業のものづくり技術の高度化促進

- ・精密微細気孔を有する多孔質セラミックスの開発と環境浄化材料への展開
- ・高粘性液体の霧化・乾燥の研究
- ・3D ものづくり技術による高度な調査研究と実用的な活用事例研究

②県内企業のものづくり技術の高度化促進

研究テーマ (期 間)	精密微細気孔を有する多孔質セラミックスの開発と環境浄化材料への展開 (H30)
進捗状況 (100%)	
<p>ウォラストナイトを主原料とする多孔質セラミックス (平均細孔径: 1.3 μm) を水処理用セラミックフィルターとして用途展開することを検討するために濾過性能試験を実施した。</p> <p>当該セラミックフィルターは他社製品 (平均細孔径: 0.8 μm および 1.4 μm) と同程度の濾過速度を有しており、中位径が1.7~2.5 μm の試験粉体 (関東ローム) を分散した懸濁水を一定の濾過圧で連続濾過すると膜分離によって清水が得られることを確認し、当該セラミックフィルターが河川などの泥水を濾過する際に有効であることを見出した。</p>	

研究テーマ (期 間)	高粘性液体の霧化・乾燥の研究 (H29-30)
進捗状況 (100%)	
<p>ミスト研削加工を実現するため、以前開発した10[mPa・s]までの粘性液体を霧化できる技術をもとに、より高粘度な液体の微粒化、乾燥を高効率にできる技術開発を行う。</p> <p><b>【研究成果】</b></p> <p>(1) 高粘性液体の霧化については、霧化装置の超音波振動子の幾何的配置及び形状を検討し、振動子の最適な配置を実現した。その結果、従来の霧化限界であった液体粘度を10[mPa・s]から40[mPa・s]に向上できた。</p> <p>(2) 高粘性液体の乾燥については、水の蒸発可能な条件が実現できる装置を開発し、更に被乾燥物の体積をより小さくすることで、数10[mPa・s]の高粘性液体から乾燥物を得ることができた。</p> <p>(3) 乾燥物を捕集した結果、乾燥形態は高粘性液体に応じて破裂して乾燥するものと収縮して乾燥するものの2種類あることが分かった。乾燥物の大きさはナノ粒子サイズであった。</p>	

	<p>③地域の魅力を活かした製品開発のため企画段階からのセンターの参画</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・凍結茶葉を用いた山口県産和紅茶の品質向上製造技術の開発</li> <li>・県内企業の魅力ある製品づくりのための企画・開発</li> </ul> <p>「3D ものづくり技術による高度な調査研究と実用的な活用事例研究」と「県内企業の魅力ある製品づくりのための企画・開発」については、それぞれ技術グループ横断的な「3D ものづくりチーム」と「製品開発チーム」により実施する。</p>	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="1338 260 1555 331">研究テーマ (期 間)</td> <td data-bbox="1555 260 2703 331">3Dものづくり技術による高度な調査研究と実用的な活用事例研究 (H29-30)</td> </tr> <tr> <td colspan="2" data-bbox="1338 331 2703 1129"> <p>進捗状況 (100%)</p> <p>&lt;金属3Dプリンター活用事例研究&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・金属積層造形の特性に関する調査 マルエージング鋼積層造形物に発生したクラックについて原因を調査した。原料粉の元素分析の結果、クラックが発生した原料粉(LPW製)は、酸化物形成能が高い元素(Al, Si, Ti, Cr)の含有率が高かった。</li> <li>金属 3D 積層造形技術における雰囲気ガスや造形粉末などの最適条件の研究(企業との共同研究)では、Ti6Al4V や AlSi10Mg 粉末を用いて Ar や He 等の不活性ガス雰囲気での造形の最適条件の検討を行い、各種条件がポロシティ、相対密度へ及ぼす影響を調査した。</li> <li>・ニーズに基づいた高度な活用事例研究 新事業創造支援センター入居企業に対し共同研究を提案したが具体的な進展はなかった。</li> <li>・JKA 補助事業「ブラスト研磨による3D積層モデルの表面仕上げに関する研究」 金属積層造形機を用いて作製したマルエージング鋼積層造形物に対してショットピーニングを施し、深さ方向に対する残留応力の測定を行い、金属積層造形物においてもショットピーニングの効果があることを確認した。</li> <li>&lt;樹脂系3Dプリンター活用事例研究&gt; JKAの補助事業「ブラスト研磨による3D積層モデルの表面仕上げに関する研究」を実施し、精密研磨用(ブロワ式)ブラスト装置にて3D積層樹脂サンプル片に対して研磨実験を実施し、研磨回数と表面粗さの関係について基礎データを蓄積した。 ニーズに基づく事例研究ではマスターモデルを使用しないシリコン型の製作手法やパンの成形型の試作を行うことができた。</li> <li>&lt;3Dものづくり手法の調査・研究&gt; 「付加製造技術を活用した検査治工具の高度化に関する研究」や「3D3プロジェクト」を計画通りに実施した。ニーズに基づく事例研究では、構造最適化に関する研究を2件、実施した。 また、JKA補助事業においてブラスト研磨による3D積層モデルの表面粗さについて評価・分析を行った。</li> </ul> </td> </tr> </table> <p>③地域の魅力を活かした製品開発のため企画段階からのセンターの参画</p> <table border="1"> <tr> <td data-bbox="1338 1230 1555 1302">研究テーマ (期 間)</td> <td data-bbox="1555 1230 2703 1302">凍結茶葉を用いた山口県産和紅茶の品質向上製造技術の開発 (H30-31)</td> </tr> <tr> <td colspan="2" data-bbox="1338 1302 2703 1751"> <p>進捗状況 (70%)</p> <p>年間を通じて安定的に紅茶を製造することを目的に、原料茶葉の保存方法を検討した。これまでの研究により、茶葉を摘採後そのまま凍結すると生葉に比べ紅茶の品質(香り・水色)が低下することを確認した。そこで、茶葉を凍結保存する前に萎凋し、その品質改善効果を検証した。</p> <p>生葉、凍結茶葉及び萎凋後凍結茶葉を使用した紅茶について、香り及び水色を比較した。その結果、凍結前に萎凋することにより、全体的な香り強度の大幅な減少を抑えることができたが、特徴的な香りとして捉えているハーブ・青草様の香りについては減少を抑えることができなかった。一方、紅茶特有の香りであるLinaloolは、生葉には劣るが萎凋により、70%程度に減少を抑えることができた。</p> <p>また、明度・彩度及び赤み・黄色みは、萎凋の有無に関わらず、凍結保存することにより減少した。但し、赤みについては、凍結前萎凋により、そのまま凍結したものよりもやや強くなった。</p> </td> </tr> </table> <p>※ 進捗状況については、当該年度目標に対するものである。</p>	研究テーマ (期 間)	3Dものづくり技術による高度な調査研究と実用的な活用事例研究 (H29-30)	<p>進捗状況 (100%)</p> <p>&lt;金属3Dプリンター活用事例研究&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・金属積層造形の特性に関する調査 マルエージング鋼積層造形物に発生したクラックについて原因を調査した。原料粉の元素分析の結果、クラックが発生した原料粉(LPW製)は、酸化物形成能が高い元素(Al, Si, Ti, Cr)の含有率が高かった。</li> <li>金属 3D 積層造形技術における雰囲気ガスや造形粉末などの最適条件の研究(企業との共同研究)では、Ti6Al4V や AlSi10Mg 粉末を用いて Ar や He 等の不活性ガス雰囲気での造形の最適条件の検討を行い、各種条件がポロシティ、相対密度へ及ぼす影響を調査した。</li> <li>・ニーズに基づいた高度な活用事例研究 新事業創造支援センター入居企業に対し共同研究を提案したが具体的な進展はなかった。</li> <li>・JKA 補助事業「ブラスト研磨による3D積層モデルの表面仕上げに関する研究」 金属積層造形機を用いて作製したマルエージング鋼積層造形物に対してショットピーニングを施し、深さ方向に対する残留応力の測定を行い、金属積層造形物においてもショットピーニングの効果があることを確認した。</li> <li>&lt;樹脂系3Dプリンター活用事例研究&gt; JKAの補助事業「ブラスト研磨による3D積層モデルの表面仕上げに関する研究」を実施し、精密研磨用(ブロワ式)ブラスト装置にて3D積層樹脂サンプル片に対して研磨実験を実施し、研磨回数と表面粗さの関係について基礎データを蓄積した。 ニーズに基づく事例研究ではマスターモデルを使用しないシリコン型の製作手法やパンの成形型の試作を行うことができた。</li> <li>&lt;3Dものづくり手法の調査・研究&gt; 「付加製造技術を活用した検査治工具の高度化に関する研究」や「3D3プロジェクト」を計画通りに実施した。ニーズに基づく事例研究では、構造最適化に関する研究を2件、実施した。 また、JKA補助事業においてブラスト研磨による3D積層モデルの表面粗さについて評価・分析を行った。</li> </ul>		研究テーマ (期 間)	凍結茶葉を用いた山口県産和紅茶の品質向上製造技術の開発 (H30-31)	<p>進捗状況 (70%)</p> <p>年間を通じて安定的に紅茶を製造することを目的に、原料茶葉の保存方法を検討した。これまでの研究により、茶葉を摘採後そのまま凍結すると生葉に比べ紅茶の品質(香り・水色)が低下することを確認した。そこで、茶葉を凍結保存する前に萎凋し、その品質改善効果を検証した。</p> <p>生葉、凍結茶葉及び萎凋後凍結茶葉を使用した紅茶について、香り及び水色を比較した。その結果、凍結前に萎凋することにより、全体的な香り強度の大幅な減少を抑えることができたが、特徴的な香りとして捉えているハーブ・青草様の香りについては減少を抑えることができなかった。一方、紅茶特有の香りであるLinaloolは、生葉には劣るが萎凋により、70%程度に減少を抑えることができた。</p> <p>また、明度・彩度及び赤み・黄色みは、萎凋の有無に関わらず、凍結保存することにより減少した。但し、赤みについては、凍結前萎凋により、そのまま凍結したものよりもやや強くなった。</p>	
研究テーマ (期 間)	3Dものづくり技術による高度な調査研究と実用的な活用事例研究 (H29-30)									
<p>進捗状況 (100%)</p> <p>&lt;金属3Dプリンター活用事例研究&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・金属積層造形の特性に関する調査 マルエージング鋼積層造形物に発生したクラックについて原因を調査した。原料粉の元素分析の結果、クラックが発生した原料粉(LPW製)は、酸化物形成能が高い元素(Al, Si, Ti, Cr)の含有率が高かった。</li> <li>金属 3D 積層造形技術における雰囲気ガスや造形粉末などの最適条件の研究(企業との共同研究)では、Ti6Al4V や AlSi10Mg 粉末を用いて Ar や He 等の不活性ガス雰囲気での造形の最適条件の検討を行い、各種条件がポロシティ、相対密度へ及ぼす影響を調査した。</li> <li>・ニーズに基づいた高度な活用事例研究 新事業創造支援センター入居企業に対し共同研究を提案したが具体的な進展はなかった。</li> <li>・JKA 補助事業「ブラスト研磨による3D積層モデルの表面仕上げに関する研究」 金属積層造形機を用いて作製したマルエージング鋼積層造形物に対してショットピーニングを施し、深さ方向に対する残留応力の測定を行い、金属積層造形物においてもショットピーニングの効果があることを確認した。</li> <li>&lt;樹脂系3Dプリンター活用事例研究&gt; JKAの補助事業「ブラスト研磨による3D積層モデルの表面仕上げに関する研究」を実施し、精密研磨用(ブロワ式)ブラスト装置にて3D積層樹脂サンプル片に対して研磨実験を実施し、研磨回数と表面粗さの関係について基礎データを蓄積した。 ニーズに基づく事例研究ではマスターモデルを使用しないシリコン型の製作手法やパンの成形型の試作を行うことができた。</li> <li>&lt;3Dものづくり手法の調査・研究&gt; 「付加製造技術を活用した検査治工具の高度化に関する研究」や「3D3プロジェクト」を計画通りに実施した。ニーズに基づく事例研究では、構造最適化に関する研究を2件、実施した。 また、JKA補助事業においてブラスト研磨による3D積層モデルの表面粗さについて評価・分析を行った。</li> </ul>										
研究テーマ (期 間)	凍結茶葉を用いた山口県産和紅茶の品質向上製造技術の開発 (H30-31)									
<p>進捗状況 (70%)</p> <p>年間を通じて安定的に紅茶を製造することを目的に、原料茶葉の保存方法を検討した。これまでの研究により、茶葉を摘採後そのまま凍結すると生葉に比べ紅茶の品質(香り・水色)が低下することを確認した。そこで、茶葉を凍結保存する前に萎凋し、その品質改善効果を検証した。</p> <p>生葉、凍結茶葉及び萎凋後凍結茶葉を使用した紅茶について、香り及び水色を比較した。その結果、凍結前に萎凋することにより、全体的な香り強度の大幅な減少を抑えることができたが、特徴的な香りとして捉えているハーブ・青草様の香りについては減少を抑えることができなかった。一方、紅茶特有の香りであるLinaloolは、生葉には劣るが萎凋により、70%程度に減少を抑えることができた。</p> <p>また、明度・彩度及び赤み・黄色みは、萎凋の有無に関わらず、凍結保存することにより減少した。但し、赤みについては、凍結前萎凋により、そのまま凍結したものよりもやや強くなった。</p>										

			<table border="1"> <tr> <td data-bbox="1329 254 1555 327">研究テーマ (期 間)</td> <td data-bbox="1555 254 2736 327">県内企業の魅力ある製品づくりのための企画・開発 (H29-30)</td> </tr> <tr> <td colspan="2" data-bbox="1329 327 2736 1629"> <p><b>【テーマ1 家庭用小型搾油機の開発】</b> 研究期間：H29.4～H31.2 進捗状況 (100%)</p> <p>本テーマは、共同開発のテストケースとして平成29年度より製品企画および設計検討を実施し、本年度、以下の項目を実施し搾油機の試作が完成した。対象企業によりさらなる軽量化のための設計変更等が検討され、製品化モデルが完成した。</p> <p>1. 製品設計の共同実施</p> <p>①搾油機の筐体設計 筐体の設計では、組み立てやすさ、筐体表面に極力ネジを見せない、安全対策用部品の追加、軽量化、低コスト化などに配慮して設計検討を行った。</p> <p>②搾油に使用する用品の設計修正および試作 対象企業が作成した油受けと搾りカス受け容器の3Dデータをもとに、掃除のしやすさや強度に配慮した設計修正および真空注型による試作を行った。</p> <p><b>【テーマ2 パームグリップ歯ブラシの開発】</b> 研究期間：H30.6～H30.12 進捗状況 (100%)</p> <p>以下の項目を実施し、歯ブラシの試作が完成した。また、対象企業により金型製作および試験成形が行われ、植毛について検討後に製品化予定である。</p> <p>1. 製品企画の共同実施 他社製品の調査と開発する製品の方向性の検討、アンケート調査および歯磨き中の映像観察による使用者の潜在ニーズの抽出を行い、製品開発コンセプトを設定した。</p> <p>2. ハンドルのデザイン設計 人体寸法データの活用、3Dモデルを使用した好ましいハンドル形状の調査結果などから、ハンドルの断面形状や寸法を検討しデザイン設計を行った。また、3Dモデルを作製し使いやすさの評価試験を行った。評価結果をもとに歯ブラシ全体のデザイン設計検討を行い、試作モデルを作製した。</p> <p>3. 意匠登録の共同出願済</p> <p><b>【テーマ3 白狐カクテル用カップの開発】</b> 研究期間：H30.12～ 進捗状況 (40%)</p> <p>本製品企画を共同で検討した結果、湯田温泉を訪れた顧客が白狐カクテルを飲んだ記念として購入されると思われる関連製品のアイデア出しを共同で行い、実際の顧客に試作モデルを見せてユーザー評価を実施することとした。この調査結果をもとに、開発製品の絞り込みや製品デザイン検討を行う予定である。</p> <p>1. 白狐カクテルに関連する製品のアイデア出し (済)</p> <p>2. 試作モデルの作製と機能の確認 (済)</p> <p>3. 試作モデルを使用した顧客へのヒアリング (実施中)</p> </td> </tr> <tr> <td colspan="2" data-bbox="1329 1629 2736 1843"> <p>※ 進捗状況については、各テーマの開発目標に対するものである。</p> </td> </tr> </table>	研究テーマ (期 間)	県内企業の魅力ある製品づくりのための企画・開発 (H29-30)	<p><b>【テーマ1 家庭用小型搾油機の開発】</b> 研究期間：H29.4～H31.2 進捗状況 (100%)</p> <p>本テーマは、共同開発のテストケースとして平成29年度より製品企画および設計検討を実施し、本年度、以下の項目を実施し搾油機の試作が完成した。対象企業によりさらなる軽量化のための設計変更等が検討され、製品化モデルが完成した。</p> <p>1. 製品設計の共同実施</p> <p>①搾油機の筐体設計 筐体の設計では、組み立てやすさ、筐体表面に極力ネジを見せない、安全対策用部品の追加、軽量化、低コスト化などに配慮して設計検討を行った。</p> <p>②搾油に使用する用品の設計修正および試作 対象企業が作成した油受けと搾りカス受け容器の3Dデータをもとに、掃除のしやすさや強度に配慮した設計修正および真空注型による試作を行った。</p> <p><b>【テーマ2 パームグリップ歯ブラシの開発】</b> 研究期間：H30.6～H30.12 進捗状況 (100%)</p> <p>以下の項目を実施し、歯ブラシの試作が完成した。また、対象企業により金型製作および試験成形が行われ、植毛について検討後に製品化予定である。</p> <p>1. 製品企画の共同実施 他社製品の調査と開発する製品の方向性の検討、アンケート調査および歯磨き中の映像観察による使用者の潜在ニーズの抽出を行い、製品開発コンセプトを設定した。</p> <p>2. ハンドルのデザイン設計 人体寸法データの活用、3Dモデルを使用した好ましいハンドル形状の調査結果などから、ハンドルの断面形状や寸法を検討しデザイン設計を行った。また、3Dモデルを作製し使いやすさの評価試験を行った。評価結果をもとに歯ブラシ全体のデザイン設計検討を行い、試作モデルを作製した。</p> <p>3. 意匠登録の共同出願済</p> <p><b>【テーマ3 白狐カクテル用カップの開発】</b> 研究期間：H30.12～ 進捗状況 (40%)</p> <p>本製品企画を共同で検討した結果、湯田温泉を訪れた顧客が白狐カクテルを飲んだ記念として購入されると思われる関連製品のアイデア出しを共同で行い、実際の顧客に試作モデルを見せてユーザー評価を実施することとした。この調査結果をもとに、開発製品の絞り込みや製品デザイン検討を行う予定である。</p> <p>1. 白狐カクテルに関連する製品のアイデア出し (済)</p> <p>2. 試作モデルの作製と機能の確認 (済)</p> <p>3. 試作モデルを使用した顧客へのヒアリング (実施中)</p>		<p>※ 進捗状況については、各テーマの開発目標に対するものである。</p>	
研究テーマ (期 間)	県内企業の魅力ある製品づくりのための企画・開発 (H29-30)								
<p><b>【テーマ1 家庭用小型搾油機の開発】</b> 研究期間：H29.4～H31.2 進捗状況 (100%)</p> <p>本テーマは、共同開発のテストケースとして平成29年度より製品企画および設計検討を実施し、本年度、以下の項目を実施し搾油機の試作が完成した。対象企業によりさらなる軽量化のための設計変更等が検討され、製品化モデルが完成した。</p> <p>1. 製品設計の共同実施</p> <p>①搾油機の筐体設計 筐体の設計では、組み立てやすさ、筐体表面に極力ネジを見せない、安全対策用部品の追加、軽量化、低コスト化などに配慮して設計検討を行った。</p> <p>②搾油に使用する用品の設計修正および試作 対象企業が作成した油受けと搾りカス受け容器の3Dデータをもとに、掃除のしやすさや強度に配慮した設計修正および真空注型による試作を行った。</p> <p><b>【テーマ2 パームグリップ歯ブラシの開発】</b> 研究期間：H30.6～H30.12 進捗状況 (100%)</p> <p>以下の項目を実施し、歯ブラシの試作が完成した。また、対象企業により金型製作および試験成形が行われ、植毛について検討後に製品化予定である。</p> <p>1. 製品企画の共同実施 他社製品の調査と開発する製品の方向性の検討、アンケート調査および歯磨き中の映像観察による使用者の潜在ニーズの抽出を行い、製品開発コンセプトを設定した。</p> <p>2. ハンドルのデザイン設計 人体寸法データの活用、3Dモデルを使用した好ましいハンドル形状の調査結果などから、ハンドルの断面形状や寸法を検討しデザイン設計を行った。また、3Dモデルを作製し使いやすさの評価試験を行った。評価結果をもとに歯ブラシ全体のデザイン設計検討を行い、試作モデルを作製した。</p> <p>3. 意匠登録の共同出願済</p> <p><b>【テーマ3 白狐カクテル用カップの開発】</b> 研究期間：H30.12～ 進捗状況 (40%)</p> <p>本製品企画を共同で検討した結果、湯田温泉を訪れた顧客が白狐カクテルを飲んだ記念として購入されると思われる関連製品のアイデア出しを共同で行い、実際の顧客に試作モデルを見せてユーザー評価を実施することとした。この調査結果をもとに、開発製品の絞り込みや製品デザイン検討を行う予定である。</p> <p>1. 白狐カクテルに関連する製品のアイデア出し (済)</p> <p>2. 試作モデルの作製と機能の確認 (済)</p> <p>3. 試作モデルを使用した顧客へのヒアリング (実施中)</p>									
<p>※ 進捗状況については、各テーマの開発目標に対するものである。</p>									

第1-2(2) 研究開発成果の普及とその活用

中期計画	H30年度の年度計画	評価	H30年度計画の達成状況等の具体的説明	評価の理由等																																																						
<p>ア 研究開発成果の発信とその成果の活用支援</p> <p>センターの研究開発成果については、研究会や企業訪問等により県内企業に広く発信するとともに、共同研究・受託研究などにより企業に移転する取組を推進する。</p> <p>また、企業においてセンターの研究開発成果の実用化が滞りなく進捗できるよう、関係職員によるフォローアップを継続的に行う。</p>	<p>ア 研究開発成果の発信とその成果の活用支援</p> <p>研究会や研究（技術）発表会の開催、展示会への出展、コーディネータや研究員の企業訪問、研究・業務報告書の刊行、ホームページ等様々な方法により研究開発成果を県内企業に発信するとともに、共同研究・受託研究などにより企業に移転する取組を推進する。</p> <p>また、成果を移転した企業に対し、研究担当者等の関係職員がフォローアップを継続的に行う。</p>	3	<p>研究会や研究（技術）発表会の開催、コーディネータや研究員の企業訪問、研究・業務報告書の刊行、ホームページ等様々な方法により県内企業に発信した。</p> <p>また、研究開発成果を事業化する上で必要となる製品化研究を技術移転する企業から資金を得て実施するとともに、研究担当者やコーディネータがフォローアップのための企業訪問を継続的に行うことにより、4件の事業化・商品化実績があった。</p> <p>■研究開発事業化・商品化実績</p> <table border="1"> <tr><td>1</td><td>畑ワサビの葉を薬味に使用した『ふく茶漬』の商品化</td></tr> <tr><td>2</td><td>地産地消型環境共生住宅の開発</td></tr> <tr><td>3</td><td>『とらふく出汁入味噌』商品化支援</td></tr> <tr><td>4</td><td>『わさびまんじゅう(雪どけ大福)』の改良</td></tr> </table> <p>■研究開発事業化・商品化実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">第1期</th> <th colspan="5">第2期</th> </tr> <tr> <th>H21</th><th>H22</th><th>H23</th><th>H24</th><th>H25</th> <th>H26</th><th>H27</th><th>H28</th><th>H29</th><th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>6</td><td>5</td> <td>5</td><td>4</td><td>4</td><td>7</td><td>4</td> </tr> </tbody> </table> <p>■巡回技術報告会、技術発表会の実施状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>開催日</th> <th>参加者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回巡回技術報告会in周南地域地場産業振興センター</td> <td>11/27</td> <td>26名</td> </tr> <tr> <td>やまぐち事業化支援・連携コーディネート会議「シーズ・ニーズ発表展示」</td> <td>1/18</td> <td>80名</td> </tr> <tr> <td>技術発表会</td> <td>3/13</td> <td>88名</td> </tr> </tbody> </table> <p>■刊行物の発行状況</p> <table border="1"> <tr> <td>研究報告書</td> <td>600部</td> </tr> <tr> <td>業務報告書</td> <td>600部</td> </tr> </table>	1	畑ワサビの葉を薬味に使用した『ふく茶漬』の商品化	2	地産地消型環境共生住宅の開発	3	『とらふく出汁入味噌』商品化支援	4	『わさびまんじゅう(雪どけ大福)』の改良	第1期					第2期					H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	1	2	3	6	5	5	4	4	7	4	名称	開催日	参加者数	第1回巡回技術報告会in周南地域地場産業振興センター	11/27	26名	やまぐち事業化支援・連携コーディネート会議「シーズ・ニーズ発表展示」	1/18	80名	技術発表会	3/13	88名	研究報告書	600部	業務報告書	600部	<p>年度計画を概ね達成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>研究報告書等の刊行、ホームページ、技術発表会等により研究開発成果を積極的に発信</li> <li>共同研究・受託研究の実施とフォローアップのための企業訪問</li> <li>4件の事業化・商品化実績</li> </ul>
1	畑ワサビの葉を薬味に使用した『ふく茶漬』の商品化																																																									
2	地産地消型環境共生住宅の開発																																																									
3	『とらふく出汁入味噌』商品化支援																																																									
4	『わさびまんじゅう(雪どけ大福)』の改良																																																									
第1期					第2期																																																					
H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30																																																	
1	2	3	6	5	5	4	4	7	4																																																	
名称	開催日	参加者数																																																								
第1回巡回技術報告会in周南地域地場産業振興センター	11/27	26名																																																								
やまぐち事業化支援・連携コーディネート会議「シーズ・ニーズ発表展示」	1/18	80名																																																								
技術発表会	3/13	88名																																																								
研究報告書	600部																																																									
業務報告書	600部																																																									

			<p>■企業から資金を得て実施する共同研究・受託研究の実施状況</p> <table border="1"> <tr> <th>担当グループ</th> <th>共同研究</th> <th>受託研究</th> </tr> <tr> <td>加工技術グループ</td> <td></td> <td>1テーマ</td> </tr> <tr> <td>設計制御グループ</td> <td>2テーマ</td> <td>1テーマ</td> </tr> <tr> <td>電子応用グループ</td> <td>1テーマ</td> <td>1テーマ</td> </tr> <tr> <td>材料技術グループ</td> <td>6*テーマ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>環境技術グループ</td> <td></td> <td>2テーマ</td> </tr> <tr> <td>デザイングループ</td> <td></td> <td>1テーマ</td> </tr> <tr> <td>食品技術グループ</td> <td>1テーマ</td> <td>2テーマ</td> </tr> <tr> <td>製品開発チーム</td> <td>2テーマ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>技術相談室</td> <td>1*テーマ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>企業支援部</td> <td></td> <td>1テーマ</td> </tr> </table> <p>* 内1件は材料技術Gと技術相談室共同実施</p>	担当グループ	共同研究	受託研究	加工技術グループ		1テーマ	設計制御グループ	2テーマ	1テーマ	電子応用グループ	1テーマ	1テーマ	材料技術グループ	6*テーマ		環境技術グループ		2テーマ	デザイングループ		1テーマ	食品技術グループ	1テーマ	2テーマ	製品開発チーム	2テーマ		技術相談室	1*テーマ		企業支援部		1テーマ																																																							
担当グループ	共同研究	受託研究																																																																																									
加工技術グループ		1テーマ																																																																																									
設計制御グループ	2テーマ	1テーマ																																																																																									
電子応用グループ	1テーマ	1テーマ																																																																																									
材料技術グループ	6*テーマ																																																																																										
環境技術グループ		2テーマ																																																																																									
デザイングループ		1テーマ																																																																																									
食品技術グループ	1テーマ	2テーマ																																																																																									
製品開発チーム	2テーマ																																																																																										
技術相談室	1*テーマ																																																																																										
企業支援部		1テーマ																																																																																									
イ 知的財産の適切な管理	イ 知的財産の適切な管理	3	<p>研究開発成果の知的財産化（職務発明2件、特許出願5件）を速やかに進め、申請から取得、普及（新規実施許諾5件）への対応を適切に行った。また、権利の廃棄・継続を判断するしくみの適切な運用の結果、独法化後最も多い権利処分（過年度失効、期間満了及び放棄：10件）を行った。さらに、他機関の事業を活用して弁理士を交えた技術グループ毎の知財勉強会などを行い、知財管理の質の向上に努めた。</p>	<p>年度計画を概ね達成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>研究開発成果の速やかな知的財産化：職務発明 2件、特許出願 5件、審査請求 2件</li> <li>独法化後最も多い権利処分(10件)</li> <li>弁理士を交えた技術グループ毎の知財勉強会の開催</li> </ul>																																																																																							
<p>研究開発成果の知的財産化を速やかに進め、申請から取得、普及、侵害への対応に至る管理を適切に行う。</p>	<p>研究開発成果の知的財産化を速やかに進め、申請から取得、普及、侵害への対応に至る管理を適切に行う。</p> <p>また、審査請求有無、早期審査請求、権利の廃棄・継続について判断するしくみを本格実施する。</p>		<p>■知的財産管理</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th colspan="5">第1期</th> <th colspan="5">第2期</th> </tr> <tr> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>職務発明</td> <td>5</td> <td>8</td> <td>15</td> <td>7</td> <td>6</td> <td>7</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>7</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>特許等出願</td> <td>5</td> <td>8</td> <td>15</td> <td>5</td> <td>8</td> <td>5</td> <td>7</td> <td>2</td> <td>9</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>審査請求(内早期)</td> <td>5(0)</td> <td>11(0)</td> <td>5(0)</td> <td>2(0)</td> <td>9(0)</td> <td>3(0)</td> <td>6(0)</td> <td>4(0)</td> <td>6(1)</td> <td>2(0)</td> </tr> <tr> <td>特許登録</td> <td>3</td> <td>6</td> <td>6</td> <td>10</td> <td>8</td> <td>6</td> <td>8</td> <td>6</td> <td>5</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>権利の処分*</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>9</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>新規実施許諾</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>5</td> <td>4</td> <td>6</td> <td>5</td> <td>6</td> </tr> </tbody> </table> <p>* 過年度失効、期間満了及び放棄</p>	項目	第1期					第2期					H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	職務発明	5	8	15	7	6	7	4	4	7	2	特許等出願	5	8	15	5	8	5	7	2	9	5	審査請求(内早期)	5(0)	11(0)	5(0)	2(0)	9(0)	3(0)	6(0)	4(0)	6(1)	2(0)	特許登録	3	6	6	10	8	6	8	6	5	4	権利の処分*	1	0	1	1	1	1	0	1	9	10	新規実施許諾	2	2	3	3	2	5	4	6	5	6	
項目	第1期					第2期																																																																																					
	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30																																																																																	
職務発明	5	8	15	7	6	7	4	4	7	2																																																																																	
特許等出願	5	8	15	5	8	5	7	2	9	5																																																																																	
審査請求(内早期)	5(0)	11(0)	5(0)	2(0)	9(0)	3(0)	6(0)	4(0)	6(1)	2(0)																																																																																	
特許登録	3	6	6	10	8	6	8	6	5	4																																																																																	
権利の処分*	1	0	1	1	1	1	0	1	9	10																																																																																	
新規実施許諾	2	2	3	3	2	5	4	6	5	6																																																																																	

		<p>■他機関の事業を活用した研修・勉強会</p> <p>&lt;特許情報検索講習会（山口大学）&gt;  研究職及び事務職の職員2名を参加させ、参加者全員が山口大学の特許検索インストラクターの資格を授与された。</p> <p>&lt;弁理士を交えた技術グループ毎の知財勉強会&gt;</p> <p>加工技術グループ（5/16）、設計制御グループ（7/18）、電子応用グループ（6/20）、材料技術グループ（8/21）、環境技術グループ（10/17）、デザイングループ（9/19）、食品技術グループ（12/18）</p>
--	--	--

第1-2(3) 各種技術研究会活動の積極的展開

中期計画	H30年度の年度計画	評定	H30年度計画の達成状況等の具体的説明	評定の理由等										
各種技術研究会活動の積極的な展開及び研究開発の促進	各種技術研究会活動の積極的な展開及び研究開発の促進	4	<p>各研究会の会員企業への技術支援を継続することにより、「やまぐちブランド技術研究会」では、県内企業の技術革新計画の策定に向けた個別支援の成果として4企業で承認を受けた。</p> <p>「衛星データ解析技術研究会」では、会員を中心にした研究会・技術セミナー・ワーキンググループなどの積極的な活動(20回)を行った。加えて、大学及び企業等の国等の提案公募型研究開発事業への申請を支援し、新たに2テーマが採択された【新】。</p> <p>「やまぐち3Dものづくり研究会」では、通常の研究会活動に加えて、県東部(周南市)にて開催された巡回技術報告会において、研究会活動に関わる情報発信を行った【新】。</p> <p>また、県内企業のIoT導入を促進するため、当初の計画(平成31年度)を前倒して、H30年度新たに「スマート★づくり研究会」を創設した【新】。</p> <p>①やまぐちブランド技術研究会(会員数186 企業184 その他機関2(H31.3末時点)) 「やまぐちブランド技術研究会」では、引き続き、分科会等の研究会活動や県の事業を活用した研究等を通じた支援を行うとともに、「新たなものづくりへの挑戦」に向けた県の支援制度である技術革新計画の承認に向けた支援を行い、支援した4件全てが承認される結果となった。</p> <p>■研究会・分科会の開催</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>内容</th> <th>開催日</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>やまぐちブランド技術研究会</td> <td>3/13</td> </tr> <tr> <td>表面改質・湿式表面処理技術分科会</td> <td>7/24, 2/14</td> </tr> <tr> <td>組込みシステム技術分科会*</td> <td>2/28</td> </tr> <tr> <td>精密加工技術分科会</td> <td>3/15</td> </tr> </tbody> </table> <p>※スマート★づくり研究会と共催</p>	内容	開催日	やまぐちブランド技術研究会	3/13	表面改質・湿式表面処理技術分科会	7/24, 2/14	組込みシステム技術分科会*	2/28	精密加工技術分科会	3/15	<p>年度計画を十分達成</p> <p>・やまぐちブランド技術研究会、新エネルギー研究会活動による継続的支援 (技術革新計画承認4企業)</p> <p>○衛星データ解析技術研究会の積極的な活動(20回)の実施と、提案公募型研究開発事業への申請支援により新たに2テーマが採択【新】</p> <p>○やまぐち3Dものづくり研究会の活動に関わる情報発信を県東部で実施【新】</p> <p>○スマート★づくり研究会の創設【新】</p>
内容	開催日													
やまぐちブランド技術研究会	3/13													
表面改質・湿式表面処理技術分科会	7/24, 2/14													
組込みシステム技術分科会*	2/28													
精密加工技術分科会	3/15													

「新エネルギー研究会」では、県産エネルギーや省エネ機器などの県産資源を利活用するエネルギーシステムやスマートファクトリー等の実現のため、これまでの研究成果の事業化に向けた国等の提案公募型事業（競争的資金）の積極的な活用や分科会活動の成果の横展開を目指すことにより、分科会参画企業の新たなビジネス展開を目指す。

■技術革新計画の策定支援

研究会名	承認数
熱流体工学技術分科会	1件
廃棄物リサイクル技術分科会	1件
組込みシステム技術分科会	1件
表面改質・湿式表面処理技術分科会	1件

②新エネルギー研究会（会員数 61 企業 57 その他機関 4（H31.3末時点））

新エネルギー研究会及び二つの分科会を開催し、県内企業の参画により試作開発や実証実験を行うとともに、会員企業による事業化に向けた取組を行った。

■分科会活動

分科会名	取組内容
水素・再生可能エネルギー利用分科会	<ul style="list-style-type: none"> <li>RE コージェネレーションシステム WG において、県内企業を代表とする複数企業とともに、やまぐち次世代産業育成チャレンジアップ補助金事業を活用して取組を引き続き推進した。</li> <li>高性能断熱容器の提案を目指して、断熱容器の技術的検証を引き続き行った。</li> <li>H25 年度に県内複数企業と試作開発した小型風力発電システムのフィールド実験を引き続き行った。</li> </ul>
スマートファクトリー分科会	<ul style="list-style-type: none"> <li>モデル工場におけるエネルギー監視を継続した。</li> </ul>

■研究会・分科会の開催状況

名 称	開催日
新エネルギー研究会	7/20
水素・再生可能エネルギー利用分科会（ワーキンググループ会議含む）	4/12,8/2,10/4,12/18,1/10,3/26
スマートファクトリー分科会*	2/28

※スマート★づくり研究会と共催

「やまぐち3Dものづくり研究会」では、3Dプリンターなどを活用した3Dものづくりに関連する技術を習得するとともに、その技術を活かして、会員企業の新技術や新製品の開発を支援する。

「衛星データ解析技術研究会」では、JAXA、山口県と連携しながら、宇宙システム開発利用推進機構の支援の元、県内企業の宇宙情報産業への進出を支援する。具体的には、講演会、技術セミナー、ワーキング会議を開催して、技術力向上や事業化テーマ選定を図り、国等のビジネスコンテストや実証プロジェクトを積極的に活用することで事業化を進めていく。

③やまぐち3Dものづくり研究会（会員数 73 企業 64 その他機関 9（H31.3末時点））  
やまぐち3Dものづくり研究会会員に対して、積極的に企業訪問を行い、ニーズに基づいた試作、事例研究等を実施し、下記の実績を上げた。併せて、県東部に於いて開催された（会場：周南地域地場産業振興センター）巡回技術報告会に参加し、研究会活動に関わる情報発信を行った【新】。

【実績】

<金属3Dプリンター>

・企業との共同研究にて「金属3D積層造形技術における雰囲気ガスや造形粉末などの最適条件の研究」を実施した。

<樹脂系3Dプリンター>

・ニーズに基づいた高度な活用事例研究については、パン用の成型型を3Dプリンターで試作・評価した。試作型を使用した製品（パン）が3月に商品化された。

<3Dものづくり手法の調査・研究>

・ニーズに基づいた高度な活用事例研究については「屋根固定用部材」の構造最適化解析を行い、従来と同等以上の剛性を維持しつつ、コスト削減する形状について検討した。  
また、耐震金具について軽量化を目的とした構造最適化解析を実施した。

■研究会

名 称	日 程
巡回技術報告会	11/27
やまぐち3Dものづくり研究会	2/27

④衛星データ解析技術研究会（会員数 49 企業 34 その他機関 15（H31.3末時点））

JAXA機能の一部移転を県内情報産業の育成に繋げるため、H28年度に設立した衛星データ解析技術研究会の活動において研究会、技術セミナー及びワーキンググループを積極的に開催した。

■研究会等

名 称	場 所	開 催 日
衛星データ解析技術研究会	産技センター	5/25,12/20,3/11
技術セミナー	産技センター	4/25,5/9,6/22,7/11,7/18,8/9,8/23,9/6,10/4,11/8,11/22,12/6,2/12
ワーキンググループ	産技センター	10/19,2/27
事業化相談会	産技センター	5/15,5/16

また、県内企業の IoT 導入を促進するため、研究会の創設（平成 31 年度）に向けて準備を進める。

■国等の提案公募型研究開発事業への申請を支援  
大学及び企業等の国等の提案公募型研究開発事業への申請を支援し、2テーマが採択された【新】。  
 (テーマ)「衛星データによる漁業操業ナレッジベース構築と支援サービス事業」(先進的な宇宙利用モデル実証プロジェクト、H30.8-H31.3)  
 (テーマ)「衛星・地上データによるバイオマス資源の地産地消で儲かる林業」(衛星データ統合活用実証事業、H30.7-H31.2)  
 ※両テーマともメンバーとして参加し、事業の推進に大きく貢献

⑤スマート★づくり研究会（会員数 20 企業 20 その他機関 0 個人 0 (H31.3 末時点)）  
当初の計画（平成 31 年度）よりも前倒し、平成 30 年 11 月 1 日にスマート★づくり研究会を創設した。また、研究会を企業等に周知するため、キックオフセミナーを開催するとともに、初回の研究会を開催して正式な活動を開始した【新】。

■研究会等

名 称	場 所	開 催 日
キックオフセミナー	産技センター	12/7
スマート★づくり術研究会	産技センター	2/28

第 1 - 2 ( 4 ) 研究開発計画策定や資金獲得の支援

中期計画	H30 年度の年度計画	評定	H30 年度計画の達成状況等の具体的説明	評定の理由等																								
<p>研究開発計画策定や資金獲得の支援</p> <p>県内企業（企業間連携を含む）の技術に対する「強い思い」を新事業展開につなげるために、県の技術革新計画制度等を活用しつつ、研究開発計画の策定や、国等の提案公募型事業（競争的資金）獲得を支援する。</p>	<p>研究開発計画策定や資金獲得の支援</p> <p>やまぐちブランド技術研究会の取組と一体的に、企業自ら実施する研究開発から事業化までの計画（シナリオ）策定を支援する。</p> <p>また、シナリオの実現に必要な資金として、国等の提案公募型事業（競争的資金）の獲得を支援する。</p>	4	<p>やまぐちブランド技術研究会の取組と一体的に、企業自ら実施する研究開発から事業化までの計画（シナリオ）策定を支援した。その結果、県の技術革新計画に支援した4件がすべて承認された。</p> <p>更に、技術革新計画を承認された企業に対する開放機器の使用料金の減免措置制度、新事業支援センターの月額使用料金の減免措置制度を継続運用した。</p> <p>また、シナリオの実現に必要な資金として、国等の提案公募型事業（競争的資金）の獲得に向けて積極的に支援を行い、<u>40件の競争的資金を獲得した。</u></p> <p>■やまぐちブランド技術研究会による技術革新計画支援状況</p> <p>【フォローアップ】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>企業名</th> <th>所在地</th> <th>内容</th> <th>確認日</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>日立建設株式会社</td> <td>宇部市</td> <td>環境に配慮した、汚染土壌の浄化工法に係る技術</td> <td>4/23</td> </tr> <tr> <td>株式会社ヤナギヤ</td> <td>宇部市</td> <td>実践的な手術手技練習キットの開発と吻合補助器の普及販促</td> <td>4/23</td> </tr> <tr> <td>株式会社エス・エム・エイ</td> <td>下関市</td> <td>内視鏡モニター画面上をハンズフリーで明瞭に指示可能なシステムの研究開発</td> <td>5/17</td> </tr> <tr> <td>日本新工芯技株式会社</td> <td>光市</td> <td>半導体エッチング装置用シリコン電極のリサイクル技術の開発</td> <td>5/20</td> </tr> <tr> <td>合同会社グルーオンラボ</td> <td>宇部市</td> <td>医療・バイオ応用マイクロデバイスに適用可能なLIGAプロセス用塗布型厚膜レジストの開発</td> <td>4/23</td> </tr> </tbody> </table> <p>※他 2 社実施（希望により掲載していない企業がある）</p>	企業名	所在地	内容	確認日	日立建設株式会社	宇部市	環境に配慮した、汚染土壌の浄化工法に係る技術	4/23	株式会社ヤナギヤ	宇部市	実践的な手術手技練習キットの開発と吻合補助器の普及販促	4/23	株式会社エス・エム・エイ	下関市	内視鏡モニター画面上をハンズフリーで明瞭に指示可能なシステムの研究開発	5/17	日本新工芯技株式会社	光市	半導体エッチング装置用シリコン電極のリサイクル技術の開発	5/20	合同会社グルーオンラボ	宇部市	医療・バイオ応用マイクロデバイスに適用可能なLIGAプロセス用塗布型厚膜レジストの開発	4/23	<p>年度計画を十分達成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業の技術革新計画の承認支援（4件）</li> <li>○国等の提案公募型事業（競争的資金）獲得（40件）の積極的支援</li> </ul>
企業名	所在地	内容	確認日																									
日立建設株式会社	宇部市	環境に配慮した、汚染土壌の浄化工法に係る技術	4/23																									
株式会社ヤナギヤ	宇部市	実践的な手術手技練習キットの開発と吻合補助器の普及販促	4/23																									
株式会社エス・エム・エイ	下関市	内視鏡モニター画面上をハンズフリーで明瞭に指示可能なシステムの研究開発	5/17																									
日本新工芯技株式会社	光市	半導体エッチング装置用シリコン電極のリサイクル技術の開発	5/20																									
合同会社グルーオンラボ	宇部市	医療・バイオ応用マイクロデバイスに適用可能なLIGAプロセス用塗布型厚膜レジストの開発	4/23																									

【新規計画策定支援】

1	超軽量化・低コスト化・高省エネルギー効率を実現する蒸散冷却建材の開発	海水化学工業(株) 熱流体工学技術分科会
2	GNSS、GIS及び地球観測衛星データを利用したアプリ開発	(株)ニュージャパンナレッジ 組込みシステム技術分科会
3	環境DNA技術を用いた銚田籠人工漁礁製品の開発	アボンコーポレーション(株) 廃棄物リサイクル技術分科会
4	医療機器の新しい滅菌方法に対応した高機能陽極酸化皮膜の技術開発	中国電化工業(株) 表面改質・湿式表面処理 技術分科会

■山口県技術革新計画に係る開放機器使用料金の減免措置、新事業支援センター月額使用料金の減免措置

開放機器使用料減免措置	1件
新事業支援センター月額使用料減免措置	3件

■国等の提案公募型事業（競争的資金）の獲得支援状況  
（詳細はp.15～p.16参照）

項目	件数
イノベーション推進センターを中心とした取組による獲得	10件
産学公連携室を中心とした取組による獲得	10件
計	20件

■上記以外

地域イノベーション戦略支援プログラム	1件
先進的な宇宙利用モデル実証プロジェクト	1件
衛星データ統合活用実証事業	1件
ものづくり・商業・サービス経営力向上支援補助金	17件

第1-2(5) 数値目標

中期計画	H30年度の年度計画	評定	H30年度計画の達成状況等の具体的説明	評定の理由等																		
ア 特許等の出願及び新規使用許諾件数 中期計画期間中の5年間 合計 55件	ア 特許等の出願及び新規使用許諾件数 年間 11件 ※内訳:	4	ア 特許等の出願及び新規使用許諾件数 11件 ■特許等の出願及び新規使用許諾件数の内訳(再掲 p.22) <table border="1"> <thead> <tr> <th>内訳</th> <th>件数</th> <th>目標参考値</th> <th>達成度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>特許等出願</td> <td>5件</td> <td>8件</td> <td>63%</td> </tr> <tr> <td>新規使用許諾</td> <td>6件</td> <td>3件</td> <td>200%</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>11件</td> <td>11件</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table>	内訳	件数	目標参考値	達成度	特許等出願	5件	8件	63%	新規使用許諾	6件	3件	200%	合計	11件	11件	100%	年度計画を十分に達成 達成度 100%		
内訳	件数	目標参考値	達成度																			
特許等出願	5件	8件	63%																			
新規使用許諾	6件	3件	200%																			
合計	11件	11件	100%																			
イ 山口県技術革新計画の承認支援件数 中期計画期間中の5年間 合計 20件	イ 山口県技術革新計画の承認支援件数 年間 4件	4	イ 山口県技術革新計画の承認支援件数 4件 ■技術革新計画の内容(公開分:県ホームページ)(再掲p.29) <table border="1"> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>超軽量化・低コスト化・高省エネルギー効率を実現する蒸散冷却建材の開発</td> <td>海水化学工業(株)</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>GNSS、GIS及び地球観測衛星データを利用したアプリ開発</td> <td>(株)ニュージャパンナレッジ</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>環境DNA技術を用いた銚田籠人工漁礁製品の開発</td> <td>アボンコーポレーション(株)</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>医療機器の新しい滅菌方法に対応した高機能陽極酸化皮膜の技術開発</td> <td>中国電化工業(株)</td> </tr> </tbody> </table>	1	超軽量化・低コスト化・高省エネルギー効率を実現する蒸散冷却建材の開発	海水化学工業(株)	2	GNSS、GIS及び地球観測衛星データを利用したアプリ開発	(株)ニュージャパンナレッジ	3	環境DNA技術を用いた銚田籠人工漁礁製品の開発	アボンコーポレーション(株)	4	医療機器の新しい滅菌方法に対応した高機能陽極酸化皮膜の技術開発	中国電化工業(株)	年度計画を十分に達成 達成度 100%						
1	超軽量化・低コスト化・高省エネルギー効率を実現する蒸散冷却建材の開発	海水化学工業(株)																				
2	GNSS、GIS及び地球観測衛星データを利用したアプリ開発	(株)ニュージャパンナレッジ																				
3	環境DNA技術を用いた銚田籠人工漁礁製品の開発	アボンコーポレーション(株)																				
4	医療機器の新しい滅菌方法に対応した高機能陽極酸化皮膜の技術開発	中国電化工業(株)																				
ウ センター支援による国等の提案公募型事業の獲得件数 中期計画期間中の5年間 合計 30件	ウ センター支援による国等の提案公募型事業の獲得 年間 6件	5	ウ センター支援による国等の提案公募型事業の獲得 11件(1件) ■センターで実施契約を伴うもの <table border="1"> <thead> <tr> <th>提案公募名</th> <th>獲得件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>戦略的基盤技術高度化支援事業(サポイン)</td> <td>1件(0件)</td> </tr> <tr> <td>農林水産業の革新的技術開発・緊急展開事業</td> <td>4件(0件)</td> </tr> <tr> <td>地域産学バリュープログラム(JST)</td> <td>1件(0件)</td> </tr> <tr> <td>地域イノベーション戦略支援プログラム</td> <td>1件(0件)</td> </tr> <tr> <td>中国電力技術研究財団</td> <td>2件(0件)</td> </tr> <tr> <td>地域イノベーション・エコシステム形成プログラム(文科省)</td> <td>1件(0件)</td> </tr> <tr> <td>やまぎん地域企業助成基金</td> <td>1件(1件)</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>11件(1件)</td> </tr> </tbody> </table>	提案公募名	獲得件数	戦略的基盤技術高度化支援事業(サポイン)	1件(0件)	農林水産業の革新的技術開発・緊急展開事業	4件(0件)	地域産学バリュープログラム(JST)	1件(0件)	地域イノベーション戦略支援プログラム	1件(0件)	中国電力技術研究財団	2件(0件)	地域イノベーション・エコシステム形成プログラム(文科省)	1件(0件)	やまぎん地域企業助成基金	1件(1件)	計	11件(1件)	年度計画を十二分に達成 達成度 183%
提案公募名	獲得件数																					
戦略的基盤技術高度化支援事業(サポイン)	1件(0件)																					
農林水産業の革新的技術開発・緊急展開事業	4件(0件)																					
地域産学バリュープログラム(JST)	1件(0件)																					
地域イノベーション戦略支援プログラム	1件(0件)																					
中国電力技術研究財団	2件(0件)																					
地域イノベーション・エコシステム形成プログラム(文科省)	1件(0件)																					
やまぎん地域企業助成基金	1件(1件)																					
計	11件(1件)																					

ウ センター支援による国等の提案公募型事業の獲得件数 (つづき)	ウ センター支援による国等の提案公募型事業の獲得 (つづき)		(参考) 企業が申請する提案公募型事業の獲得支援に関するもの 29件(26件) <table border="1" data-bbox="1448 268 2724 751"> <thead> <tr> <th>提案公募名</th> <th>獲得件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>「高輝度・高効率次世代レーザー技術開発」プロジェクト (NEDO)</td> <td>1件(0件)</td> </tr> <tr> <td>やまぐち産業戦略研究開発等補助金</td> <td>1件(0件)</td> </tr> <tr> <td>水素サプライチェーン技術開発支援補助金</td> <td>1件(0件)</td> </tr> <tr> <td>やまぐち中小企業活力アップ助成金</td> <td>1件(1件)</td> </tr> <tr> <td>やまぐち産業イノベーション促進補助金</td> <td>4件(4件)</td> </tr> <tr> <td>キューテック研究開発助成金</td> <td>1件(1件)</td> </tr> <tr> <td>山口市ビジネスマッチング・連携支援補助金</td> <td>1件(1件)</td> </tr> <tr> <td>ものづくり・商業・サービス経営力向上支援補助金</td> <td>17件(17件)</td> </tr> <tr> <td>先進的な宇宙利用モデル実証プロジェクト</td> <td>1件(1件)</td> </tr> <tr> <td>衛星データ統合活用実証事業</td> <td>1件(1件)</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>29件(26件)</td> </tr> </tbody> </table>		提案公募名	獲得件数	「高輝度・高効率次世代レーザー技術開発」プロジェクト (NEDO)	1件(0件)	やまぐち産業戦略研究開発等補助金	1件(0件)	水素サプライチェーン技術開発支援補助金	1件(0件)	やまぐち中小企業活力アップ助成金	1件(1件)	やまぐち産業イノベーション促進補助金	4件(4件)	キューテック研究開発助成金	1件(1件)	山口市ビジネスマッチング・連携支援補助金	1件(1件)	ものづくり・商業・サービス経営力向上支援補助金	17件(17件)	先進的な宇宙利用モデル実証プロジェクト	1件(1件)	衛星データ統合活用実証事業	1件(1件)	計	29件(26件)						
提案公募名	獲得件数																																	
「高輝度・高効率次世代レーザー技術開発」プロジェクト (NEDO)	1件(0件)																																	
やまぐち産業戦略研究開発等補助金	1件(0件)																																	
水素サプライチェーン技術開発支援補助金	1件(0件)																																	
やまぐち中小企業活力アップ助成金	1件(1件)																																	
やまぐち産業イノベーション促進補助金	4件(4件)																																	
キューテック研究開発助成金	1件(1件)																																	
山口市ビジネスマッチング・連携支援補助金	1件(1件)																																	
ものづくり・商業・サービス経営力向上支援補助金	17件(17件)																																	
先進的な宇宙利用モデル実証プロジェクト	1件(1件)																																	
衛星データ統合活用実証事業	1件(1件)																																	
計	29件(26件)																																	
エ 研究開発・技術支援が事業化 (商品化) に至った件数 中期計画期間中の5年間 合計 40件	エ 研究開発・技術支援が事業化 (商品化) に至った件数 年間 8件	5	エ 研究開発・技術支援が事業化 (商品化) に至った件数 10件  ■研究開発・技術支援が事業化 (商品化) した内訳 <table border="1" data-bbox="1448 1171 2703 1633"> <tbody> <tr><td>1</td><td>畑ワサビの葉を薬味に使用した『ふく茶漬』の商品化</td><td>研究開発</td></tr> <tr><td>2</td><td>地産地消型環境共生住宅の開発</td><td>研究開発</td></tr> <tr><td>3</td><td>『とらふく出汁入味噌』商品化支援</td><td>研究開発</td></tr> <tr><td>4</td><td>『わさびまんじゅう(雪どけ大福)』の改良</td><td>研究開発</td></tr> <tr><td>5</td><td>世界初、八角断面縫合針”Octacus(オクタクス)”の開発※</td><td>技術支援</td></tr> <tr><td>6</td><td>『トラフグ極みだし』商品化支援</td><td>技術支援</td></tr> <tr><td>7</td><td>和菓子成形用シリコン型の作製技術</td><td>技術支援</td></tr> <tr><td>8</td><td>廃プラスチック製輪止めの開発</td><td>技術支援</td></tr> <tr><td>9</td><td>有機圧電デバイスを活用した心肺情報聴診解析システムの研究開発※</td><td>技術支援</td></tr> <tr><td>10</td><td>駐車場緩衝材の開発</td><td>技術支援</td></tr> </tbody> </table>	1	畑ワサビの葉を薬味に使用した『ふく茶漬』の商品化	研究開発	2	地産地消型環境共生住宅の開発	研究開発	3	『とらふく出汁入味噌』商品化支援	研究開発	4	『わさびまんじゅう(雪どけ大福)』の改良	研究開発	5	世界初、八角断面縫合針”Octacus(オクタクス)”の開発※	技術支援	6	『トラフグ極みだし』商品化支援	技術支援	7	和菓子成形用シリコン型の作製技術	技術支援	8	廃プラスチック製輪止めの開発	技術支援	9	有機圧電デバイスを活用した心肺情報聴診解析システムの研究開発※	技術支援	10	駐車場緩衝材の開発	技術支援	年度計画を十二分に達成 達成度 125%
1	畑ワサビの葉を薬味に使用した『ふく茶漬』の商品化	研究開発																																
2	地産地消型環境共生住宅の開発	研究開発																																
3	『とらふく出汁入味噌』商品化支援	研究開発																																
4	『わさびまんじゅう(雪どけ大福)』の改良	研究開発																																
5	世界初、八角断面縫合針”Octacus(オクタクス)”の開発※	技術支援																																
6	『トラフグ極みだし』商品化支援	技術支援																																
7	和菓子成形用シリコン型の作製技術	技術支援																																
8	廃プラスチック製輪止めの開発	技術支援																																
9	有機圧電デバイスを活用した心肺情報聴診解析システムの研究開発※	技術支援																																
10	駐車場緩衝材の開発	技術支援																																
			※ 医療関連の課題掘り起こし (イノベーション推進センター) による製品開発																															

大項目	第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項
中項目	3 「中核的技術支援拠点」としての更なる機能強化

中期目標	<p>&lt;「中核的技術支援拠点」としての更なる機能強化に関する目標&gt;</p> <p>県内企業のものづくりパートナーとして、社会経済情勢の変化に的確に対応した技術力の向上を支援するため、大学や関係機関による研究支援機能や経営支援機能との有機的連携を図り、効果的かつ切れ目のない企業支援の一層の充実を図る。</p> <p>また、企業訪問や相談窓口機能を活用した技術相談の充実や、新たな技術課題の掘り起こしに取り組む。</p> <p>さらに、中小企業単独では導入が困難な先端的試験研究機器の計画的整備とその開放など、各種の技術支援サービスを充実する。</p>
------	---

第1-3(1) 効果的かつ切れ目のない企業支援の一層の充実

中期計画	H30年度の年度計画	評価	H30年度計画の達成状況等の具体的説明	評価の理由等								
<p>国等の産業振興施策への積極的な協力及び他の支援機関との連携</p> <p>国・県の産業振興施策に積極的に協力するとともに、県内企業の技術力の向上に当たり、センター単独では対応困難な課題をスムーズに解決できるよう、研究支援機能を有する大学・国公設試や民間機関、経営支援機能を有するやまぐち産業振興財団や金融機関等の連携を深める。</p>	<p>国等の産業振興施策への積極的な協力及び他の支援機関との連携</p> <p>国・県の緊急的な施策にも積極的に協力し、企業のものづくりや拠点機能を強化する。また、大学・国公設試や民間機関、やまぐち産業振興財団や金融機関等との連携を深める次の取組を行う。</p>	4	<p>国の研究施策である、平成29年度経済産業省補正予算「地域における中小企業の生産性向上のための共同基盤事業」を活用して、機器整備及び人材育成を行うなど、産業技術センターにおける3Dものづくり支援拠点機能強化の取り組みを実施した。</p> <p>また、大学・国公設試や民間機関、やまぐち産業振興財団や金融機関等との連携を深める取組を引き続き行った。</p> <p>■国の緊急的な施策への取組</p> <p>経済産業省平成29年度地域新成長産業創出促進事業費補助金（地域における中小企業の生産性向上のための共同基盤事業）により、“粉末焼結式樹脂成型機”、“構造最適化ソフトウェア”を新たに導入すると共に、大容量3Dデータを管理（共有、受け渡し、セキュリティ確保）するクラウドサーバの整備及び人材育成を行い、「バーチャル3Dものづくり支援センター」の平成31年度からの運用開始に向けた取り組みを行った【新】。</p> <p>■国・県の施策への協力状況（主なものを抜粋）</p> <p>①国の施策への協力状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>国関連</th> <th>内容</th> <th>開催日等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">広島国税局</td> <td>全国市販酒類調査の品質評価会</td> <td>10/16</td> </tr> <tr> <td>H30年広島国税局清酒鑑評会の品質評価委員</td> <td>10/25-26,11/3</td> </tr> </tbody> </table>	国関連	内容	開催日等	広島国税局	全国市販酒類調査の品質評価会	10/16	H30年広島国税局清酒鑑評会の品質評価委員	10/25-26,11/3	<p>年度計画を十分に達成</p> <p>○産業技術センターの3Dものづくり支援拠点機能強化（バーチャル3Dものづくり支援センター立ち上げ業務）を実施【新】</p> <p>・大学・国公設試や民間機関、やまぐち産業振興財団や金融機関等との連携した取組</p>
国関連	内容	開催日等										
広島国税局	全国市販酒類調査の品質評価会	10/16										
	H30年広島国税局清酒鑑評会の品質評価委員	10/25-26,11/3										

②県の施策への協力状況		
県関連	内容	開催日等
総合企画部	明治 150 年記念式典 明治 150 年記念若者国際シンポジウム	10/7
産業戦略部	山口県コンビナート連携会議	8/20
	経営者意識開発セミナー実行委員	H30 年度
	自動車産業に関する研究会実行委員	H30 年度
	地域中小企業創出・支援カンファレンスチーム	4/26
	山口県自動車産業の構造変化に向けた研究会実行委員会	6/11
	山口県自動車産業イノベーション推進協議会発起人会	2/15
環境生活部	廃棄物 3R 事業化検討業務委託	H30 年度
	山口県廃棄物 3R 等推進事業補助金審査会	7/20
	電気自動車中古バッテリーリユース実証試験プロジェクト	H30年度
	循環型社会形成加速化事業に係る審査会委員	H30 年度
商工労働部	やまぐち次世代ベンチャー創出支援補助金審査委員会委員	H30 年度
	やまぐち産業人材創造協議会委員	H30 年度
	やまぐちイノベーション推進協議会委員	H30 年度
	やまぐち産業維新展実行委員	H30 年度
	山口県中小企業経営革新計画承認審査会	8 回/年
	山口県産業技術振興奨励賞選考委員会委員	H30 年度
	第 4 回やまぐち水素成長戦略推進協議会	7/18
	第 10 回山口県産業技術振興奨励賞選考委員会	8/2
	「地域連携・低炭素水素技術実証事業」事業検討委員会	9/3,12/12,3/15
	やまぐち SPACE HILL 構想推進会議委員	H30 年度
	山口県技術革新計画承認審査委員会委員	H30 年度
	山口県ビジネスプランコンテスト 2018 審査委員	H30 年度
	山口県プロフェッショナル人材戦略協議会委員	H30 年度
	西部高等産業技術学校運営協議会委員	H30 年度
土木建築部	「全国都市緑化やまぐちフェア実行委員会」の委員	H30 年度
	景観学習用教材(景観学習副読本)を活用した景観学習	6/4-5
	「省エネ基準に適合した土塀住宅」に関する講師	8/8
	屋外広告物の表示に関する講師	11/9
	景観形成のための新規事業に係る検討会	11/21

※大学：  
山口大学との包括連携協定の実効性のある取組（やまぐちイノベーション創出推進拠点（JST）の共同運営、山口大学応用衛星リモートセンシング研究センターとの連携等）

②県の施策への協力状況（つづき）

県関連	内容	開催日等
農林水産部	やまぐち6次産業化・農商工連携推進協議会	6/19,3/18
	やまぐち6次産業化・農商工連携推進事業審査会	9/25
	ため池管理省力化システム関連業務プロポーザル審査委員会	7/25
	農林水産祭参加第50回山口県水産加工展の品評会審査会	10/16
	「小規模未改修ため池の管理省力化技術の確立」課題解決検討チーム会議	11/28
	山口海物語認定委員会	1/30
下関県民局	第16回長府企業フェスタ	10/20-21
教育庁	特別展「宇宙兄弟展 2018×やまぐちと宇宙」実行委員会委員	7/19-9/2

■大学：山口大学との包括連携協定の実効性のある取組、やまぐちイノベーション創出推進拠点（JST）の共同運営等の取組状況

①やまぐち事業化支援・連携コーディネート会議での連携

やまぐち事業化支援・連携コーディネート会議の規約改正による会長と事務局を山口大学と産業技術センターが1年交替で担う体制の下で、山口大学と連携してコーディネート活動を行った。

（会議の主な活動）

1	やまぐち事業化支援・連携コーディネート会議「シーズ・ニーズ発表展示」	1/18
---	------------------------------------	------

②研究委託

	事業名	研究テーマ
1	産学公が連携したリモートセンシング技術活用研究業務	産学公が連携したリモートセンシング技術活用研究

③産学公金連携によるセミナーの共同開催等

	セミナー名	日程	場所
1	戦略プロジェクト支援企業の取組と先端分析技術	7/10	湯田温泉ユウベルホテル松政
2	戦略プロジェクト支援企業の取組とIoT技術動向	10/15	産業技術センター
3	戦略プロジェクト支援企業の取組とロボット関連技術の最新動向セミナー	11/15	山口大学工学部
4	戦略プロジェクト支援企業の取組とデザインセミナー	1/18	海峡メッセ下関

※国公設試：  
技術支援の補完関係を構築、産業技術連絡会議、中国5県、九州山口、県内公設試等の全国・地方組織での取組。

④提案公募など競争的資金獲得・事業推進に関する協力

平成29年度に県と山口大学で共同提案して採択された文部科学省事業「地域イノベーション・エコシステム形成プログラム」においては、運営開発会議への参画やコーディネート活動を行った。

	事業名
1	地域イノベーション戦略支援プログラム
2	やまぐち未来創生人材育成・定着促進事業
3	地域イノベーション・エコシステム形成プログラム

⑤見学の受入

	学部名等	受入日	受入人数
1	山口大学農学部生物資源環境科学科	9/6	43名
2	山口大学COC+事業推進本部	9/6	3名

⑥やまぐちイノベーション創出推進拠点（JST）の共同運営等の取組状況

	機器名	利用件数
1	フィールドエミッションオージェ電子顕微鏡	79件
2	レーザー干渉平面度測定装置	0件
3	干渉膜厚計	3件
4	X線CT装置	183件
	計	265件

■国公設試：技術支援の補完関係を構築、産業技術連絡会議、中国5県、九州山口、県内公設試等の全国・地方組織での取組状況

①技術相談で、外部機関を紹介した件数 40件

②産業技術連携推進会議等への職員の派遣状況

会議などの名称	開催年月日
平成30年度第1回中国地域連携推進企画分科会	5/29
産業技術連携推進会議製造プロセス部会 第25回表面技術分科会	6/7-8
産業技術連携推進会議 第34回九州連携CAE研究会	6/7-8
産業技術連携推進会議製造プロセス部会 第9回3Dものづくり特別分科会	6/20
産業技術連携推進会議ライフサイエンス部会 第23回デザイン分科会	6/28-29
3D3プロジェクト平成30年度第1回西分科会	6/28-29
第91回公立鉾工業試験研究機関長協議会総会	7/26-27
産業技術連携推進会議DLC技術研究会 第1回研修会・第1回検討会	8/29-30
産業技術連携推進会議製造プロセス部会 第10回3Dものづくり特別分科会	10/4-5

		②産業技術連携推進会議等への職員の派遣状況（つづき）
		会議などの名称
		開催年月日
		平成 30 年度第 1 回（第 10 回）公設研・産総研連携推進企画会議
		10/9-10
		産業技術連携推進会議ナノテクノロジー・材料部会セラミックス分科会第 65 回 総会
		10/11-12
		平成 30 年度第 1 回中国地域産業技術連携推進会議
		10/19
		産業技術連携推進会議 DLC 技術研究会 第 2 回研修会
		10/24
		産業技術連携推進会議 第 35 回九州連携 CAE 研究会
		10/25-26
		第 23 回電磁環境分科会、第 28 回 EMC 研究会及び幹事会
		11/1
		平成 30 年度全国食品技術研究会
		11/1
		農研機構 食品研究部門 研究成果展示会 2018
		11/2
		産業技術連携推進会議中国地域部会 デザイン・木材利用分科会
		11/5
		産業技術連携推進会議 情報通信・エレクトロニクス部会 情報技術分科会 第 16 回 組込み技術研究会
		11/8-9
		平成 30 年度水産利用関係研究開発推進会議および品質安全研究会&資源利用研 究会
		11/14-16
		産業技術連絡推進会議ナノテクノロジー・材料部会 第 56 回高分子分科会
		11/15-16
		平成 30 年度 産業技術連携推進会議 ライフサイエンス部会 第 24 回デザイン分科 会
		11/15-16
		第 9 回地方独立行政法人公設試験研究機関情報連絡会
		11/15-16
		平成 30 年度中国・四国地方公設試験研究機関企画担当者会議
		11/15-16
		平成 30 年度近畿中国四国農業試験研究推進会議作物生産推進部会食品流通問 題別研究会
		11/15-16
		3D3 プロジェクト平成 30 年度第 2 回西分科会
		11/15-16
		第 109 回全国公設鉦工業試験研究機関事務連絡会議
		11/15-16
		中国地域公設試験研究機関における知的財産管理活用に関する研究会
		11/19
		産業技術連絡推進会議ナノテクノロジー・材料部会 平成 30 年度素形材分科会
		11/21-22
		平成 30 年度 産業技術連携推進会議地域部会 中国四国食品関係合同分科会
		11/21-22
		産業技術連絡推進会議中国・四国地域部会合同 環境・エネルギー技術分科会
		11/21-22
		平成 30 年度産業技術連携推進会議中国地域部会機械・金属技術分科会
		12/3
		産業技術連携推進会議 平成 30 年度知的基盤部会総会及び計測分科会
		12/6-7
		産業技術連携推進会議 平成 30 年度知的基盤部会総会及び計測分科会 光放射 計測研究会
		12/6-7
		産業技術連携推進会議 セラミックス分科会 第 53 回セラミックス技術担当者会議
		12/6-7
		産業技術連携推進会議 情報通信・エレクトロニクス部会情報技術分科会・情報通信 研究会
		12/13-14
		食品分析フォーラム推進会議
		12/17-18

		<p>②産業技術連携推進会議等への職員の派遣状況（つづき）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>会議などの名称</th> <th>開催年月日</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>九州山口知事会(研究会:EMC)</td> <td>12/20-21</td> </tr> <tr> <td>第2回中国地域産技連及び中国地域部会企画分科会</td> <td>1/28-29</td> </tr> <tr> <td>産業技術連携推進会議 第36回九州連携CAE研究会</td> <td>1/31-2/1</td> </tr> <tr> <td>第4回地方公設試験研究機関 金属AM技術担当者会議</td> <td>2/7</td> </tr> <tr> <td>平成30年度食品試験研究推進会議</td> <td>2/14-15</td> </tr> <tr> <td>産業技術連携推進会議 DLC技術研究会 第2回検討会および第3回研修会</td> <td>2/28-3/1</td> </tr> <tr> <td>第3回九州山口知事会(研究会:EMC)</td> <td>2/28/3/1</td> </tr> <tr> <td>平成30年度中国四国地方公設試験研究機関共同研究(精密加工分野)推進協議会</td> <td>3/1</td> </tr> </tbody> </table> <p>③共同研究等</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>テーマ等の名称</th> <th>グループ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>EMI測定用アンテナのアンテナ係数自己点検法の開発（産総研）</td> <td>電子応用</td> </tr> </tbody> </table> <p>④委員等就任</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>会議などの名称</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>3D計測エボリューション（3D3プロジェクト）委員会委員</td> <td>加工技術G</td> </tr> </tbody> </table> <p>■九州・山口知事会による公設試連携の取組状況</p> <p>①九州地域の企業からの技術相談等（依頼試験・開放機器・技術相談）対応</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>県名</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>福岡県</td> <td>192件</td> </tr> <tr> <td>佐賀県</td> <td>4件</td> </tr> <tr> <td>長崎県</td> <td>9件</td> </tr> <tr> <td>熊本県</td> <td>11件</td> </tr> <tr> <td>大分県</td> <td>35件</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>251件</td> </tr> </tbody> </table> <p>②研究会</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>研究会テーマ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>生産工程における三次元データの効果的活用法に関する研究 （●佐賀県、山口県、福岡県、長崎県、熊本県、大分県、鹿児島県、沖縄県）</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>開発現場における電磁ノイズ評価のための簡易EMI測定システムの開発 （●宮崎県、山口県、福岡県、熊本県、大分県、鹿児島県）</td> </tr> </tbody> </table> <p>●:幹事県</p>	会議などの名称	開催年月日	九州山口知事会(研究会:EMC)	12/20-21	第2回中国地域産技連及び中国地域部会企画分科会	1/28-29	産業技術連携推進会議 第36回九州連携CAE研究会	1/31-2/1	第4回地方公設試験研究機関 金属AM技術担当者会議	2/7	平成30年度食品試験研究推進会議	2/14-15	産業技術連携推進会議 DLC技術研究会 第2回検討会および第3回研修会	2/28-3/1	第3回九州山口知事会(研究会:EMC)	2/28/3/1	平成30年度中国四国地方公設試験研究機関共同研究(精密加工分野)推進協議会	3/1		テーマ等の名称	グループ	1	EMI測定用アンテナのアンテナ係数自己点検法の開発（産総研）	電子応用		会議などの名称	備考	1	3D計測エボリューション（3D3プロジェクト）委員会委員	加工技術G	県名	件数	福岡県	192件	佐賀県	4件	長崎県	9件	熊本県	11件	大分県	35件	計	251件		研究会テーマ	1	生産工程における三次元データの効果的活用法に関する研究 （●佐賀県、山口県、福岡県、長崎県、熊本県、大分県、鹿児島県、沖縄県）	2	開発現場における電磁ノイズ評価のための簡易EMI測定システムの開発 （●宮崎県、山口県、福岡県、熊本県、大分県、鹿児島県）
会議などの名称	開催年月日																																																			
九州山口知事会(研究会:EMC)	12/20-21																																																			
第2回中国地域産技連及び中国地域部会企画分科会	1/28-29																																																			
産業技術連携推進会議 第36回九州連携CAE研究会	1/31-2/1																																																			
第4回地方公設試験研究機関 金属AM技術担当者会議	2/7																																																			
平成30年度食品試験研究推進会議	2/14-15																																																			
産業技術連携推進会議 DLC技術研究会 第2回検討会および第3回研修会	2/28-3/1																																																			
第3回九州山口知事会(研究会:EMC)	2/28/3/1																																																			
平成30年度中国四国地方公設試験研究機関共同研究(精密加工分野)推進協議会	3/1																																																			
	テーマ等の名称	グループ																																																		
1	EMI測定用アンテナのアンテナ係数自己点検法の開発（産総研）	電子応用																																																		
	会議などの名称	備考																																																		
1	3D計測エボリューション（3D3プロジェクト）委員会委員	加工技術G																																																		
県名	件数																																																			
福岡県	192件																																																			
佐賀県	4件																																																			
長崎県	9件																																																			
熊本県	11件																																																			
大分県	35件																																																			
計	251件																																																			
	研究会テーマ																																																			
1	生産工程における三次元データの効果的活用法に関する研究 （●佐賀県、山口県、福岡県、長崎県、熊本県、大分県、鹿児島県、沖縄県）																																																			
2	開発現場における電磁ノイズ評価のための簡易EMI測定システムの開発 （●宮崎県、山口県、福岡県、熊本県、大分県、鹿児島県）																																																			

※民間機関：  
依頼試験・開放機器の補完関係の構築と定期的な見直し（民間試験機関等）。

※金融機関：  
金融機関と帯同しての企業訪問を実施し、技術と経営の両面から企業のイノベーション支援。  
金融機関、山口大学、やまぐち産業振興財団、センターが連携した企業と大学等のシーズ・ニーズマッチングを推進する取組の実施。

■県内公設試問の連携推進に関する取組

平成 30 年度山口県試験研究機関技術交流協議会第 1 回幹事会（7/13，産技センター）

■民間機関：依頼試験・開放機器の補完関係を構築に関する状況（建材試験センター、民間試験機関等）

民間試験機関との補完関係を定期的に見直しながら、企業の相談に適切に対応している。現在 26 の民間試験機関と補完関係を築いている。

■金融機関

(1)山口フィナンシャルグループ等との包括連携協定の実効性のある取組状況

①産学公金連携によるセミナーの共同開催等（再掲 p.34）

	セミナー名	日程	場所
1	戦略プロジェクト支援企業の取組と先端分析技術	7/10	湯田温泉ユウベルホテル松政
2	戦略プロジェクト支援企業の取組と IoT 技術動向	10/15	産業技術センター
3	戦略プロジェクト支援企業の取組とロボット関連技術の最新動向セミナー	11/15	山口大学工学部
4	戦略プロジェクト支援企業の取組とデザインセミナー	1/18	海峡メッセ下関

②地域商社やまぐち新商品開発支援補助金審査委員会に委員として参加（7/30, 10/4）

③企業の問題解決に向けた共同支援

	企業名	目的	期間等
1	長山電機産業(株)	新製品開発	H30.4/17～
2	(株)CSD	新製品開発	H30.4/27～
3	アサヒミネラル工業(株)山口工場	工程改善	H30.5/14～
4	共英製鋼(株)	新製品開発	H30.6/22～
5	(株)大野製作所	工程改善	H30.9/25～
6	ジャパンファインスチール(株)	新商品開発	H31.2/12～
7	三友 casting(株)	工程改善	H31.3/11～

(2)その他金融機関との取組

○金融機関等が主催する展示会への出展および技術相談対応

第 11 回山口県しんきん合同ビジネスフェア	5/16	海峡メッセ下関
------------------------	------	---------

※やまぐち産業振興財団：  
センターと企業支援の両輪として連携した取組、海外展開支援の連携等。

※その他関連支援団体  
標準化や海外展開支援等にかかる取組。

■やまぐち産業振興財団

①やまぐち産業振興財団が主催する主な事業への協力

○各種委員等

主要な内容	備考
やまぐち産業振興財団理事会	理事
やまぐち地域中小企業育成事業審査委員会	委員
中小企業等外国出願支援事業に係る審査委員会	委員
山口県プロフェッショナル人材戦略協議会	委員
設備貸与資金審査委員会	委員
中小企業活力アップ補助金(知的財産活用枠)審査委員会	委員
中小企業活力アップ補助金(研究開発支援部会)審査委員会	委員
やまぐち産業イノベーション促進補助金[航空機・宇宙産業関連分野]審査会	委員

○知財相談窓口の設置（通年:1回/週（産技センター2階））

○企業の技術検討会への職員の派遣

企業名	事業名	期間等
(株)マース製作所	H30 年度戦略産業雇用創造プロジェクト 特定テーマ事業化支援助成金事業（検討会開催枠）	H30.12/6～1/17 (3回)
(有)ヤマモト工業	H30 年度戦略産業雇用創造プロジェクト 特定テーマ事業化支援助成金事業（検討会開催枠）	H30.6/15～11/25 (5回)
(株)ミヤハラ	H30 年度戦略産業雇用創造プロジェクト 特定テーマ事業化支援助成金事業（成長支援枠）	H30.2.14～6/1 (3回)

■その他機関との連携

(技能検定)

- ・平成 30 年度「前期」技能検定実技試験の技能検定委員（山口県職業能力開発協会）

(海外展開支援)

- ・日本貿易機構（JETRO）、日本規格協会(JSA)、中小企業基盤整備機構などと連携（詳細は p.42）

(標準化支援)

- ・標準化支援パートナーシップ機関として、県内企業 1 社に「標準化支援アドバイザー」を派遣
- ・標準化セミナー（八重洲博多ビル）に参加
- ・日本規格協会標準化アドバイザーを招聘した技術セミナーを開催（詳細は p.42）

第 1 - 3 ( 2 ) 技術相談の充実

中期計画	H30 年度の年度計画	評定	H30 年度計画の達成状況等の具体的説明	評定の理由等																
相談窓口機能の充実及び職員の対応力の強化	相談窓口機能の充実及び職員の対応力の強化	3	<p>技術相談を一元化する技術相談室に、相談対応の専任者を引き続き配置し、迅速かつ的確な対応に努めている。また、グループウェアによる 1 回/週の技術相談・依頼試験・開放機器等の情報共有や技術相談室を中心とした複数グループの連携等により、県内企業が抱える多様な技術課題に対する対応力の強化に引き続き努めた。</p> <p>巡回相談窓口に関しては、各種イベント等の会場に研究員を派遣し、現地での技術相談に対応した。</p> <p>サテライト窓口では地場産センター職員に同行して積極的に企業訪問を実施した。</p> <p>また、H28 年度に定めた県内企業の海外展開支援に係る産技センターの基本方針に基づき、標準化による海外展開支援のためのセミナーの開催や企業個別相談会への職員の派遣、加えて標準化支援パートナーシップ機関として、県内企業 1 社に、標準化支援アドバイザーを派遣した【新】。</p> <p>さらに、中国及びシンガポールでの本県出展企業への技術支援や市場調査などを行った。</p> <p>■技術相談室の体制 (H30 年度)</p> <table border="1"> <tr> <td>室長</td> <td>1 名 (専任)</td> </tr> <tr> <td>シニアスタッフ</td> <td>2 名 (専任)</td> </tr> <tr> <td>非常勤嘱託</td> <td>4 名 (専任)</td> </tr> <tr> <td>臨時職員</td> <td>2 名 (専任)</td> </tr> </table> <p>■企業訪問状況</p> <p>①研究員による巡回企業訪問 (県内)</p> <table border="1"> <tr> <td></td> <td>実績数</td> </tr> <tr> <td>巡回企業訪問</td> <td>191 企業</td> </tr> </table> <p>②研究員による新規企業訪問 (県内)</p> <table border="1"> <tr> <td></td> <td>実績数</td> </tr> <tr> <td>新規企業訪問</td> <td>88 企業</td> </tr> </table>	室長	1 名 (専任)	シニアスタッフ	2 名 (専任)	非常勤嘱託	4 名 (専任)	臨時職員	2 名 (専任)		実績数	巡回企業訪問	191 企業		実績数	新規企業訪問	88 企業	<p>年度計画を概ね達成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>技術相談室の相談対応の専任者による迅速かつ的確な対応</li> <li>新規企業訪問の積極的な実施</li> <li>海外展開のための標準化セミナーの開催</li> <li>○県内企業へ標準化支援アドバイザーを派遣【新】</li> <li>中国及びシンガポールでの本県出展企業への技術支援や市場調査</li> </ul>
室長	1 名 (専任)																			
シニアスタッフ	2 名 (専任)																			
非常勤嘱託	4 名 (専任)																			
臨時職員	2 名 (専任)																			
	実績数																			
巡回企業訪問	191 企業																			
	実績数																			
新規企業訪問	88 企業																			
<p>これまで訪問実績のない企業を含め、県内企業への巡回訪問を積極的に実施するとともに、相談窓口機能 (技術相談室、サテライト窓口、電子メール相談、巡回相談窓口等) の充実を図る。</p> <p>また、個々の企業から寄せられた技術相談の内容、対応結果などを整理し、職員間で情報共有を行い、県内企業が抱える様々な技術課題に対するセンター職員の対応力を強化する。</p>	<p>技術相談の一元化 (技術相談室) や遠隔地対策 (サテライト窓口、電子メール相談)、巡回企業訪問、巡回相談窓口等をレベルアップさせるとともに、グループウェアによる情報共有 (企業・課題・対応)、技術相談室を中心とした相談対応の連携強化により、県内企業が抱える様々な技術課題に対するセンター職員の対応力を強化する。</p> <p>また、県内企業の海外展開への支援については、平成 28 年度に定めた基本方針に基づき関係機関と連携して取組を行う。</p>																			

■企業の技術検討会への職員の派遣（再掲p.39）

企業名	事業名	期間等
(株)マース製作所	H30年度戦略産業雇用創造プロジェクト 特定テーマ事業化支援助成金事業（検討会開催枠）	H30.12/6～1/17 (3回)
(有)ヤマモト工業	H30年度戦略産業雇用創造プロジェクト 特定テーマ事業化支援助成金事業（検討会開催枠）	H30.6/15～11/25 (5回)
(株)ミヤハラ	H30年度戦略産業雇用創造プロジェクト 特定テーマ事業化支援助成金事業（成長支援枠）	H30.2.14～6/1 (3回)

■巡回相談窓口に関する取組

イベント等の名称	場所	内容	日程
第11回山口県しんきん合同 ビジネスフェア	海峡メッセ下関	技術支援成果内容紹介 及び技術相談対応	5/16
やまぐち産業維新展	山口きらら博記念公園 内 多目的ドーム	技術支援成果内容紹介 及び技術相談対応	9/17-18
やまぐち6次産業化・農商工 連携推進大会	山口県婦人教育文化会 館	技術支援成果内容紹介 及び技術相談対応	11/1
山口食2プロジェクト	山口グランドホテル	技術支援成果内容紹介 及び技術相談対応	11/12

■サテライト窓口の取組状況

①相談対応件数 111件

相談状況	件数	対応状況	件数
訪問	85件	情報提供	19件
来所	25件	産技Cへ相談	10件
電話	0件	開放機器対応	7件
FAX	0件	依頼試験対応	1件
電子メール	1件	外部機関紹介	1件
その他	0件	その他	73件
合計	111件	合計	111件

②サテライト窓口のPR活動

1	サテライト窓口のPRを含む施設利用案内を窓口に配置
2	しんきん合同ビジネスフェア2018ブース出展PR
3	やまぐち産業維新展ブース出展PR
4	山口県産業技術センターパンフレット、開放機器一覧を山口県東部地域企業・団体へ送付

③サテライト窓口を利用した出張出前講座

企業名	研修テーマ	期間等
(株)岡本産業	「幾何公差」の使い方	H30.8/31 (1H) 派遣職員：3名
(株)ミヤハラ		H30.10/24 (2H) 派遣職員：2名
産機設計(有)		

■海外展開支援

- ・新市場創造型標準化制度の標準化セミナー・企業相談会に参加した (6/7)。
- ・標準化と品質管理全国大会 2018 に参加した (10/3)。
- ・日本規格協会標準化アドバイザーを招聘し、「知的財産管理におけるオープン&クローズ戦略セミナー」を開催した (10名) (3/20)。
- ・標準化支援パートナーシップ機関として、県内企業 1 社に、標準化支援アドバイザーを派遣した【新】。
- ・当センター企画の海外市場等調査 (2 件)。

中国	9/8-15	・ IT 関連産業調査
シンガポール	10/24-27	・ 食品産業市場調査

第 1 - 3 ( 3 ) 新たな技術課題の掘り起こし

中期計画	H30 年度の年度計画	評定	H30 年度計画の達成状況等の具体的説明	評定の理由等															
1 次産業や 3 次産業の技術課題を掘り起こす取組の強化	1 次産業や 3 次産業の技術課題を掘り起こす取組の強化	4	<p>農業・漁業分野については、農商工連携や 6 次産業化を目指し、県内企業、農業・漁業従事者、農林総合技術センター、水産研究センター等から課題抽出を行い、産技センターの 10 テーマの研究開発に反映させ、4 件の事業化を達成した。</p> <p>サービス分野については、医療、デザイン、廃棄物処理などの関連企業や団体との連携を深めて課題の掘り起こしを行い、ものづくり企業の製品開発に繋げる取組を続けている。医療関連の課題の掘り起こしからの製品開発によって 3 件の事業化を達成した。JAXA や山口大学と連携して衛星リモートセンシングデータを情報産業に展開するため積極的に取り組み、大学及び企業等の国等の提案公募型研究開発事業への申請を支援し、新たに 2 テーマが採択【新】された（再掲 p.27）。</p> <p>また、農商工連携や廃棄物 3R に関する会議の出席や、審査会への協力などを行うとともに、県の事業を活用し、ものづくり企業や関係機関と連携してセミナーや展示会の開催など交流やマッチングのための取組を実施した。</p> <p>(1) 農業・漁業</p> <p>■ 6 次産業化・農商工連携に係る研究開発の推進</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 80%;">研究テーマ</th> <th style="width: 20%;">担当グループ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>天然素材を活用したうま味調味料無添加の基礎調味料の開発</td> <td rowspan="6">食品技術</td> </tr> <tr> <td>醸造用水中の無機元素が発酵経過に与える影響に関する研究</td> </tr> <tr> <td>地域食材を活用した減塩及びグルテンフリー食品の開発</td> </tr> <tr> <td>調温による効率的な殺菌技術の開発</td> </tr> <tr> <td>凍結茶葉を用いた山口県産和紅茶の品質向上製造技術の開発</td> </tr> <tr> <td>和食ブームを支えるワサビの施設化による超促成・高付加価値生産技術の実証 「山田錦」レベルの優れた醸造適性を有する酒米新品種と革新的栽培・醸造技術による日本酒輸出倍増戦略</td> </tr> <tr> <td>オリゴトロフ藻類を用いた水産加工排水資源化技術の開発</td> <td>環境技術・食品技術</td> </tr> <tr> <td>品質目利き技術の画像解析アルゴリズムの開発</td> <td>電子応用</td> </tr> <tr> <td>低コスト・大ロットに対応した収穫後果実着色装置の開発</td> <td>設計制御</td> </tr> </tbody> </table>	研究テーマ	担当グループ	天然素材を活用したうま味調味料無添加の基礎調味料の開発	食品技術	醸造用水中の無機元素が発酵経過に与える影響に関する研究	地域食材を活用した減塩及びグルテンフリー食品の開発	調温による効率的な殺菌技術の開発	凍結茶葉を用いた山口県産和紅茶の品質向上製造技術の開発	和食ブームを支えるワサビの施設化による超促成・高付加価値生産技術の実証 「山田錦」レベルの優れた醸造適性を有する酒米新品種と革新的栽培・醸造技術による日本酒輸出倍増戦略	オリゴトロフ藻類を用いた水産加工排水資源化技術の開発	環境技術・食品技術	品質目利き技術の画像解析アルゴリズムの開発	電子応用	低コスト・大ロットに対応した収穫後果実着色装置の開発	設計制御	<p>年度計画を十分達成</p> <p>○農業・漁業分野については、県内事業者や公設試等から課題抽出を行い 10 テーマの研究開発に反映させ、4 件の事業化</p> <p>○サービス分野については、医療関連の課題の掘り起こしから 3 件の事業化、衛星データの情報産業への展開で国等の提案公募型研究に 2 テーマが採択</p>
研究テーマ	担当グループ																		
天然素材を活用したうま味調味料無添加の基礎調味料の開発	食品技術																		
醸造用水中の無機元素が発酵経過に与える影響に関する研究																			
地域食材を活用した減塩及びグルテンフリー食品の開発																			
調温による効率的な殺菌技術の開発																			
凍結茶葉を用いた山口県産和紅茶の品質向上製造技術の開発																			
和食ブームを支えるワサビの施設化による超促成・高付加価値生産技術の実証 「山田錦」レベルの優れた醸造適性を有する酒米新品種と革新的栽培・醸造技術による日本酒輸出倍増戦略																			
オリゴトロフ藻類を用いた水産加工排水資源化技術の開発	環境技術・食品技術																		
品質目利き技術の画像解析アルゴリズムの開発	電子応用																		
低コスト・大ロットに対応した収穫後果実着色装置の開発	設計制御																		

■6次産業化・農商工連携に係る企業との共同研究・受託研究（研究テーマは非公開）（再掲 p.22）

※大学・研究機関等は除く

共同研究	0 テーマ
受託研究	2 テーマ

■国の提案公募型研究開発事業の採択状況（再掲p.15-16）

事業名	研究課題	関係機関
研究成果展開事業 （地域産学バリュープログラム）	オリゴトロフ藻類を用いた水産加工排水資源化技術の開発	山口大学 フジミツ株式会社
革新的技術開発・緊急展開事業	和食ブームを支えるワサビの施設化による超促成・高付加価値生産技術の実証	農林総合技術センター
革新的技術開発・緊急展開事業	「山田錦」レベルの優れた適性を有する酒米新品種と革新的栽培・醸造技術の活用による日本酒輸出倍増戦略	兵庫県立農林水産技術総合センター
革新的技術開発・緊急展開事業	国産果実の供給期間拡大を目指した鮮度保持・栽培技術の開発	農業・食品産業技術総合研究機構
革新的技術開発・緊急展開事業	下関の「ふく」の差別化と輸出拡大のための IT 利用「めきき」技術の開発	水産研究センター

■6次産業化・農商工連携関連での事業化（製品化）：4件（再掲p.31）

1	畑ワサビの葉を薬味に使用した『ふく茶漬』の商品化	研究開発
2	『とらふく出汁入味噌』商品化支援	研究開発
3	『わさびまんじゅう(雪どけ大福)』の改良	研究開発
4	『トラフグ極みだし』商品化支援	技術支援

(2)サービス業

■医療関連での事業化（商品化）：2件（再掲p.13）

1	世界初、八角断面縫合針”Octacus(オクタクス)”の開発※	研究開発※
2	省電力デバイスによる包括的在宅・訪問医療、看護向け電子聴診解析システム	技術支援※

※ 医療関連の課題掘り起こし（イノベーション推進センター）による製品開発

■その他サービス業に係る取組支援等

○衛星データ解析技術研究会活動関係（詳細は p.26 参照）

■サービス業に係る企業との共同研究・受託研究（研究テーマは非公開）（再掲 p.22）

※大学・研究機関等は除く

共同研究	0 テーマ
受託研究	2 テーマ

(3)第1・3次産業関連機関との連携

■6次産業化・農商工連携に係る会議などの出席（主なもの）（再掲p.34,p.38）

やまぐち 6 次産業化・農商工連携推進協議会	6/19,3/18
やまぐち 6 次産業化・農商工連携推進事業審査会	9/25
H30 年度山口県試験研究機関技術交流協議会第 1 回幹事会	7/13
「知」の集積と活用の方 養鶏産業 ICT 研究開発プラットフォームへの参加	-

■6次産業化・農商工連携に係る講演会・展示会等への参加（主なもの）

やまぐち 6 次産業化・農商工連携人材育成研修	10/11
やまぐち 6 次産業化・農商工連携推進大会	11/1

■サービス業関連職員派遣等（主なもの）

中国地域質感色感研究会の副委員長への就任	(公財)ちゅうごく産業創造センター
第 12 回山口県広告大賞審査員	山口県広告業協会

■廃棄物3Rに関する会議等の出席（主なもの）（再掲p.33）

廃棄物 3R 事業化検討業務	H30 年度
山口県廃棄物 3R 等推進事業補金審査会	7/20
電気自動車中古バッテリーリユース実証試験プロジェクト	H30 年度
循環型社会形成加速化事業に係る審査会委員	H30 年度

第 1 - 3 ( 4 ) 先端的試験研究機器の整備等による技術支援サービスの充実

中期計画	H30 年度の年度計画	評価	H30 年度計画の達成状況等の具体的説明	評価の理由等																	
<p>機器操作補助員の拡充による技術支援機能の強化</p> <p>県内企業のニーズを踏まえた計画的な先端的試験研究機器整備に努めるとともに、専門知識を有する人材を活用した機器操作補助員の拡充により技術支援機能を強化し、以下の技術支援サービスの充実を図る。</p> <p>また、技術支援業務のサービス内容やニーズ適合性についてアンケート調査による検証を行い、その結果を技術支援サービスの充実にフィードバックする。</p>	<p>機器操作補助員の拡充による技術支援機能の強化</p> <p>県内企業のニーズを踏まえた計画的な先端的試験研究機器整備に加え、研究開発の高度化、迅速化に資する機器整備の充実に努めることで、以下の技術支援サービスの充実を図る。</p> <p>また、技術支援業務のサービス内容やニーズ適合性についてアンケート調査や業務内容の分析等による検証を行い、その結果を技術支援サービスの充実にフィードバックする。</p>	4	<p>企業に対する機器ニーズ調査を実施し、機器導入計画に反映させるとともに、翌年度の機器整備事業（JKA補助）に該当する機器について当該事業に申請した。また上記事業で採択された1機器に加えて、前年度調査結果等に基づき企業ニーズを反映した2機器を導入した。更に、試験研究や技術支援サービスの向上に必要な機器の有無等について検討し、追加で29機器について新規・更新・増設による整備を行い、より一層の充実に努めた。また、試験研究機器の寿命の長期化を図り、センターの支援機能低下を防ぐため、<u>修繕等の対象機器を調査・検討し、3機器について修繕等を行った。</u></p> <p>技術支援の地域差対策として、前年度に引き続き、機器活用事例のパネルを3機器について新たに作成・掲示するとともに、県内で企業数の多い機械加工関連企業に着目し、その利用促進に向けて、課題把握・解決のための具体的な相談事例を掲載したパンフレットの作成・先行配布を行った。また、機械加工関連技術についてのセミナー・個別相談を2回行うなど機械加工関連企業利用促進対策を実施した。</p> <p>加えて、開放機器一覧2018の中に、保有機器22機器の機器活用事例集を新たに加えることで、<u>機器利用の促進を図った【新】。</u></p> <p>技術支援アンケートでは、<u>技術支援サービス等の満足度が99%以上</u>であった。また、H29年度から引き続き、技術支援サービスを企業が受ける目的を分析するためのデータ収集を実施した。</p> <p>■ 企業への機器ニーズ調査の実施状況</p> <table border="1"> <tr> <td>アンケート配布総数</td> <td>847件</td> </tr> <tr> <td>回答総数</td> <td>213件</td> </tr> <tr> <td>回収率</td> <td>25.1%</td> </tr> </table> <p>■ H30年度に導入された機器</p> <p>① 企業ニーズを反映した機器の整備(3機器)</p> <table border="1"> <tr> <td>1</td> <td>X線回折装置</td> <td>更新</td> <td>JKA補助</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>ノイズ耐性試験機</td> <td>更新</td> <td rowspan="2">自主財源</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>蛍光 X 線膜厚計</td> <td>新規</td> </tr> </table>	アンケート配布総数	847件	回答総数	213件	回収率	25.1%	1	X線回折装置	更新	JKA補助	2	ノイズ耐性試験機	更新	自主財源	3	蛍光 X 線膜厚計	新規	<p>年度計画を十分達成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 企業のニーズを反映した機器整備（3 機器）</li> <li>○ 技術支援サービス向上に必要な機器整備（新規・更新・増設：29 機器）</li> <li>○ 機器寿命の長期化のための修繕等（3 機器）</li> <li>・ 機器活用事例パネルの作成・掲示：3 機器</li> <li>・ 機械加工関連企業利用促進対策の実施</li> <li>○ 開放機器一覧 2018 内に機器活用事例集を追加【新】</li> <li>○ 技術支援サービス等の満足度が 99%以上</li> </ul>
アンケート配布総数	847件																				
回答総数	213件																				
回収率	25.1%																				
1	X線回折装置	更新	JKA補助																		
2	ノイズ耐性試験機	更新	自主財源																		
3	蛍光 X 線膜厚計	新規																			

②試験研究や技術支援サービスの向上に必要な機器の整備(26機種(29機器))

1	粉末焼結式樹脂造形機	新規
2	構造最適化ソフトウェア	新規
3	アルカリ水電解用電解セル(2台)	増設
4	超純水製造装置	更新
5	蛍光顕微鏡	新規
6	小型高圧蒸気滅菌器	増設
7	大型インキュベーター	新規
8	加熱押し機	新規
9	輝度計	更新
10	スペクトルデータ解析用ソフトウェア	新規
11	高速スタンプミル	新規
12	精密研磨用ブラスト研磨装置	新規
13	直圧式ブラスト研磨装置	増設
14	電動式搾油機用制御部	新規
15	デシケータ	増設
16	EMI用疑似試験機	新規
17	UAV(無人航空機)	新規
18	電気化学測定用フラットセル	新規
19	加熱延伸機	新規
20	スピンコーター	新規
21	PCRサーマルサイクラー	更新
22	マイクロスコープ	増設
23	超音波洗浄機	増設
24	電動フルイ	増設
25	LoRaゲートウェイ(Ethernet)(2台)	新規
26	LoRaゲートウェイ(3G)(2台)	新規

③機器寿命の長期化を図った機器（3機器）

1	立形マシニングセンター	修繕
2	人工気象室	修繕
3	電気炉	更新

※新規・増設・更新・修繕の定義

新規：新たな機器の導入

更新：既存機器の更新

増設：既存機器に新たな機器等を付加

修繕：故障中（一部故障を含む）の機器を従前と同じ機能で使用可能な状態に戻すもの

■機械加工関連パンフレット

精密加工技術分科会参加企業に先行配布。

■セミナー・個別相談（再掲p.21, p.24）

開催地	場所	開催日	人数
技術発表会	山ログランドホテル	3/13	88名
精密加工技術分科会	産技センター	3/15	29名

■技術支援アンケートの実施状況

項目	H26	H27	H28	H29	H30
アンケート配布総数	109件	107件	96件	166件	128件
回答総数	103件	103件	96件	152件	126件
回収率	94%	96%	100%	92%	98%
電話や窓口対応の満足度*1	98%	94%	94%	96%	98%
事務手続き等の満足度*1	95%	93%	99%	98%	98%
技術支援サービスの満足度*1	95%	96%	94%	96%	99%

\*1 満足度：満足・どちらかという満足

■開放機器の利用促進を目的とした機器利用研修会の開催状況

研修テーマ	開催日
X 線回折装置による結晶構造解析セミナー	2/21

■企業情報の活用促進

(株)東京商工リサーチの企業情報により、支援している関係企業の経営状況の把握等により適切な技術支援を行っている。

■技術支援サービスを企業が受ける目的の分析

技術相談に関しては、製品の品質評価が約 34%と最も多く、次いで新製品の開発が約 21%で、併せて約 55%を占める。続いてトラブル対策が約 12%で、製造方法・加工工程、技術情報の収集、その他の情報収集・相談及び人材育成が同程度で、5%前後となった。

開放機器に関しては、製品の品質評価が約 28%、新製品の開発が約 25%、次いで基礎研究が約 23%を占める。

依頼試験に関しては、製品の品質評価が約 80%を占める。

(利用目的の分類)

①基礎研究、②新製品の開発、③製品の品質評価、④トラブル対策(クレーム処理)、⑤製造工程の管理、⑥技術情報の収集(①～⑤に分類できない技術的な問い合わせ)、⑦その他の情報収集・相談(補助金情報、企業紹介等の技術的な相談以外、技術課題の無い企業訪問)、⑧製品の製造に関する作業、⑨人材育成、⑩その他( )

<p>ア 開放機器</p> <p>新規導入機器の速やかな開放や時間外開放などによる利便性の向上に努めるとともに、計画的な機器の保守・校正を継続的に行うことで開放機器の信頼性を確保する。</p>	<p>ア 開放機器</p> <p>新規導入機器の速やかな開放や時間外開放、使用料減免等による利便性の向上に努めるとともに、計画的な機器の保守・校正を継続的に行うことで開放機器の信頼性を確保する。</p>	<p>3</p>	<p>新規導入機器については、研究目的以外の多くの機器を開放し、既存の機器については、計画的な機器の保守・校正を継続的に行うことで開放機器の信頼性を確保した。</p> <p>H28年度に運用を開始した中国地域5県の企業の使用料を県内と同一料金とする制度の利用は、110件（H29:86件、H28:41件）であった。また、開放機器一覧2018を作成し、利用企業に配布した。</p> <p>なお、利用件数、利用金額とも昨年度とほぼ同程度であった。</p> <p>技術革新計画を承認された企業に対して開放機器の使用料金の減免措置を講じる制度の利用企業は、1社であった（再掲p.29）。</p> <p>■開放機器利用実績推移（独法化以降）</p> <table border="1" data-bbox="1409 955 2730 1144"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="5">第1期</th> <th colspan="5">第2期</th> </tr> <tr> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>利用件数(件)</td> <td>2,526</td> <td>2,584</td> <td>2,791</td> <td>2,825</td> <td>3,129</td> <td>3,078</td> <td>3,565</td> <td>3,430</td> <td>3,066</td> <td>3,068</td> </tr> <tr> <td>利用金額(千円)</td> <td>12,535</td> <td>14,316</td> <td>16,198</td> <td>16,296</td> <td>16,933</td> <td>20,629</td> <td>20,078</td> <td>20,482</td> <td>17,904</td> <td>17,519</td> </tr> </tbody> </table>		第1期					第2期					H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	利用件数(件)	2,526	2,584	2,791	2,825	3,129	3,078	3,565	3,430	3,066	3,068	利用金額(千円)	12,535	14,316	16,198	16,296	16,933	20,629	20,078	20,482	17,904	17,519	<p>年度計画を概ね達成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・計画的な機器の保守・校正を継続的に行い、開放機器の信頼性を確保</li> <li>・中国地域5県の企業の使用料を県内と同一料金とする制度の利用：110件（H29:86件、H28:41件）</li> <li>・開放機器一覧の継続的な配布</li> <li>・利用件数、利用金額とも昨年度とほぼ同程度</li> </ul>
	第1期					第2期																																									
	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30																																					
利用件数(件)	2,526	2,584	2,791	2,825	3,129	3,078	3,565	3,430	3,066	3,068																																					
利用金額(千円)	12,535	14,316	16,198	16,296	16,933	20,629	20,078	20,482	17,904	17,519																																					
<p>イ 依頼試験</p> <p>試験方法の見直しや機器の保守、校正を継続的に行うことで、試験結果の公正性を確保するとともに、試験項目になくても企業が望む試験に対してはオーダーメイド試験により、柔軟な対応を行う。</p>	<p>イ 依頼試験</p> <p>試験方法の見直しや機器の保守、校正を継続的に行うことで、試験結果の公正性を確保するとともに、試験項目になくても企業が望む試験に対してはオーダーメイド試験により、柔軟な対応を行う。</p>	<p>4</p>	<p>試験方法の見直しや機器の保守、校正を継続的に行うことで、試験結果の公正性を確保するとともに、試験項目になくても企業が望む試験に対してはオーダーメイド試験により、試験内容の充実と柔軟な対応を引き続き行った。その結果、<u>依頼試験の利用件数・オーダーメイド試験の利用件数が共に過去最高となった。</u></p> <p>■依頼試験、オーダーメイド試験の利用件数</p> <table border="1" data-bbox="1439 1606 2329 1753"> <thead> <tr> <th></th> <th>依頼試験総数</th> <th>左のうちオーダーメイド試験</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>利用件数</td> <td>774件</td> <td>178件(23.0%)</td> </tr> <tr> <td>利用金額</td> <td>11,826千円</td> <td>6,244千円(52.8%)</td> </tr> </tbody> </table>		依頼試験総数	左のうちオーダーメイド試験	利用件数	774件	178件(23.0%)	利用金額	11,826千円	6,244千円(52.8%)	<p>年度計画を十分達成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・試験方法の見直しや機器の保守、校正を継続的に行い、試験結果の公正性を確保と、オーダーメイド試験による柔軟な対応</li> <li>○<u>利用件数が過去最高</u></li> </ul>																																		
	依頼試験総数	左のうちオーダーメイド試験																																													
利用件数	774件	178件(23.0%)																																													
利用金額	11,826千円	6,244千円(52.8%)																																													

		<p>■ 依頼試験実績推移（独法化以降）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="5">第1期</th> <th colspan="5">第2期</th> </tr> <tr> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>利用件数(件)</td> <td>625</td> <td>609</td> <td>673</td> <td>639</td> <td>728</td> <td>621</td> <td>558</td> <td>577</td> <td>643</td> <td>774</td> </tr> <tr> <td>利用金額(千円)</td> <td>5,362</td> <td>8,059</td> <td>7,201</td> <td>9,303</td> <td>9,773</td> <td>8,840</td> <td>10,688</td> <td>13,446</td> <td>14,176</td> <td>11,826</td> </tr> <tr> <td>内O.M.*利用件数(件)</td> <td>36</td> <td>64</td> <td>102</td> <td>115</td> <td>137</td> <td>125</td> <td>122</td> <td>170</td> <td>147</td> <td>178</td> </tr> <tr> <td>(%)</td> <td>5.8</td> <td>10.5</td> <td>15.2</td> <td>18.0</td> <td>18.8</td> <td>20.1</td> <td>21.9</td> <td>29.5</td> <td>22.9</td> <td>23.0</td> </tr> <tr> <td>内O.M.*利用金額(千円)</td> <td>479</td> <td>2,432</td> <td>2,859</td> <td>4,014</td> <td>3,348</td> <td>3,164</td> <td>5,777</td> <td>8,780</td> <td>8,237</td> <td>6,244</td> </tr> <tr> <td>(%)</td> <td>8.9</td> <td>30.2</td> <td>39.7</td> <td>43.1</td> <td>34.3</td> <td>35.8</td> <td>54.1</td> <td>65.3</td> <td>58.1</td> <td>52.8</td> </tr> </tbody> </table> <p>* O.M.: オーダーメイド</p>				第1期					第2期					H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	利用件数(件)	625	609	673	639	728	621	558	577	643	774	利用金額(千円)	5,362	8,059	7,201	9,303	9,773	8,840	10,688	13,446	14,176	11,826	内O.M.*利用件数(件)	36	64	102	115	137	125	122	170	147	178	(%)	5.8	10.5	15.2	18.0	18.8	20.1	21.9	29.5	22.9	23.0	内O.M.*利用金額(千円)	479	2,432	2,859	4,014	3,348	3,164	5,777	8,780	8,237	6,244	(%)	8.9	30.2	39.7	43.1	34.3	35.8	54.1	65.3	58.1	52.8
	第1期					第2期																																																																																					
	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30																																																																																	
利用件数(件)	625	609	673	639	728	621	558	577	643	774																																																																																	
利用金額(千円)	5,362	8,059	7,201	9,303	9,773	8,840	10,688	13,446	14,176	11,826																																																																																	
内O.M.*利用件数(件)	36	64	102	115	137	125	122	170	147	178																																																																																	
(%)	5.8	10.5	15.2	18.0	18.8	20.1	21.9	29.5	22.9	23.0																																																																																	
内O.M.*利用金額(千円)	479	2,432	2,859	4,014	3,348	3,164	5,777	8,780	8,237	6,244																																																																																	
(%)	8.9	30.2	39.7	43.1	34.3	35.8	54.1	65.3	58.1	52.8																																																																																	
ウ 受託研究・共同研究	ウ 受託研究・共同研究	3	<p>企業ニーズに即応し、受託研究・共同研究の受入を行い、開始時期や研究期間についても柔軟に対応した。</p> <p>■ 受託研究・共同研究の実績と複数年度にまたがる受入状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>受入件数</th> <th>うち、複数年度にまたがるもの</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>共同研究</td> <td>12件</td> <td>4件</td> </tr> <tr> <td>受託研究</td> <td>9件</td> <td>0件</td> </tr> </tbody> </table>		受入件数	うち、複数年度にまたがるもの	共同研究	12件	4件	受託研究	9件	0件	<p>年度計画を概ね達成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業からの共同研究（12件）・受託研究（9件）を実施</li> <li>・開始時期、研究期間の柔軟な対応（共同研究4テーマ）</li> </ul>																																																																														
	受入件数	うち、複数年度にまたがるもの																																																																																									
共同研究	12件	4件																																																																																									
受託研究	9件	0件																																																																																									
エ 技術者研修	エ 技術者研修	3	<p>企業の要望に即応して企業の技術者を受け入れる所内研修や職員を企業に派遣する所外研修等を行った。また、技術動向や課題解決手法等に関するセミナーを開催した。</p> <p>■ 技術者受入れ所内研修の実施状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>人数</th> <th>受入期間</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>技術者受入研修</td> <td>1名</td> <td>7/4,5,9,10,11</td> </tr> <tr> <td>スポット研修(2週間以内)</td> <td>10名</td> <td>5/22-31,9/13-14,1/17-21,2/18-22</td> </tr> <tr> <td>学生研修生</td> <td>1名</td> <td>8/6-3/31</td> </tr> <tr> <td>インターンシップ研修生</td> <td>2名</td> <td>7/2-27,7/30-8/31</td> </tr> </tbody> </table>		人数	受入期間	技術者受入研修	1名	7/4,5,9,10,11	スポット研修(2週間以内)	10名	5/22-31,9/13-14,1/17-21,2/18-22	学生研修生	1名	8/6-3/31	インターンシップ研修生	2名	7/2-27,7/30-8/31	<p>年度計画を概ね達成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職員派遣研修2件（派遣職員数7人）</li> <li>・技術者受入研修11名</li> </ul>																																																																								
	人数	受入期間																																																																																									
技術者受入研修	1名	7/4,5,9,10,11																																																																																									
スポット研修(2週間以内)	10名	5/22-31,9/13-14,1/17-21,2/18-22																																																																																									
学生研修生	1名	8/6-3/31																																																																																									
インターンシップ研修生	2名	7/2-27,7/30-8/31																																																																																									

			<p>■企業に派遣する所外研修の実施状況</p> <table border="1" data-bbox="1448 331 2332 558"> <thead> <tr> <th>研修テーマ</th> <th>派遣職員数</th> <th>派遣期間</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">表面処理技術の習得と環境対策</td> <td>2名</td> <td>7日(7時間)</td> </tr> <tr> <td>2名</td> <td>7日(7時間)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">『幾何公差』の使い方</td> <td rowspan="2">3名</td> <td>1日(2時間)</td> </tr> <tr> <td>1日(1時間)</td> </tr> </tbody> </table> <p>■技術動向や課題解決手法等に関するセミナーの開催状況</p> <table border="1" data-bbox="1448 646 2718 947"> <thead> <tr> <th>セミナー名</th> <th>開催日</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>戦略産業雇用創造プロジェクト関連セミナー(計4回)</td> <td>1/10,10/15,11/15,1/18</td> </tr> <tr> <td>水素関連技術マッチングセミナー</td> <td>11/8</td> </tr> <tr> <td>X線回折装置による結晶構造解析セミナー</td> <td>2/21</td> </tr> <tr> <td>※やまぐちブランド技術研究会、新エネルギー研究会、3Dものづくり研究会、衛星データ解析技術研究会、表面改質・湿式表面処理技術分科会、精密加工技術分科会、スマート★づくり研究会</td> <td>再掲 p. 24-27</td> </tr> </tbody> </table>	研修テーマ	派遣職員数	派遣期間	表面処理技術の習得と環境対策	2名	7日(7時間)	2名	7日(7時間)	『幾何公差』の使い方	3名	1日(2時間)	1日(1時間)	セミナー名	開催日	戦略産業雇用創造プロジェクト関連セミナー(計4回)	1/10,10/15,11/15,1/18	水素関連技術マッチングセミナー	11/8	X線回折装置による結晶構造解析セミナー	2/21	※やまぐちブランド技術研究会、新エネルギー研究会、3Dものづくり研究会、衛星データ解析技術研究会、表面改質・湿式表面処理技術分科会、精密加工技術分科会、スマート★づくり研究会	再掲 p. 24-27	
研修テーマ	派遣職員数	派遣期間																								
表面処理技術の習得と環境対策	2名	7日(7時間)																								
	2名	7日(7時間)																								
『幾何公差』の使い方	3名	1日(2時間)																								
		1日(1時間)																								
セミナー名	開催日																									
戦略産業雇用創造プロジェクト関連セミナー(計4回)	1/10,10/15,11/15,1/18																									
水素関連技術マッチングセミナー	11/8																									
X線回折装置による結晶構造解析セミナー	2/21																									
※やまぐちブランド技術研究会、新エネルギー研究会、3Dものづくり研究会、衛星データ解析技術研究会、表面改質・湿式表面処理技術分科会、精密加工技術分科会、スマート★づくり研究会	再掲 p. 24-27																									
<p>オ 新事業創造支援センターの効果的活用</p> <p>新事業創造支援センターを、県内企業や新規立地企業の技術開発による新事業展開を促進する場として効果的に活用する。</p>	<p>オ 新事業創造支援センターの効果的活用</p> <p>入居メリット（機器利用料の減免措置）や入居要件の緩和（大企業やセンターの支援制度（開放機器、依頼試験、受託研究、共同研究）又は知的財産権を利用する中小企業等のスポット利用）をPRすることにより利用促進を図る。</p>	<p>4</p>	<p>入居企業に対する開放機器使用料金の減免措置制度及び1企業最大2室までの使用許諾を継続的に実施した。</p> <p>加えて、新事業創造支援センターの利用促進を図るために、パンフレット等を活用して積極的なPRに努めた。</p> <p><u>その結果、平成30年度内の新規入居数は2社となり、H27年度以降減少を続けていた入居企業数（室数）が増加に転じた。</u></p> <p><u>また、技術革新計画の知事承認企業に対する月額使用料金減免措置の制度利用企業は3社、入居企業からの申請に基づく産学連携料金（減免措置）の適用企業は2社に増加した（再掲p.29）。</u></p> <p>加えて、入居企業に対する開放機器使用料金減免措置の制度利用企業は1社であった（再掲p.29）</p> <p>■支援センターの入居状況（全12室）</p> <table border="1" data-bbox="1436 1646 2270 1745"> <thead> <tr> <th></th> <th>H30年度末時点</th> <th>減免措置制度利用</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入居企業数（室数）</td> <td>6社（7室）</td> <td>うち5社</td> </tr> </tbody> </table>		H30年度末時点	減免措置制度利用	入居企業数（室数）	6社（7室）	うち5社	<p>年度計画を十分に達成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用促進を図るため、パンフレット等を活用してPR</li> <li>・各種減免措置等の継続実施</li> </ul> <p>○平成30年度内の新規入居が2社となり入居企業数が増加傾向に転じた</p> <p>○減免措置制度の利用企業が5社に増加</p>																
	H30年度末時点	減免措置制度利用																								
入居企業数（室数）	6社（7室）	うち5社																								

第1-3(5) 数値目標

中期計画	H30年度の年度計画	評価	H30年度計画の達成状況等の具体的説明	評価の理由等																
ア 技術相談件数  中期計画期間中の5年間合計 16,500件	ア 技術相談件数  年間 3,300件	5	ア 技術相談件数 4,368件	年度計画を十二分に達成 達成度 132%																
イ 訪問企業数  中期計画期間中の5年間合計 1,150社	イ 訪問企業数  年間 230社	5	イ 訪問企業数 414社 (うち研究員による企業訪問数 309社) (うちイノベーション推進センターによる企業訪問数 264社) ※重複企業数 159社	年度計画を十二分に達成 達成度 180%																
ウ 開放機器・依頼試験の利用件数  中期計画期間中の5年間合計 15,200件	ウ 開放機器・依頼試験の利用件数  年間 3,040件	5	ウ 開放機器・依頼試験の利用件数 3,842件  <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H30年度実績</th> <th>項目別見込み値</th> <th>達成度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>開放機器利用件数</td> <td>3,068件</td> <td>2,400件</td> <td>128%</td> </tr> <tr> <td>依頼試験利用件数</td> <td>774件</td> <td>640件</td> <td>121%</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>3,842件</td> <td>3,040件</td> <td>126%</td> </tr> </tbody> </table>		H30年度実績	項目別見込み値	達成度	開放機器利用件数	3,068件	2,400件	128%	依頼試験利用件数	774件	640件	121%	計	3,842件	3,040件	126%	年度計画を十二分に達成 達成度 126%
	H30年度実績	項目別見込み値	達成度																	
開放機器利用件数	3,068件	2,400件	128%																	
依頼試験利用件数	774件	640件	121%																	
計	3,842件	3,040件	126%																	

大項目	第 2 業務運営の改善及び効率化に関する事項
中項目	1 運営体制や経営資源配分の継続的見直し

中 期 目 標	<p>&lt;業務運営の改善及び効率化に関する目標&gt;</p> <p>業務運営の更なる効率化に資するため、引き続き理事長のトップマネジメントのもと、運営体制や経営資源の配分について継続的に見直しを行う。</p> <p>また、企業ニーズや社会経済情勢の変化に的確に対応するため、職員の職能開発を計画的に実施するとともに、開かれた法人運営を一層進めることができるよう、法人のサービス業務の「見える化」を図る。</p> <p>さらに、コンプライアンスの確保や情報管理を徹底するとともに、危機管理対策の充実を図る。</p>
------------------	---

第 2 - 1 運営体制や経営資源配分の継続的見直し

中期計画	H30 年度の年度計画	評価	H30 年度計画の達成状況等の具体的説明	評価の理由等
<p>運営体制や経営資源の配分についての調査検討及び適時見直し</p> <p>センター運営の一層の効率化を図るため、運営体制や経営資源の配分の在り方について調査検討を行い、その結果に基づき必要な措置を講ずる。</p> <p>また、その運用状況を踏まえ適時適切な見直しを行う。</p>	<p>運営体制や経営資源の配分についての調査検討及び適時見直し</p> <p>運営体制や経営資源の配分について、経営委員会、企業支援委員会における理事長による迅速な意思決定を行う。</p> <p>また、全体会議等の開催による全職員の情報共有、若年者と役員との座談会の開催、職員提案制度を実施する。</p> <p>さらに、経営管理部を中心とし、他県の状況を調査検討の上、業務の質的な改善、進捗管理と適時適切な見直しを行う。</p>	3	<p>主要な役職者等からなる経営委員会と、それに企業支援委員会を合体させた合同会議を、理事長が定期的に招集・開催して、経営面や企業支援サービス面の重要事項の審議を行った。</p> <p>また、全体会議を 4 回、若年者と役員との座談会を 3 グループに分けて計 8 回開催した。</p> <p>また、産技センター定年退職者の豊富な知識や経験を活用するため、H28 年度に創設した再任用制度に基づき、H30 年度には定年退職者 2 名をシニアスタッフとして再任用し、技術相談室に配置した。</p> <p>業務の改善については、<u>国税ダイレクト方式電子納税を採用して業務効率化を図る【新】</u>など、改善・見直しを行った。</p> <p>■経営委員会 開催回数 36 回</p> <p>■合同会議（経営委員会＋企業支援委員会） 開催回数 1 回</p> <p>■全体会議 4 回 ・全体会議（5/23、10/3、12/19、3/13）</p> <p>■若年者と役員の座談会 8 回 （A グループ） 5/15、10/26、2/26（B グループ） 6/20、12/20、3/19 （C グループ） 8/8、1/23</p>	<p>年度計画を概ね達成</p> <p>・経営委員会、合同会議及び全体会議の定期的開催による迅速な意志決定</p> <p>・定年退職者の豊富な知識や経験を活用するため、再任用制度により 2 名のシニアスタッフを配置</p> <p>○<u>国税ダイレクト方式電子納税を採用して業務効率化【新】</u></p>

大項目	第 2 業務運営の改善及び効率化に関する事項
中項目	2 職員の職能開発の計画的実施

第 2 - 2 職員の職能開発の計画的実施

中期計画	H30 年度の年度計画	評価	H30 年度計画の達成状況等の具体的説明	評価の理由等																																												
<p>研修計画に基づく体系的・計画的な研修の実施</p> <p>職員の業務遂行能力と意欲の向上に向け、中小企業大学校やひとづくり財団等の研修機関による研修や内部研修、大学など外部機関への研修派遣を、研修計画に基づいて体系的・計画的に実施する。また、研究成果の学会発表、論文発表、特許出願等について、職員が外部から評価を受ける機会として活用する。</p>	<p>研修計画に基づく体系的・計画的な研修の実施</p> <p>平成 29 年度に整理した人材育成の基本方針に従って研修計画を策定し、計画に基づき体系的・計画的に実施する。</p> <p>(一般的業務遂行能力開発研修)</p> <p>◎公務員研修</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○階層別研修 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ひとづくり財団等の研修(階層別)</li> </ul> </li> <li>○キャリア形成支援研修 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ひとづくり財団等の研修(能力開発研修等)</li> </ul> </li> </ul> <p>◎産技センター職員研修</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○業務基礎研修 <ul style="list-style-type: none"> <li>・新採職員研修、所内事務システム研修等</li> <li>・中小企業大学校(公設試験研究機関用プログラム等)</li> <li>・中四国公設試合同研修会</li> </ul> </li> <li>○リスクマネジメント教育・訓練</li> </ul>	3	<p>H29 年度に整理した人材育成の基本方針に従って研修計画を策定し、この計画に基づき、外部機関で開催される研修への派遣や所内研修の開催を積極的に実施した。</p> <p>また、H29 年度から開始した弁理士を交えた技術グループ毎の知財勉強会を引き続き実施した。(再掲 p.23)</p> <p>■職員の研修への派遣</p> <p>①-1 公務員研修(階層別研修)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>研修テーマ</th> <th>研修人数</th> <th>研修日</th> <th>研修先</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>新規採用職員課程(前期)研修</td> <td>2名</td> <td>4/16-20</td> <td>山口県セミナーパーク</td> </tr> <tr> <td>主任級課程研修</td> <td>4名</td> <td>6/7-8, 6/14-15</td> <td>山口県セミナーパーク</td> </tr> <tr> <td>主任主事級課程研修</td> <td>1名</td> <td>7/17-18</td> <td>山口県セミナーパーク</td> </tr> <tr> <td>主事級課程研修</td> <td>1名</td> <td>9/26-28</td> <td>山口県セミナーパーク</td> </tr> <tr> <td>新規採用職員課程(後期)研修</td> <td>2名</td> <td>10/15-19</td> <td>山口県セミナーパーク</td> </tr> </tbody> </table> <p>①-2 公務員研修(キャリア形成支援研修)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>研修テーマ</th> <th>研修人数</th> <th>研修日</th> <th>研修先</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>クレーム対応力向上講座</td> <td>1名</td> <td>8/3</td> <td>山口県セミナーパーク</td> </tr> <tr> <td>生活充実型ライフプランセミナー</td> <td>1名</td> <td>9/6</td> <td>山口県庁</td> </tr> <tr> <td>働き方改革関連法説明会</td> <td>1名</td> <td>12/11</td> <td>山口県総合保健会館</td> </tr> <tr> <td>心を強くするメンタルマネジメント講座</td> <td>3名</td> <td>1/24</td> <td>山口県セミナーパーク</td> </tr> </tbody> </table>	研修テーマ	研修人数	研修日	研修先	新規採用職員課程(前期)研修	2名	4/16-20	山口県セミナーパーク	主任級課程研修	4名	6/7-8, 6/14-15	山口県セミナーパーク	主任主事級課程研修	1名	7/17-18	山口県セミナーパーク	主事級課程研修	1名	9/26-28	山口県セミナーパーク	新規採用職員課程(後期)研修	2名	10/15-19	山口県セミナーパーク	研修テーマ	研修人数	研修日	研修先	クレーム対応力向上講座	1名	8/3	山口県セミナーパーク	生活充実型ライフプランセミナー	1名	9/6	山口県庁	働き方改革関連法説明会	1名	12/11	山口県総合保健会館	心を強くするメンタルマネジメント講座	3名	1/24	山口県セミナーパーク	<p>年度計画を概ね達成</p> <p>・研修計画に基づき、外部機関への研修派遣や外部講師を活用した所内研修を実施</p>
研修テーマ	研修人数	研修日	研修先																																													
新規採用職員課程(前期)研修	2名	4/16-20	山口県セミナーパーク																																													
主任級課程研修	4名	6/7-8, 6/14-15	山口県セミナーパーク																																													
主任主事級課程研修	1名	7/17-18	山口県セミナーパーク																																													
主事級課程研修	1名	9/26-28	山口県セミナーパーク																																													
新規採用職員課程(後期)研修	2名	10/15-19	山口県セミナーパーク																																													
研修テーマ	研修人数	研修日	研修先																																													
クレーム対応力向上講座	1名	8/3	山口県セミナーパーク																																													
生活充実型ライフプランセミナー	1名	9/6	山口県庁																																													
働き方改革関連法説明会	1名	12/11	山口県総合保健会館																																													
心を強くするメンタルマネジメント講座	3名	1/24	山口県セミナーパーク																																													

②-1 産技センター職員研修（業務基礎研修）

研修テーマ	研修人数	研修日	研修先
新産業振興課の組織・予算・事業概要について	2名	6/7	山口県庁（新産業振興課）
やまぐち産業振興財団の組織・事業概要について	2名	6/7	やまぐち産業振興財団
平成30年度知的財産権研修[初級]（第1回）	1名	6/12-15	独立行政法人工業所有権情報・研修館
知的財産（特許文献の読み方、事例等）	10名	7/5	産技センター
公務員倫理及び地域接遇研修	4名	7/10	山口県宇部総合庁舎
新規採用職員研修（県内企業）	11名	8/24	大晃機械工業(株)
特許情報検索講習会	2名	9/19-21	山口大学吉田キャンパス
中国・四国地域公設試験研究機関研究者合同研修会	2名	9/20-21	松江テルサ 島根県産業技術センター
パテントマップ講習会	1名	10/19	大阪産業創造館
公設試験研究機関研究職員研修(基礎)	2名	1/8-11	中小企業大学校

②-2 産技センター職員研修（リスクマネジメント教育・訓練）

研修テーマ	研修人数	研修日	研修先
ハラスメント防止研修	77名	6/5,7/24,8/16	産業技術センター
管理職のための組織メンタルケア研修	1名	7/17	パナソニックエコソリューションズ創研
交通安全講習会	1名	9/11	山口県宇部総合庁舎
職場トラブル防止のための労務リスクマネジメント研修	1名	9/7	パナソニックエコソリューションズ創研
管理監督者・職場リーダーのためのラインケアセミナー	1名	11/20	大阪労働衛生総合センター

	<p>(専門的業務遂行能力研修)</p> <p>○職務別研修</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・OJT 及びそれに付帯する研修等 また、外部評価を利用した人材育成や職員の技術開発能力の向上のため、職員が外部から評価を受ける機会を活用する。</li> <li>・研究成果の学会等での外部発表や論文投稿 (学会で技術的討議)</li> <li>・研究開発や技術支援で得られた成果の特許出願 (実用レベルでの検証)</li> </ul> <p>○キャリア形成支援研修 (職員提案型研修を含む)</p>	<p>③-1 専門的業務遂行能力開発研修 (職務別研修・事務職員)</p> <table border="1" data-bbox="1448 268 2712 590"> <thead> <tr> <th>研修テーマ</th> <th>研修人数</th> <th>研修日</th> <th>研修先</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>事業系一般廃棄物の資源化・減量化計画書に係る説明会</td> <td>1名</td> <td>5/22</td> <td>ときわ湖水ホール</td> </tr> <tr> <td>情報公開・個人情報保護研修</td> <td>1名</td> <td>5/28</td> <td>山口県庁(学事文書課)</td> </tr> <tr> <td>債権管理研修会</td> <td>2名</td> <td>7/10</td> <td>山口県庁</td> </tr> <tr> <td>基礎講習会(下請法、優越的地位の濫用規制)</td> <td>1名</td> <td>7/13</td> <td>宇部市文化会館</td> </tr> <tr> <td>消費税の軽減税率制度説明会</td> <td>1名</td> <td>9/11</td> <td>ユーピーアールスタジアム</td> </tr> </tbody> </table> <p>③-2 専門的業務遂行能力開発研修 (職務別研修・研究員)</p> <table border="1" data-bbox="1448 657 2712 1814"> <thead> <tr> <th>研修テーマ</th> <th>研修人数</th> <th>研修日</th> <th>研修先</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>蛍光 X 線定期講習会 (走査型コース)</td> <td>1名</td> <td>5/9-11</td> <td>株式会社リガク(東京都昭島市)</td> </tr> <tr> <td>測定の正当性に必要な不確かさについて概念から実際の計測までの研修</td> <td>1名</td> <td>5/8-9,9/19-20,12/19-20</td> <td>(株)ミットヨ大阪営業所(大阪市住之江区)</td> </tr> <tr> <td>品質管理に必要な幾何公差について必要性や表示からその解釈までの研修</td> <td>1名</td> <td>5/24-25,9/11-12</td> <td>(株)ミットヨ大阪営業所(大阪市住之江区)</td> </tr> <tr> <td>破面解析(フラクトグラフィ)と破面観察・破損原因究明の実践演習講座</td> <td>1名</td> <td>6/17-18</td> <td>日本テクノセンター (東京都新宿区)</td> </tr> <tr> <td>SEM・EDS セミナー～SEM・EDS 操作入門編</td> <td>1名</td> <td>6/18</td> <td>福岡朝日ビル会議室 (福岡市)</td> </tr> <tr> <td>エックス線作業主任者受験準備講習会</td> <td>1名</td> <td>6/19-21</td> <td>RCC文化センター(広島市)</td> </tr> <tr> <td>フタル酸エステル類分析ワークショップ (RoHS2 指令のフタル酸エステル類の分析方法の体験実習)</td> <td>1名</td> <td>6/21</td> <td>(株)島津製作所(京都市)</td> </tr> <tr> <td>Google Earth Engine を用いたリモートセンシング講座</td> <td>1名</td> <td>6/25-26</td> <td>一般財団法人リモート・センシング技術センター(東京都港区虎ノ門)</td> </tr> <tr> <td>バイオ実習セミナー (低真空走査電子顕微鏡の技術に関する研修)</td> <td>1名</td> <td>7/6-9</td> <td>(地独)大阪産業技術研究所森之宮センター</td> </tr> <tr> <td>エックス線作業主任者の免許受験</td> <td>1名</td> <td>7/10</td> <td>中四国安全衛生技術センター(広島県福山市)</td> </tr> <tr> <td>形状偏差の測定に必要な知識について測定方法から実習までの研修</td> <td>1名</td> <td>7/18-19,9/19-20,12/11-12</td> <td>(株)ミットヨ本社 (川崎市)</td> </tr> <tr> <td>米粉利用拡大セミナー</td> <td>1名</td> <td>7/27</td> <td>岡山地方合同庁舎</td> </tr> </tbody> </table>	研修テーマ	研修人数	研修日	研修先	事業系一般廃棄物の資源化・減量化計画書に係る説明会	1名	5/22	ときわ湖水ホール	情報公開・個人情報保護研修	1名	5/28	山口県庁(学事文書課)	債権管理研修会	2名	7/10	山口県庁	基礎講習会(下請法、優越的地位の濫用規制)	1名	7/13	宇部市文化会館	消費税の軽減税率制度説明会	1名	9/11	ユーピーアールスタジアム	研修テーマ	研修人数	研修日	研修先	蛍光 X 線定期講習会 (走査型コース)	1名	5/9-11	株式会社リガク(東京都昭島市)	測定の正当性に必要な不確かさについて概念から実際の計測までの研修	1名	5/8-9,9/19-20,12/19-20	(株)ミットヨ大阪営業所(大阪市住之江区)	品質管理に必要な幾何公差について必要性や表示からその解釈までの研修	1名	5/24-25,9/11-12	(株)ミットヨ大阪営業所(大阪市住之江区)	破面解析(フラクトグラフィ)と破面観察・破損原因究明の実践演習講座	1名	6/17-18	日本テクノセンター (東京都新宿区)	SEM・EDS セミナー～SEM・EDS 操作入門編	1名	6/18	福岡朝日ビル会議室 (福岡市)	エックス線作業主任者受験準備講習会	1名	6/19-21	RCC文化センター(広島市)	フタル酸エステル類分析ワークショップ (RoHS2 指令のフタル酸エステル類の分析方法の体験実習)	1名	6/21	(株)島津製作所(京都市)	Google Earth Engine を用いたリモートセンシング講座	1名	6/25-26	一般財団法人リモート・センシング技術センター(東京都港区虎ノ門)	バイオ実習セミナー (低真空走査電子顕微鏡の技術に関する研修)	1名	7/6-9	(地独)大阪産業技術研究所森之宮センター	エックス線作業主任者の免許受験	1名	7/10	中四国安全衛生技術センター(広島県福山市)	形状偏差の測定に必要な知識について測定方法から実習までの研修	1名	7/18-19,9/19-20,12/11-12	(株)ミットヨ本社 (川崎市)	米粉利用拡大セミナー	1名	7/27	岡山地方合同庁舎
研修テーマ	研修人数	研修日	研修先																																																																											
事業系一般廃棄物の資源化・減量化計画書に係る説明会	1名	5/22	ときわ湖水ホール																																																																											
情報公開・個人情報保護研修	1名	5/28	山口県庁(学事文書課)																																																																											
債権管理研修会	2名	7/10	山口県庁																																																																											
基礎講習会(下請法、優越的地位の濫用規制)	1名	7/13	宇部市文化会館																																																																											
消費税の軽減税率制度説明会	1名	9/11	ユーピーアールスタジアム																																																																											
研修テーマ	研修人数	研修日	研修先																																																																											
蛍光 X 線定期講習会 (走査型コース)	1名	5/9-11	株式会社リガク(東京都昭島市)																																																																											
測定の正当性に必要な不確かさについて概念から実際の計測までの研修	1名	5/8-9,9/19-20,12/19-20	(株)ミットヨ大阪営業所(大阪市住之江区)																																																																											
品質管理に必要な幾何公差について必要性や表示からその解釈までの研修	1名	5/24-25,9/11-12	(株)ミットヨ大阪営業所(大阪市住之江区)																																																																											
破面解析(フラクトグラフィ)と破面観察・破損原因究明の実践演習講座	1名	6/17-18	日本テクノセンター (東京都新宿区)																																																																											
SEM・EDS セミナー～SEM・EDS 操作入門編	1名	6/18	福岡朝日ビル会議室 (福岡市)																																																																											
エックス線作業主任者受験準備講習会	1名	6/19-21	RCC文化センター(広島市)																																																																											
フタル酸エステル類分析ワークショップ (RoHS2 指令のフタル酸エステル類の分析方法の体験実習)	1名	6/21	(株)島津製作所(京都市)																																																																											
Google Earth Engine を用いたリモートセンシング講座	1名	6/25-26	一般財団法人リモート・センシング技術センター(東京都港区虎ノ門)																																																																											
バイオ実習セミナー (低真空走査電子顕微鏡の技術に関する研修)	1名	7/6-9	(地独)大阪産業技術研究所森之宮センター																																																																											
エックス線作業主任者の免許受験	1名	7/10	中四国安全衛生技術センター(広島県福山市)																																																																											
形状偏差の測定に必要な知識について測定方法から実習までの研修	1名	7/18-19,9/19-20,12/11-12	(株)ミットヨ本社 (川崎市)																																																																											
米粉利用拡大セミナー	1名	7/27	岡山地方合同庁舎																																																																											

③-2 専門的業務遂行能力開発研修（職務別研修・研究員）（つづき）

研修テーマ	研修人数	研修日	研修先
3DCAD ソフトウェアの研修 (Fusion 360 Academy)	1名	7/28	住友不動産六本木府ランドタワー(東京都六本木)
藤枝市手もみ保存会夏の講習会	1名	7/28-30	藤枝市茶商工業協同組合
販路開拓セミナー	1名	8/3	山口グランドホテル
九州リオン環境騒音振動セミナー 2018	1名	8/24	福岡国際会議場
熱分析定期講習会 (熱分析スクール)	1名	9/27-28	株式会社リガク(東京都昭島市)
粗さ測定セミナー	1名	11/21-23	テクノプラザおかや
地理空間情報活用セミナー	1名	12/4	JA 共済ビル
3D 技術活用改革セミナー	1名	12/6	リコージャパン株式会社 山口支店
X線回折スクール 粉末定期講習会	1名	12/11-12	株式会社リガク(大阪高槻市)
商品企画の新アプローチ「意味のイノベーション」	1名	12/12	リファレンス西新宿
酸素欠乏・硫化水素作業主任者技能講習会	1名	12/12-14	山口市小郡ふれあいセンター
ミットヨ計測学院講座 (やさしい計測の不確かさ)	1名	12/18-20	株式会社ミットヨ 本社
「ICT スマート精密林業」研修会	1名	12/19	山口県庁
蛍光 X線定期講習会 (走査型コース)	1名	1/16-18	株式会社リガク(東京都昭島市)
第26回地域を活かす科学技術政策研修会 in 福島県郡山	1名	2/4-6	ふくしま医療機器開発支援センター
ステンレス鋼の選び方・使い方とトラブル対策	1名	2/5-6	連合会館 会議室
トポロジー最適化の基礎～積層造形によるものづくりへの応用～	1名	2/27	東京理科大学 神楽坂キャンパス(東京都新宿区)
構造最適化ソフトウェアのトレーニング	1名	3/6-8	アルテアエンジニアリング (株)大阪支社・名古屋支社

③-3 学協会等への発表及び特許等出願（職務別研修・研究員）

内容	件数
誌上発表	6件
口頭発表	27件
特許等出願	5件

④専門的業務遂行能力開発研修（キャリア形成支援研修）

研修テーマ	研修人数	派遣日	派遣先
ものづくりのためのIoT活用シリーズ ① IoT 基本習得セミナー	1名	6/21	日本能率協会
人間生活工学 -製品開発のための人間生活工学の基礎技術-	1名	7/9	中央大学駿河台記念館
ものづくりのためのIoT活用シリーズ ② IoTによるスマートファクトリ構築セミナー	1名	7/18-19	日本能率協会
新商品開発支援の進め方(1)	1名	8/7-10	中小企業大学校東京校
ものづくりのためのIoT活用シリーズ ③ IoT/AIを活用したデータ分析による付加価値向上	1名	8/27-28	日本能率協会
公設試等向け AI 道場	1名	3/19	産総研中国センター

⑤所内研修（新採職員研修、所内事務システム研修等）

新規採用職員については、採用後速やかに所内事務システム等に関する説明会を開催するとともに年間を通じて産技センターの業務について研修を行った。

⑥中四国公設試合同研修会への職員派遣（再掲 p.56）

研修テーマ	派遣人数	派遣期間	派遣先
中国四国地域公設試験研究機関研究者合同研修会	2名	9/20-21	島根県

⑦外部講師を招聘した職員研修

研修テーマ	参加人数	実施日	講師
ハラスメント防止研修（再掲 p.56）	77名(参加率100%)	6/5, 7/24, 8/16	宇佐美理世（うさみ労務経営事務所）
知的財産（特許文献の読み方、事例等）	18名	7/5	柴田賢哉（広島県立総合技術研究所 食品工業技術センター） 井上浩（維新国際特許事務所） 井手幸夫（アドバンス ト マテリアル テクノロジーズ株）
ハラスメント相談員のスキルアップ研修	2名	11/28	益田幾久江（山口産業保健総合支援センター）

大項目	第 2 業務運営の改善及び効率化に関する事項
中項目	3 法人サービス業務の「見える化」の推進

第 2 - 3 法人サービス業務の「見える化」の推進

中期計画	H30 年度の年度計画	評価	H30 年度計画の達成状況等の具体的説明	評価の理由等								
<p>第 2 期技術戦略の策定及び周知並びに情報発信内容及び方法の見直し</p> <p>センターが中期計画の達成に向けて取り組む研究開発や技術支援、産学公連携等の業務全体について、県内企業に分かり易く示すことができるよう第 2 期「技術戦略」を策定し広く周知する。</p> <p>また、サービス内容を紹介するパンフレットや成果事例集の発刊、成果発表会の開催、ホームページへの掲載等を適時適切に行えるよう、その内容・方法について継続的に見直しを行う。</p>	<p>第 2 期技術戦略の策定及び周知並びに情報発信内容及び方法の見直し</p> <p>策定した第 2 期「技術戦略」の冊子を活用して、県民に分かり易い情報発信を心がけるとともに、ホームページの機能強化、パンフレットの発刊や成果事例集の発刊と充実、成果発表会の開催、県内・県外イベント等での PR 活動、施設見学の誘致等を行う。</p>	3	<p>センターが中期計画の達成に向けて取り組む研究開発や技術支援、産学公連携等の業務全体について、県内企業に分かり易く示すことができるよう第 2 期「技術戦略」(ロードマップ)(H26策定)の冊子を県内企業に配布した。</p> <p>県内企業で事業化・商品化が行われた事例については、速やかに成果事例を作成し、ホームページに掲載・周知した。</p> <p>研究成果の普及を目的として、巡回技術報告会や技術発表会を前年度に継続して実施した(再掲 p.21)。</p> <p>また、県内外のイベントに出展して、センターの研究開発・技術支援の取組を PR した。</p> <p>前年度に引き続き、依頼試験・開放機器の見える化を図るため、機器活用事例を作成し、ホームページに公開するとともにパネル化して機器設置場所に掲示した(再掲 p.46)。併せて、保有機器 22 機種分の機器活用事例集を開放機器一覧 2018 の巻末に新たに加えることで機器利用の促進を図った(再掲 p.46)。</p> <p>県内で企業数の多い機械加工関連企業に着目し、その利用促進に向けて、課題把握・解決のための具体的な相談事例を掲載したパンフレット(機械加工事業者向け)の作成・先行配布を行った。(再掲 p.46)</p> <p>■刊行物の発行状況(再掲p.21)</p> <table border="1"> <tr> <td>センターパンフレット</td> <td>2,000部</td> </tr> <tr> <td>業務報告書</td> <td>600部</td> </tr> <tr> <td>研究報告書</td> <td>600部</td> </tr> <tr> <td>開放機器一覧2018</td> <td>1,000部</td> </tr> </table> <p>■機械加工関連パンフレット(機械加工事業者向け)(再掲p.46) 精密加工技術分科会参加者(29名)に先行配布。</p>	センターパンフレット	2,000部	業務報告書	600部	研究報告書	600部	開放機器一覧2018	1,000部	<p>年度計画を概ね達成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・刊行物(4 種類)を発行し、ホームページへの掲載や発表会・展示会等などを通じて広く配布</li> <li>・機器活用事例パネルの作成・掲示: 3 機器</li> <li>・機械加工関連企業利用促進対策のパンフレットの作成、先行配布</li> </ul>
センターパンフレット	2,000部											
業務報告書	600部											
研究報告書	600部											
開放機器一覧2018	1,000部											

■ 広告等掲載

機関誌「やまぐちの労働」 広告掲載	広告掲載
日刊工業新聞 理事長インタビュー	取組記事掲載
日刊工業新聞 山口県座談会特集 広告掲載	広告掲載

■ 巡回技術報告会、技術発表会の実施状況（再掲p.21, p.34）

名称	開催日	参加者数
第1回巡回技術報告会in周南地域地場産業振興センター	11/27	26名
やまぐち事業化支援・連携コーディネート会議「シーズ・ニーズ発表展示」	1/18	80名
技術発表会	3/13	88名

■ 県内・県外イベント等での PR 活動状況

① 県内

展示会等の名称	場所	展示内容	日程
第 11 回山口県しんきん合同ビジネスフェア	海峡メッセ下関	・技術支援成果内容 ・技術相談対応	5/16
やまぐち産業維新展	山口きらら博記念公園	・技術支援成果内容 ・技術相談対応	9/17-18
第 16 回長府企業フェスタ	下関競艇場	・パネルによる山口県産業技術センターの紹介 ・小学生以下を対象としたものづくり体験コーナー	10/20-21
やまぐち 6 次産業化・農商工連携推進大会交流会	カリエンテ山口	・食品関連開放機器等パネル等	11/1
山口食 2 プロジェクト	山口グランドホテル	・技術支援成果内容 ・技術相談対応	11/12

		<p>②県外</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>展示会等の名称</th> <th>場所</th> <th>展示内容</th> <th>日程</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Bio Japan 2018</td> <td>パシフィコ横浜</td> <td>やまぐちバイオ関連産業創出支援事業</td> <td>10/10-12</td> </tr> <tr> <td>HOSPEX Japan 2018</td> <td>東京ビッグサイト</td> <td>企業等の研究開発成果や実用化に向けた試作品等の出展支援(医療関連)</td> <td>11/20-22</td> </tr> <tr> <td>FC EXPO 2019</td> <td>東京ビッグサイト</td> <td>・山口県の取組 ・企業等の研究開発成果や実用化に向けた試作品等の出展(水素関連) ※山口県ブース(県・財団・産技 C)</td> <td>2/27-3/1</td> </tr> </tbody> </table> <p>■科学技術教室など、一般を対象とした法人の地域貢献活動</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>名称及び内容</th> <th>日程</th> <th>場所</th> <th>参加者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3D プリンター教室</td> <td>8/19</td> <td>周南市久米公民館</td> <td>4名</td> </tr> <tr> <td>夏休みジュニア科学教室「微生物燃料電池の製作及び土壌中で活動する菌群の観察」</td> <td>8/30</td> <td>産業技術センター</td> <td>15名</td> </tr> <tr> <td>第16回長府企業フェスタ(再掲) ・パネルによる山口県産業技術センターの紹介 ・小学生以下を対象としたものづくり体験コーナー～ひかるクレヨンを使った飛び出すお絵かき～</td> <td>10/20-21</td> <td>下関競艇場</td> <td>約100名/日</td> </tr> </tbody> </table>	展示会等の名称	場所	展示内容	日程	Bio Japan 2018	パシフィコ横浜	やまぐちバイオ関連産業創出支援事業	10/10-12	HOSPEX Japan 2018	東京ビッグサイト	企業等の研究開発成果や実用化に向けた試作品等の出展支援(医療関連)	11/20-22	FC EXPO 2019	東京ビッグサイト	・山口県の取組 ・企業等の研究開発成果や実用化に向けた試作品等の出展(水素関連) ※山口県ブース(県・財団・産技 C)	2/27-3/1	名称及び内容	日程	場所	参加者数	3D プリンター教室	8/19	周南市久米公民館	4名	夏休みジュニア科学教室「微生物燃料電池の製作及び土壌中で活動する菌群の観察」	8/30	産業技術センター	15名	第16回長府企業フェスタ(再掲) ・パネルによる山口県産業技術センターの紹介 ・小学生以下を対象としたものづくり体験コーナー～ひかるクレヨンを使った飛び出すお絵かき～	10/20-21	下関競艇場	約100名/日
展示会等の名称	場所	展示内容	日程																															
Bio Japan 2018	パシフィコ横浜	やまぐちバイオ関連産業創出支援事業	10/10-12																															
HOSPEX Japan 2018	東京ビッグサイト	企業等の研究開発成果や実用化に向けた試作品等の出展支援(医療関連)	11/20-22																															
FC EXPO 2019	東京ビッグサイト	・山口県の取組 ・企業等の研究開発成果や実用化に向けた試作品等の出展(水素関連) ※山口県ブース(県・財団・産技 C)	2/27-3/1																															
名称及び内容	日程	場所	参加者数																															
3D プリンター教室	8/19	周南市久米公民館	4名																															
夏休みジュニア科学教室「微生物燃料電池の製作及び土壌中で活動する菌群の観察」	8/30	産業技術センター	15名																															
第16回長府企業フェスタ(再掲) ・パネルによる山口県産業技術センターの紹介 ・小学生以下を対象としたものづくり体験コーナー～ひかるクレヨンを使った飛び出すお絵かき～	10/20-21	下関競艇場	約100名/日																															

大項目	第2 業務運営の改善及び効率化に関する事項
中項目	4 コンプライアンスの確保

第2-4 コンプライアンスの確保

中期計画	H30年度の年度計画	評価	H30年度計画の達成状況等の具体的説明	評価の理由等																	
法令遵守等に資する仕組みの適切な運用及び職員教育の実施	法令遵守等に資する仕組みの適切な運用及び職員教育の実施	3	<p>前年度整備した研究開発に係わるコンプライアンス確保のための規程類を確かに運用し、全ての研究員並びに希望する職員を対象とした研究倫理教育や、当該競争的資金等に係る研究活動を実施する構成員に対するコンプライアンス教育を実施した。</p> <p>さらに、ハラスメント防止についても、外部講師による研修を引き続き実施した。</p> <p>これらの見直しについては、全体会議、合同会議及び所内メール等において周知徹底を図った。</p> <p>■新規規定の運用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>前年度整備した下記規程群について、4月1日付けで正式運用を開始した。 <ul style="list-style-type: none"> <li>内部統制推進規程、外部通報に関する規程、監事監査規程、研究活動における不正行為への対応等に関する規程、競争的資金等の適正管理に関する規程（以上、新規制定）、公益通報制度運営規程（一部改訂）</li> </ul> </li> <li>また、規程の定めに基づき、下記の教育を実施した <ol style="list-style-type: none"> <li>研究者倫理 <table border="1"> <thead> <tr> <th>研修テーマ</th> <th>人数</th> <th>開催日</th> <th>場所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>内部統制に関する規程類の整備について(全体会議)</td> <td>68名</td> <td>5/23</td> <td>産業技術センター</td> </tr> </tbody> </table> </li> <li>コンプライアンス教育 <ul style="list-style-type: none"> <li>国立研究開発法人科学技術振興機構研究成果展開事業地域産学官バリュープログラムに係るコンプライアンス教育(4/2)</li> </ul> </li> </ol> </li> </ul> <p>■ハラスメント防止研修 (所内) (再掲 p.59)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>研修テーマ</th> <th>参加人数</th> <th>実施日</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ハラスメント防止研修</td> <td>77名(参加率100%)</td> <td>6/5, 7/24, 8/16</td> </tr> <tr> <td>ハラスメント相談員のスキルアップ研修</td> <td>2名</td> <td>11/28</td> </tr> </tbody> </table>	研修テーマ	人数	開催日	場所	内部統制に関する規程類の整備について(全体会議)	68名	5/23	産業技術センター	研修テーマ	参加人数	実施日	ハラスメント防止研修	77名(参加率100%)	6/5, 7/24, 8/16	ハラスメント相談員のスキルアップ研修	2名	11/28	<p>年度計画を概ね達成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>研究開発に係わるコンプライアンス確保のための新規規程群について正式運用を開始</li> <li>規程の定めに基づき、研究開発に関わるコンプライアンス確保のための教育を実施</li> </ul>
研修テーマ	人数	開催日	場所																		
内部統制に関する規程類の整備について(全体会議)	68名	5/23	産業技術センター																		
研修テーマ	参加人数	実施日																			
ハラスメント防止研修	77名(参加率100%)	6/5, 7/24, 8/16																			
ハラスメント相談員のスキルアップ研修	2名	11/28																			

		<p>■労働安全衛生関係</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1回/月以上、計12回労働安全衛生委員会を開催</li> <li>・実験室の換気設備の状況調査</li> <li>・職場巡視のチェックシートを作成して職場巡視を実施（12月）し、実施結果に基づき、職場環境を見直し</li> <li>・化学物質リスクアセスメントの実施</li> <li>・定期健康診断の実施（受診率100%）及びストレスチェック結果の分析</li> </ul>
--	--	---

大項目	第2 業務運営の改善及び効率化に関する事項
中項目	5 情報管理の徹底

## 第2-5 情報管理の徹底

中期計画	H30年度の年度計画	評価	H30年度計画の達成状況等の具体的説明	評価の理由等
漏洩防止のために必要な措置の実施 個人情報や企業情報、製品開発等の業務を通じて知り得た秘密情報について、その漏洩防止のために必要な措置を講じる。	漏洩防止のために必要な措置の実施 個人情報や企業情報、製品開発等の業務を通じて知り得た秘密情報について、その漏洩防止のため、新規採用職員を対象とした職員教育や所内会議等での職員への周知徹底を行う。 また、コンピュータによる情報漏洩に備え、情報セキュリティポリシーの周知徹底を図るとともに、利用者に向けた取組の見える化を図る。	3	担当職員による情報漏洩防止の対策を引き続き行った。 また、新規採用職員を対象に職員教育を実施するとともに、ネットワーク実務担当者により情報セキュリティに関する職員への指示・伝達を継続して行った。 産技センターの情報セキュリティを高めるため、 <u>ウイルス対策ソフトのライセンス更新並びにクラウド化【新】</u> を行った。 さらに、 <u>老朽化したネットワーク関連機器の計画的な更新を開始（一部機器を更新）し、ハードウェア面でのセキュリティ向上にも努めた【新】</u> 。	年度計画を概ね達成 ・新規採用職員を対象に職員教育を実施 ・ <u>ウイルス対策ソフトのクラウド化【新】</u> ・ <u>ネットワーク関連機器の計画的な更新の開始（一部機器の更新）【新】</u>

大項目	第2 業務運営の改善及び効率化に関する事項
中項目	6 危機管理対策の推進

## 第2-6 危機管理対策の推進

中期計画	H30年度の年度計画	評価	H30年度計画の達成状況等の具体的説明	評価の理由等
「業務継続計画」(BCP)の策定 特定の災害と被害の想定のもと、優先業務の継続・復旧、被災企業の支援に関する取組を盛り込んだ「業務継続計画」(BCP)を策定し、適切に運用する。	「業務継続計画」(BCP)の策定 「業務継続計画」(BCP)について、災害を想定した研修又は訓練を実施しながら見直して行くとともに、見直した計画はその都度、職員に周知徹底を図る。	3	風水害対策マニュアルの作成に着手し、原案の作成を行った。 また、「業務継続計画」(BCP)の初動体制の充実を図るため、職員の参集可否の連絡先であるBCP専用のメールアドレスを記載した「H30年度非常連絡系統図」を作成し、全職員に配布・周知した。	年度計画を概ね達成 ・集中豪雨や台風時の危機管理対策を検討 ・BCP専用のメールアドレスを記載した「H30年度非常連絡系統図」を作成、配付及び周知

大項目	第 3 財務内容の改善に関する事項
中項目	1 自己収入の確保

中期目標	<p>&lt;財務内容の改善に関する目標&gt;                  外部資金の獲得などに積極的に取り組み、自主財源の確保を図る。また、経費の支出については、可能な限り抑制に努める。</p>
------	--

第 3 - 1 自己収入の確保

中期計画	H30 年度の年度計画	評価	H30 年度計画の達成状況等の具体的説明	評価の理由等																					
国等の外部資金の獲得及び運営費交付金以外の収入の確保努力 機器整備や研究に係る国等の外部資金の獲得や、機器・施設の開放、知的財産権の使用許諾等を推進し、運営費交付金以外の収入の確保に努める。	国等の外部資金の獲得及び運営費交付金以外の収入の確保努力 機器整備に係る補助事業や研究開発に係る競争的資金の獲得に努め、使用料の適正な料金設定、機器・施設の利用促進や知的財産権の使用許諾等の推進、施設等の有効利用による収入の確保等による収入の確保に努める。	4	機器整備に係る補助事業（1 機種）（再掲 p.46）や研究開発に係る競争的資金の獲得（9 件）（再掲 p.30）に努めるとともに、イノベーションを推進するために外部資金（地域イノベーション戦略プログラム、ものづくり中小企業・小規模事業者連携支援事業）を活用した。（再掲 p.11） また、開放機器や施設などの使用料、依頼試験の手数料、受託研究及び知的財産の使用許諾による実施料などにより自己収入の確保に努めた。 また、新たに導入した機器についても、速やかに開放機器化して機器利用収入の拡大を図った。	年度計画を十分達成 ○機器整備や研究開発に係る競争的資金の獲得（機器整備等：6 機種、研究開発：11 件） ○イノベーション推進への外部資金の活用 ・使用料・手数料、受託研究及び知的財産の実施料等による自己収入の確保に努めた																					
<p>■機器整備等に係る補助事業の獲得状況 6機種</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>事業名</th> <th>機器名</th> <th>補助額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小型自動車等機械振興事業(JKA)補助金</td> <td>X線回折装置</td> <td>22,485,600 円</td> </tr> <tr> <td>小型自動車等機械振興事業(JKA)補助金</td> <td>精密研磨用ブラスト研磨装置</td> <td>2,702,304 円</td> </tr> <tr> <td>小型自動車等機械振興事業(JKA)補助金</td> <td>直圧式ブラスト研磨装置</td> <td>上に含まれる</td> </tr> <tr> <td>H29 地域新成長産業創出促進事業</td> <td>粉末焼結式樹脂造形機</td> <td>60,912,000 円</td> </tr> <tr> <td>H29 地域新成長産業創出促進事業</td> <td>構造最適ソフトウェア</td> <td>8,940,893 円</td> </tr> <tr> <td>H29 地域新成長産業創出促進事業</td> <td>3Dデータプラットフォーム</td> <td>1,335,420 円</td> </tr> </tbody> </table>					事業名	機器名	補助額	小型自動車等機械振興事業(JKA)補助金	X線回折装置	22,485,600 円	小型自動車等機械振興事業(JKA)補助金	精密研磨用ブラスト研磨装置	2,702,304 円	小型自動車等機械振興事業(JKA)補助金	直圧式ブラスト研磨装置	上に含まれる	H29 地域新成長産業創出促進事業	粉末焼結式樹脂造形機	60,912,000 円	H29 地域新成長産業創出促進事業	構造最適ソフトウェア	8,940,893 円	H29 地域新成長産業創出促進事業	3Dデータプラットフォーム	1,335,420 円
事業名	機器名	補助額																							
小型自動車等機械振興事業(JKA)補助金	X線回折装置	22,485,600 円																							
小型自動車等機械振興事業(JKA)補助金	精密研磨用ブラスト研磨装置	2,702,304 円																							
小型自動車等機械振興事業(JKA)補助金	直圧式ブラスト研磨装置	上に含まれる																							
H29 地域新成長産業創出促進事業	粉末焼結式樹脂造形機	60,912,000 円																							
H29 地域新成長産業創出促進事業	構造最適ソフトウェア	8,940,893 円																							
H29 地域新成長産業創出促進事業	3Dデータプラットフォーム	1,335,420 円																							

■研究開発に係る競争的資金の獲得 9件

提案公募名	獲得件数	補助額
戦略的基盤技術高度化支援事業（サポイン）	1件	26,505,594円
革新的技術開発・緊急展開事業（農研機構）	4件	5,984,600円
地域産学バリュープログラム（JST）	1件	377,000円
地域イノベーション・エコシステム形成プログラム（文科省）	1件	3,000,000円
中国電力技術研究財団	2件	2,000,000円

■知財の実施許諾による収入

項目	H26	H27	H28	H29	H30
実施許諾	11,224千円	12,048千円	11,928千円	628千円	747千円

■地域イノベーション戦略支援プログラム（文部科学省）（再掲p.11）

39,400,000円

■技術支援サービスによる自己収入

項目	H26	H27	H28	H29	H30
開放機器	20,629千円	20,078千円	20,482千円	17,904千円	17,519千円
依頼試験	8,840千円	10,688千円	13,446千円	14,176千円	11,826千円
手数料*	(3,164千円)	(5,777千円)	(8,780千円)	(8,237千円)	(6,244千円)
受託研究	2,171千円	3,797千円	3,314千円	3,842千円	3,708千円

\* 依頼試験手数料の( )内は、内オーダーメイド試験（O.M.）

・開放機器使用料の状況（再掲 p.50）

利用件数、利用金額ともH29年度とほぼ同規模であった。

・依頼試験手数料の状況（再掲p.50-51）

高額オーダーメイド試験が終了したため利用金額は若干落ち込んだものの、依頼試験の利用件数・オーダーメイド試験の利用件数は共に過去最高となった。

■その他自己収入

自動販売機については、公募制とし、売上手数料を得ることで、自己収入の確保を行った。

H30年度実績 410,492円

大項目	第3 財務内容の改善に関する事項
中項目	2 経費の抑制

第3-2 経費の抑制

中期計画	H30年度の年度計画	評価	H30年度計画の達成状況等の具体的説明	評価の理由等
<p>予算の配分や執行管理方法の見直し</p> <p>経費の効率的使用の観点から、予算の配分や執行管理の方法について見直しを行いその結果に基づき必要な措置を講ずる。</p>	<p>予算の配分や執行管理方法の見直し</p> <p>経費の効率的使用の観点から、必要な予算措置を事業毎に編成し、決められた執行管理方法に基づき運用する。</p> <p>また、一般的な管理運営にかかる経費について見直しを行い、抑制を図る。</p>	3	<p>予算編成において、事業費の積上と併せて前年度事業費の実績を考慮するとともに、より厳密な積算を行い、効果的な予算配分に努めることにより、予算の抑制を図った。また、上半期終了後に予算執行状況の集計を実施し、執行管理に努めるとともに、その結果に基づき予算の再配分を行うことで、効果的な予算執行に努めた。</p> <p>また、管理運営に係る経費について、引き続き委託業務等の精査を行うことに加え、物品購入等における仕様精査や単価契約等による価格の縮減、旅費等の精査による縮減など、比較的規模の小さな経費まで精査し、経費の縮減に努めた。</p>	<p>年度計画を概ね達成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>前年度事業費の実績の考慮と厳密な積算による効果的な予算配分による予算抑制</li> <li>執行管理のため、上半期終了後に予算執行状況の集計・再配分を実施</li> <li>比較的規模の小さな経費まで精査</li> </ul>

大項目	第 4 その他業務運営に関する重要事項
中項目	1 施設設備の適切な管理

中 期 目 標	<p>&lt;施設設備の適切な管理に関する目標&gt; 施設設備が効果的・効率的に活用されるよう、その維持管理を適切に行うとともに、計画的な整備に努める。</p>
------------------	---

第 4 - 1 施設設備の適切な管理

中期計画	H30 年度の年度計画	評価	H30 年度計画の達成状況等の具体的説明	評価の理由等
<p>保守点検・修繕等の計画的な実施及び有効活用策等の検討</p> <p>安定的なサービスの提供の基盤となる施設設備が良好な状況に保たれるよう、保守点検、修繕等を計画的に行う。</p> <p>また、施設等の利活用状況を適時把握し、効率的・効果的な利活用の観点から、運用方法の改善や有効活用策等の検討を定期的に行いその結果に基づき必要な措置を講ずる。</p>	<p>保守点検・修繕等の計画的な実施及び有効活用策等の検討</p> <p>施設設備について、利用者の要望や大規模修繕・改修調査を参考にして、保守点検、修繕等を計画的に行い、施設設備の定期的な保守点検、修繕、更新（計画の作成、実施予算の確保等）、管理システムの運用（開放機器・依頼試験・会議室等予約システム）を行う。</p> <p>また、施設等の利活用状況を把握し、各種機関や団体、学校等への働きかけにより、各種セミナー、研修会、研究会、説明会、打合せ等での利活用を促進する。</p>	3	<p>■施設・設備の保守点検、修繕など</p> <p>施設・設備の保守業務については、計画的に予算配分することで、安全性や業務の信頼性の確保に努めた。</p> <p>また、修繕についてもその必要性が高いと判断されるものについては優先的に予算執行することで施設・設備が良好な状態に保たれるよう配意した。</p> <p>■施設の利用促進</p> <p>施設の利用促進については、ひとづくり財団、やまぐち産業振興財団、工業系学校・大学、金融機関等へ働きかけやJAXA展示コーナー設置により、宇部コンベンション協会主催の産業観光、下関・宇部商工会議所工業部会、宇部工業高等学校、下関西高等学校、大津緑洋高等学校、防府商工高等学校、県立大学主催の桜の森アカデミー講座、山口大学農学部等の多くの見学受入の成果を上げた。</p> <p>また、外来受付者数は第2期（H26以降）最高であった。</p>	<p>年度計画を概ね達成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保守業務への計画的な予算配分</li> <li>・必要性の高い修繕への優先的な予算執行</li> <li>・外来受付者がH26年度以降最高</li> </ul>

<p>(数値目標)</p> <p>中期計画期間中の来庁者数の 5年間合計 55,000人</p> <p>(注) 来庁者 施設利用者、見学者及び外来受 付者の合計をいう。</p>	<p>(数値目標)</p> <p>中期計画期間中の来庁者数</p> <p>年間 11,000人</p>	5	<p>(数値目標) 中期計画期間中の来庁者数 13,294人 ※内訳 施設利用：4,753人(施設利用+見学) (H29：5,231人) 外来受付：8,541人(H29：8,161人)</p> <p>■月別来庁者の推移</p> <table border="1" data-bbox="1409 436 2338 667"> <thead> <tr> <th></th> <th>4月</th> <th>5月</th> <th>6月</th> <th>7月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>施設利用者</td> <td>295人</td> <td>131人</td> <td>20人</td> <td>194人</td> </tr> <tr> <td>見学者</td> <td>41人</td> <td>30人</td> <td>256人</td> <td>22人</td> </tr> <tr> <td>外来受付者</td> <td>546人</td> <td>721人</td> <td>658人</td> <td>850人</td> </tr> <tr> <td>月別合計</td> <td>882人</td> <td>882人</td> <td>934人</td> <td>1,066人</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="1409 716 2338 947"> <thead> <tr> <th>8月</th> <th>9月</th> <th>10月</th> <th>11月</th> <th>12月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>730人</td> <td>474人</td> <td>451人</td> <td>446人</td> <td>9人</td> </tr> <tr> <td>33人</td> <td>196人</td> <td>258人</td> <td>8人</td> <td>111人</td> </tr> <tr> <td>655人</td> <td>654人</td> <td>748人</td> <td>783人</td> <td>862人</td> </tr> <tr> <td>1,418人</td> <td>1,324人</td> <td>1,457人</td> <td>1,237人</td> <td>982人</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="1409 995 2338 1272"> <thead> <tr> <th>1月</th> <th>2月</th> <th>3月</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>396人</td> <td>130人</td> <td>463人</td> <td>3,739人</td> </tr> <tr> <td>56人</td> <td>0人</td> <td>3人</td> <td>1,014人</td> </tr> <tr> <td>503人</td> <td>703人</td> <td>858人</td> <td>8,541人</td> </tr> <tr> <td>955人</td> <td>833人</td> <td>1,324人</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="3">合計</td> <td>13,294人</td> </tr> </tbody> </table>		4月	5月	6月	7月	施設利用者	295人	131人	20人	194人	見学者	41人	30人	256人	22人	外来受付者	546人	721人	658人	850人	月別合計	882人	882人	934人	1,066人	8月	9月	10月	11月	12月	730人	474人	451人	446人	9人	33人	196人	258人	8人	111人	655人	654人	748人	783人	862人	1,418人	1,324人	1,457人	1,237人	982人	1月	2月	3月	計	396人	130人	463人	3,739人	56人	0人	3人	1,014人	503人	703人	858人	8,541人	955人	833人	1,324人		合計			13,294人	<p>年度計画を十二分に達成 達成度 121%</p>
	4月	5月	6月	7月																																																																										
施設利用者	295人	131人	20人	194人																																																																										
見学者	41人	30人	256人	22人																																																																										
外来受付者	546人	721人	658人	850人																																																																										
月別合計	882人	882人	934人	1,066人																																																																										
8月	9月	10月	11月	12月																																																																										
730人	474人	451人	446人	9人																																																																										
33人	196人	258人	8人	111人																																																																										
655人	654人	748人	783人	862人																																																																										
1,418人	1,324人	1,457人	1,237人	982人																																																																										
1月	2月	3月	計																																																																											
396人	130人	463人	3,739人																																																																											
56人	0人	3人	1,014人																																																																											
503人	703人	858人	8,541人																																																																											
955人	833人	1,324人																																																																												
合計			13,294人																																																																											

大項目	第4 その他業務運営に関する重要事項
中項目	2 環境負荷の低減

中期目標	<p>&lt;環境負荷の低減に関する目標&gt; 業務運営に伴う環境負荷を低減するための取組を適切に実施する。</p>
------	---

第4-2 環境負荷の低減

中期計画	H30年度の年度計画	評価	H30年度計画の達成状況等の具体的説明	評価の理由等																																																																								
<p>環境マネジメントの継続実施</p> <p>省エネルギーや廃棄物の適正な処理など、環境負荷の低減に向けた環境マネジメントを継続して実施するとともに、その運用状況を評価しその結果に基づき必要な措置を講ずる。</p>	<p>環境マネジメントの継続実施</p> <p>省エネルギーや廃棄物の適正な処理等、環境負荷の低減に向けた環境マネジメントを継続して実施するとともに、その運用状況を評価しその結果に基づき必要な措置を講ずる。</p>	3	<p>環境負荷の低減に向けた環境マネジメントの取組を継続しており、省エネ・省資源、コピー用紙の裏面や封筒の再利用、トナーカートリッジ、インクカートリッジの回収、ゴミの分別収集による古紙などの再資源化、グリーン購入などに取り組んでいる。また、引き続き電力については、玄関ロビーに設置した電力モニターや Web 画面で電力使用量を「見える化」することにより省エネ行動喚起を図っている。</p> <p>加えて、全職員を対象に、省エネのアイデアを募集するアンケート調査を実施した【新】。</p> <p>なお、化学物質取扱管理規程（化学物質リスクアセスメント）について運用を開始すると共に、実用段階における課題の抽出を行った【新】。</p> <p>■電力、水道水、ガスの使用状況および廃棄物の排出状況</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>コピー用紙（枚）</td> <td>591,000</td> <td>563,750</td> <td>629,500</td> <td>627,000</td> <td>574,000</td> <td>588,000</td> <td>597,750</td> <td>543,499</td> </tr> <tr> <td>使用電力量（MWh）</td> <td>1,986</td> <td>2,150</td> <td>2,257</td> <td>2,243</td> <td>2,345</td> <td>2,446</td> <td>2,135</td> <td>2,403</td> </tr> <tr> <td>水道水（m<sup>3</sup>）</td> <td>4,387</td> <td>4,028</td> <td>3,919</td> <td>2,958</td> <td>3,014</td> <td>3,154</td> <td>3,621</td> <td>3,395</td> </tr> <tr> <td>プロパンガス(m<sup>3</sup>)</td> <td>5,768</td> <td>5,799</td> <td>6,573</td> <td>7,126</td> <td>6,258</td> <td>6,895</td> <td>7,467</td> <td>6,588</td> </tr> <tr> <td>A 重油（L）</td> <td>20</td> <td>30</td> <td>30</td> <td>90</td> <td>20</td> <td>30</td> <td>30</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>廃棄物(kg)</td> <td>6,530</td> <td>4,903</td> <td>7,541</td> <td>7,290</td> <td>5,747</td> <td>7,991</td> <td>8,075</td> <td>11,770</td> </tr> <tr> <td>特別管理廃棄物</td> <td>625</td> <td>607</td> <td>1,059</td> <td>1,121</td> <td>905</td> <td>1,217</td> <td>1,411</td> <td>1,145</td> </tr> </tbody> </table>		H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	コピー用紙（枚）	591,000	563,750	629,500	627,000	574,000	588,000	597,750	543,499	使用電力量（MWh）	1,986	2,150	2,257	2,243	2,345	2,446	2,135	2,403	水道水（m <sup>3</sup> ）	4,387	4,028	3,919	2,958	3,014	3,154	3,621	3,395	プロパンガス(m <sup>3</sup> )	5,768	5,799	6,573	7,126	6,258	6,895	7,467	6,588	A 重油（L）	20	30	30	90	20	30	30	20	廃棄物(kg)	6,530	4,903	7,541	7,290	5,747	7,991	8,075	11,770	特別管理廃棄物	625	607	1,059	1,121	905	1,217	1,411	1,145	<p>年度計画を概ね達成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・省エネ・省資源、ゴミの分別収集による古紙などの再資源化等の取組</li> <li>・省エネアイデアに関わるアンケートを実施【新】</li> <li>・化学物質管理規定（化学物質リスクアセスメント）の運用と課題の抽出【新】</li> </ul>
	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30																																																																				
コピー用紙（枚）	591,000	563,750	629,500	627,000	574,000	588,000	597,750	543,499																																																																				
使用電力量（MWh）	1,986	2,150	2,257	2,243	2,345	2,446	2,135	2,403																																																																				
水道水（m <sup>3</sup> ）	4,387	4,028	3,919	2,958	3,014	3,154	3,621	3,395																																																																				
プロパンガス(m <sup>3</sup> )	5,768	5,799	6,573	7,126	6,258	6,895	7,467	6,588																																																																				
A 重油（L）	20	30	30	90	20	30	30	20																																																																				
廃棄物(kg)	6,530	4,903	7,541	7,290	5,747	7,991	8,075	11,770																																																																				
特別管理廃棄物	625	607	1,059	1,121	905	1,217	1,411	1,145																																																																				

■グリーン購入の実施状況

	グリーン購入率							
	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
用紙類	98.2%	99.7%	99.5%	98.2%	99.0%	98.0%	94.6%	97.8%
金額(円)	431,907	314,820	311,695	238,042	330,130	309,354	339,123	326,954
文具等	72.4%	78.5%	82.9%	78.0%	80.5%	89.2%	83.0%	60.7%
金額(円)	341,348	155,825	280,929	154,193	165,677	262,025	235,517	193,508
器具什器	100%	100%	86.9%	68.9%	100%	96.7%	15.8%	100%
金額(円)	577,395	152,145	483,840	66,420	119,944	594,432	2,592	46,440
作業服等	—	99.5%	99.8%	100%	100%	100%	100%	100%
金額(円)	—	66,779	243,369	111,780	58,179	223,073	154,191	59,875
合計	90.7%	94.0%	90.9%	88.0%	93.9%	95.8%	90.0%	82.5%
金額(円)	1,350,650	689,569	1,319,833	570,435	673,930	1,388,884	731,423	626,777

注) グリーン購入率は、購入金額ベースのもの

大項目	第5 予算（人件費の見積もりを含む。）収支計画及び資金計画
中項目	1 予算

中期計画		H30年度の年度計画及びその実績				特記事項
(百万円)		(百万円)				
区分	金額	区分	計画	実績	増減	
収入		収入				
運営費交付金等	3,190	運営費交付金等	629	624	▲5	
自己収入	1,032	自己収入	266	235	▲31	
使用料・手数料	147	使用料・手数料	35	34	▲1	
特許実施料	33	特許実施料	1	1	0	
研究費等	673	研究費等	141	138	▲3	
補助金等収入	175	補助金等収入	88	62	▲26	
その他収入	4	その他収入	1	1	0	
前中期目標期間繰越積立金取崩	61	前年度からの繰越金	0	71	71	
計	4,284	前中期目標期間繰越積立金取崩	16	16	0	
		計	911	947	36	
支出		支出				
業務費	944	業務費	218	203	▲15	
人件費	2,506	人件費	495	489	▲6	
一般管理費	544	一般管理費	123	122	▲1	
施設費	290	施設費	75	132	57	
計	4,284	計	911	947	36	
(注)四捨五入の関係で端数が合わないことがある。		(注)四捨五入の関係で端数が合わないことがある。				
【人件費の見積り】 中期目標期間中、総額2,506百万円を支出する。 ※金額については見込みであり、今後、変更する可能性がある。		【人件費の見積り】 総額495百万円を支出する。 ※金額については見込みであり、今後、変更する可能性がある。				
						*「施設費」の増の主たる要因は、前年度からの繰越金による増によるものです。

注：「特記事項」欄は、計画と実績との間に大きな差異がある場合に、その主要因を記載する。

大項目	第5 予算（人件費の見積もりを含む。）収支計画及び資金計画
中項目	2 収支計画

中期計画		H30年度の年度計画及びその実績				特記事項
(百万円)		(百万円)				
区分	金額	区分	計画	実績	増減	
費用の部	4,438	費用の部	936	870	▲66	
經常経費	4,373	經常経費	923	870	▲53	
業務費	1,286	業務費	298	256	▲42	
人件費	2,506	人件費	494	489	▲5	
管理運営費	575	管理運営費	131	126	▲5	
財務費用	5	財務費用	0	1	1	
雑損	0	雑損	0	0	0	
臨時損失	66	臨時損失	13	0	▲13	
収入の部	4,438	収入の部	926	870	▲56	
經常収益	4,373	經常収益	913	870	▲43	
運営費交付金収益	3,045	運営費交付金収益	605	603	▲2	
使用料・手数料収益	147	使用料・手数料収益	35	34	▲1	
特許実施料	33	特許実施料	1	1	0	
研究事業等収益	673	研究事業等収益	141	132	▲9	
補助金等収益	30	補助金等収益	41	39	▲2	
施設費収益	0	施設費収益	0	0	0	
その他収益	4	その他収益	1	1	0	
資産見返運営費交付金等戻入	440	資産見返運営費交付金等戻入	29	14	▲15	
臨時利益	66	臨時利益	40	45	5	
当期純利益	▲61	当期純利益	3	0	▲3	
前中期目標期間繰越積立金取崩益	61	資産見返寄附金戻入	17	0	▲17	
純利益	0	臨時利益	13	0	▲13	
		当期純利益	▲10	0	10	
		目的積立金取崩額	10	0	▲10	
		純利益	0	0	0	

(注) 四捨五入の関係で端数が合わないことがある。

※金額については見込みであり、今後、変更する可能性がある。

(注) 四捨五入の関係で端数が合わないことがある。

※金額については見込みであり、今後、変更する可能性がある。

注：「特記事項」欄は、計画と実績との間に大きな差異がある場合に、その主要因を記載する

大項目	第5 予算（人件費の見積もりを含む。）収支計画及び資金計画
中項目	3 資金計画

中期計画		H30年度の年度計画及びその実績				特記事項
(百万円)		(百万円)				
区分	金額	区分	計画	実績	増減	
資金支出	4,284	資金支出	910	1,003	93	
業務活動による支出	3,989	業務活動による支出	835	814	▲21	
投資活動による支出	290	投資活動による支出	75	136	61	
財務活動による支出	5	財務活動による支出	0	0	0	
次期中期目標期間への繰越金	0	次期中期目標期間への繰越金	0	53	53	
資金収入	4,284	資金収入	910	925	18	
業務活動による収入	3,947	業務活動による収入	835	756	▲79	
運営費交付金による収入	3,060	運営費交付金による収入	606	624	18	
使用料・手数料収入	147	使用料・手数料収入	35	36	1	
特許実施料	33	特許実施料	1	1	0	
研究費等による収入	673	研究費等による収入	141	32	▲109	
補助金等による収入	30	補助金等による収入	41	62	21	
その他の収入	4	その他の収入	11	1	▲10	
投資活動による収入	275	投資活動による収入	75	99	24	
財務活動による収入	0	財務活動による収入	0	70	70	
前期中期目標期間からの繰越金	61	前期中期目標期間からの繰越金	0	0	0	
(注) 四捨五入の関係で端数が合わないことがある。		(注) 四捨五入の関係で端数が合わないことがある。				
※金額については見込みであり、今後、変更する可能性がある。						

注：「特記事項」欄は、計画と実績との間に大きな差異がある場合に、その主な要因を記載する。

大項目	第6 短期借入金の限度額
-----	--------------

中期計画	H30年度の年度計画	左の実績	特記事項
3億5千万円	3億5千万円	なし	

注:「特記事項」欄は、計画と実績との間に大きな差異がある場合に、その主な要因を記載する。

大項目	第7 出資等に係る不要財産又は出資等に係る不要財産となることが見込まれる財産の処分に関する計画
-----	---

中期計画	H30年度の年度計画	左の実績	特記事項
なし	なし	なし	

大項目	第8 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画
-----	-------------------------

中期計画	H30年度の年度計画	左の実績	特記事項
なし	なし	なし	

注:「特記事項」欄は、計画と実績との間に大きな差異がある場合に、その主な要因を記載する。

大項目	第9 剰余金の使途
-----	-----------

中期計画	H30年度の年度計画	左の実績	特記事項
決算において剰余金が発生した場合は、試験研究の質の向上並びに組織運営及び施設整備の改善に充てる。	決算において剰余金が発生した場合は、試験研究の質の向上並びに組織運営及び施設設備の改善に充てる。	なし	

注:「特記事項」欄は、計画と実績との間に大きな差異がある場合に、その主な要因を記載する。

大項目	第10 法第40条第4項の承認を受けた金額の使途
-----	--------------------------

中期計画	H30年度の年度計画	左の実績	特記事項
前中期目標期間繰越積立金は、試験研究の質の向上並びに組織運営及び施設設備の改善に充てる。	前中期目標期間繰越積立金は、試験研究の質の向上並びに組織運営及び施設設備の改善に充てる。	研究の質の向上(やまぐち3Dものづくり推進事業:1.3百万円)及び施設設備の改善(機器整備:4百万円)に充当した	

#### IV その他法人の現況に関する事項

##### 1 地域別企業支援状況(H30年度)

種 別		地 域 別						合 計
項 目		岩柳地域	周南地域	県央地域	西部地域	北部地域	県 外	
技術相談件数	法人対応 (うち訪問等)	389 (42)	494 (120)	1,086 (58)	1,768 (70)	151 (24)	440 (0)	4,328 (314)
	外部紹介 (うち訪問等)	4 (0)	9 (0)	3 (0)	14 (0)	2 (0)	8 (0)	40 (0)
計 (実利用者数)		393 (111)	503 (188)	1,089 (237)	1,782 (479)	153 (55)	448 (215)	4,368 (1,285)
企業等 訪問件数	件数 (訪問回数)	47 (94)	73 (261)	98 (298)	175 (639)	34 (76)	109 (136)	536 (1,504)
	うち企業 (訪問回数)	43 (86)	68 (253)	71 (168)	135 (385)	26 (56)	71 (90)	414 (1,038)
	うち新規 (訪問回数)	12 (28)	16 (29)	21 (38)	32 (62)	7 (15)	0 (0)	88 (172)
開放機器利用	件 数 (実利用者数)	225 (24)	212 (41)	659 (88)	1,580 (200)	49 (8)	343 (93)	3,068 (454)
	金 額	912	1,290	2,749	8,020	174	4,374	17,519
依頼試験	件 数 (実利用者数)	68 (22)	47 (25)	378 (36)	190 (52)	41 (14)	50 (20)	774 (169)
	点 数	206	192	1,068	704	121	149	2,440
	金 額	1,128	747	3,462	3,716	441	2,333	11,827
受託研究	件 数	0	1	2	4	0	2	9
	金 額	0	31	627	1,055	0	1,995	3,708
研修生受入 人 数	企 業	0	0	3	8	0	0	11
	学 生	0	0	0	0	0	1	1
	インターンシップ	0	0	0	2	0	0	2
計		0	0	3	10	0	1	14
職員派遣研修	件 数	0	1	1	0	0	0	2
成果発表会	回 数	0	1	1	0	0	0	2
講習会	回 数	0	0	2	38	0	0	40
出 展	回 数	0	0	3	2	0	6	11
共同研究 (資金の受入れが ないもの外数)	件 数	0 (0)	1 (0)	0 (2)	1 (5)	0 (0)	1 (2)	3 (9)
	金 額	0	500	0	290	0	100	890
事業化・商品化件数		0	1	3	6	0	0	10
実施許諾	件 数 (うち新規)	1 (0)	3 (0)	5 (1)	14 (3)	5 (1)	8 (0)	36 (5)
	金 額 (うち新規)	1 (0)	39 (0)	514 (0)	315 (0)	400 (0)	0 (0)	1,269 (0)

※ 地域別区分

①岩柳地域  
岩国市、柳井市、周防大島町、和木町、  
上関町、田布施町、平生町

②周南地域  
下松市、光市、周南市

③県央地域  
山口市、防府市

④西部地域  
下関市、宇部市、美祢市、山陽小野田市

⑤北部地域  
萩市、長門市、阿武町

注) 金額の単位は千円。四捨五入の関係で端数処理が合わないことがあります。

地域別企業支援状況の推移(H26年度～30年度)

種 別 項 目		岩柳地域					周南地域					県央地域				
		H 2 6	H 2 7	H 2 8	H 2 9	H 3 0	H 2 6	H 2 7	H 2 8	H 2 9	H 3 0	H 2 6	H 2 7	H 2 8	H 2 9	H 3 0
技術相談件数	法人対応 (うち訪問等)	254 (7)	390 (32)	419 (23)	443 (24)	389 (42)	384 (20)	594 (154)	520 (100)	476 (91)	494 (120)	776 (28)	898 (37)	899 (58)	834 (34)	1,086 (58)
	外部紹介 (うち訪問等)	2 (0)	5 (0)	3 (0)	2 (0)	4 (0)	6 (0)	4 (0)	8 (0)	7 (0)	9 (0)	20 (6)	7 (1)	9 (1)	10 (0)	3 (0)
計 (実利用者数)		256 (78)	395 (103)	422 (99)	445 (116)	393 (111)	390 (131)	598 (201)	528 (179)	483 (176)	503 (188)	796 (197)	905 (226)	908 (219)	844 (212)	1,089 (237)
企業等 訪問件数	件数 (訪問回数)	40 (92)	49 (110)	40 (108)	52 (82)	47 (94)	62 (182)	62 (178)	79 (254)	82 (267)	73 (261)	83 (421)	81 (248)	91 (250)	88 (239)	98 (298)
	(うち新規) (訪問回数)	(4) (6)	(5) (5)	(4) (8)	(10) (16)	(12) (28)	(5) (7)	(4) (6)	(9) (10)	(12) (21)	(16) (29)	(11) (11)	(13) (28)	(12) (22)	(13) (24)	(21) (38)
開放機器利用	件数 (実利用者数)	218 (21)	278 (25)	325 (24)	336 (35)	225 (24)	221 (43)	253 (46)	256 (46)	232 (44)	212 (41)	576 (61)	630 (81)	620 (80)	577 (80)	659 (88)
	金額	528	911	1,134	1,207	912	1,125	1,588	1,890	1,381	1,290	3,219	2,283	2,584	2,426	2,749
依頼試験	件数 (実利用者数)	32 (14)	76 (16)	67 (18)	74 (27)	68 (22)	66 (20)	44 (15)	42 (23)	43 (21)	47 (25)	254 (34)	233 (34)	261 (27)	270 (36)	378 (36)
	点数	74	346	247	258	206	286	158	112	157	192	759	608	642	725	1,068
	金額	334	821	1,159	1,392	1,128	975	731	803	776	747	2,597	2,099	2,256	2,370	3,462
受託研究	件数	0	0	0	0	0	0	0	1	2	1	3	7	3	0	2
	金額	0	0	0	0	0	0	0	50	698	31	760	2,557	942	0	627
研修生受入 人数	企業	0	0	0	2	0	3	0	2	0	0	2	5	1	3	3
	学生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	インターンシップ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計		0	0	0	2	0	3	0	2	0	0	2	5	1	3	3
職員派遣研修	件数	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
成果発表会	回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	3	1
講習会	回数	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	3	15	3	1	2
出展	回数	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	2	3	3	1	3
共同研究 (資金の受入れが ないもの外数)	件数	0 (2)	0 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (2)
	金額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	500	0	0	0	0	0
事業化・商品化件数		2	0	0	2	0	1	1	1	0	1	1	2	4	5	3
実施許諾	件数 (うち新規)	1 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)	4 (0)	4 (1)	4 (0)	4 (1)	3 (0)	6 (2)	5 (0)	7 (2)	6 (0)	5 (1)
	金額 (うち新規)	5 (0)	4 (0)	12 (0)	5 (0)	1 (0)	4 (0)	0 (0)	15 (0)	28 (0)	39 (0)	55 (0)	51 (0)	637 (0)	282 (0)	514 (0)

注) 金額の単位は千円。四捨五入の関係で端数処理が合わないことがあります。

地域別企業支援状況の推移（H26年度～30年度）

種 別		西部地域					北部地域					県 外				
項 目		H 2 6	H 2 7	H 2 8	H 2 9	H 3 0	H 2 6	H 2 7	H 2 8	H 2 9	H 3 0	H 2 6	H 2 7	H 2 8	H 2 9	H 3 0
技術相談件数	法人対応 （うち訪問等）	1,799 (39)	1,889 (52)	1,898 (107)	1,580 (70)	1,768 (70)	145 (16)	100 (11)	114 (11)	106 (24)	151 (24)	394 (1)	400 (1)	415 (1)	377 (0)	440 (0)
	外部紹介 （うち訪問等）	28 (0)	26 (0)	13 (1)	17 (0)	14 (0)	1 (0)	3 (0)	0 (0)	1 (0)	2 (0)	6 (0)	8 (0)	3 (0)	15 (0)	8 (0)
計 （実利用者数）		1,827 (405)	1,915 (489)	1,911 (500)	1,597 (452)	1,782 (479)	146 (47)	103 (55)	114 (59)	107 (53)	153 (55)	400 (161)	408 (159)	418 (193)	392 (187)	448 (215)
企業等 訪問件数	件数 （訪問回数）	165 (902)	172 (704)	209 (767)	182 (656)	175 (639)	29 (57)	27 (68)	28 (87)	33 (83)	34 (76)	52 (119)	30 (49)	85 (126)	127 (169)	109 (136)
	（うち新規） （訪問回数）	(20) (27)	(23) (32)	(25) (46)	(17) (32)	(32) (62)	(7) (8)	(6) (6)	(3) (3)	(6) (14)	(7) (15)	(0) (0)	(0) (0)	(1) (1)	(0) (0)	(0) (0)
開放機器利用	件 数 （実利用者数）	1,668 (135)	1,987 (205)	1,853 (189)	1,547 (186)	1,580 (200)	38 (8)	33 (16)	45 (15)	33 (9)	49 (8)	357 (72)	384 (77)	331 (75)	341 (88)	343 (93)
	金 額	8,254	10,570	9,886	7,221	8,020	74	128	133	91	174	7,429	4,598	4,855	5,578	4,374
依頼試験	件 数 （実利用者数）	183 (63)	153 (49)	130 (62)	185 (61)	190 (52)	49 (14)	20 (10)	20 (12)	31 (13)	41 (14)	37 (20)	32 (14)	57 (22)	40 (17)	50 (20)
	点 数	792	867	550	914	704	185	48	39	66	121	96	110	135	124	149
	金 額	2,893	2,839	2,638	3,449	3,716	616	290	353	507	441	1,425	3,908	6,237	5,681	2,333
受託研究	件 数	3	3	3	7	4	0	1	2	0	0	1	0	1	2	2
	金 額	972	966	1,212	1,649	1,055	0	274	610	0	0	439	0	500	1,495	1,995
研修生受入 人 数	企 業	6	5	5	4	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	学 生	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	2	1	1
	インターンシップ	1	1	1	5	2	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0
計		8	7	7	10	10	0	0	0	0	0	2	2	2	1	1
職員派遣研修	件 数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
成果発表会	回 数	2	3	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
講習会	回 数	30	10	25	36	38	1	0	0	0	0	3	0	0	0	0
出 展	回 数	2	2	3	1	2	0	0	0	0	0	0	6	9	4	6
共同研究 （資金の受入れが ないもの外数）	件 数	2 (4)	1 (8)	0 (0)	1 (4)	1 (5)	0 (0)	0 (0)	0 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (8)	0 (3)	0 (2)	1 (3)	1 (2)
	金 額	120	100	0	420	290	0	0	0	0	0	0	0	0	344	100
事業化・商品化件数		6	5	5	4	6	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
実施許諾	件 数 （うち新規）	13 (2)	14 (1)	14 (0)	13 (2)	14 (3)	3 (1)	4 (1)	4 (0)	4 (0)	5 (1)	5 (0)	5 (1)	9 (4)	10 (2)	8 (0)
	金 額 （うち新規）	1,404 (0)	1,535 (0)	1,234 (0)	309 (0)	315 (0)	14 (0)	5 (0)	4 (0)	4 (0)	400 (0)	9,743 (0)	10,455 (0)	10,026 (0)	1 (0)	0 (0)

注) 金額の単位は千円。四捨五入の関係で端数処理が合わないことがあります。

地域別企業支援状況の推移(H26年度～30年度)

種 別		合 計				
項 目		H 2 6	H 2 7	H 2 8	H 2 9	H 3 0
技術相談件数	法人対応 (うち訪問等)	3,752 (111)	4,271 (287)	4,265 (300)	3,816 (243)	4,328 (314)
	外部紹介 (うち訪問等)	63 (6)	53 (1)	36 (2)	52 (0)	40 (0)
計 (実利用者数)		3,815 (1,019)	4,324 (1,233)	4,301 (1,249)	3,868 (1,196)	4,368 (1,285)
企業等 訪問件数	件数 (訪問回数)	431 (1,773)	421 (1,357)	532 (1,592)	564 (1,496)	536 (1,504)
	(うち新規) (訪問回数)	(47) (59)	(51) (77)	(54) (90)	(58) (107)	(88) (172)
開放機器利用	件 数 (実利用者数)	3,078 (340)	3,565 (450)	3,430 (429)	3,066 (442)	3,068 (454)
	金 額	20,629	20,078	20,482	17,904	17,519
依頼試験	件 数 (実利用者数)	621 (165)	558 (138)	577 (164)	643 (175)	774 (169)
	点 数	2,192	2,137	1,725	2,244	2,440
	金 額	8,840	10,688	13,446	14,175	11,827
受託研究	件 数	7	11	10	11	9
	金 額	2,171	3,797	3,314	3,842	3,708
研修生受入 人 数	企 業	11	10	8	9	11
	学 生	1	2	3	2	1
	インターンシップ	3	2	1	5	2
計		15	14	12	16	14
職員派遣研修	件 数	2	2	2	2	2
成果発表会	回 数	2	3	3	4	2
講習会	回 数	39	25	28	37	40
出 展	回 数	4	11	16	7	11
共同研究 (資金の受入れが ないもの外数)	件 数	2 (14)	1 (13)	0 (3)	2 (7)	3 (9)
	金 額	120	100	0	764	890
事業化・商品化件数		10	8	10	12	10
実施許諾	件 数 (うち新規)	32 (5)	33 (4)	39 (6)	38 (5)	36 (5)
	金 額 (うち新規)	11,224 (0)	12,048 (0)	11,928 (0)	629 (0)	1,269 (0)

注) 金額の単位は千円。四捨五入の関係で端数処理が合わないことがあります。

2 産業分類別企業支援状況(H30年度)

産業分類別	技術 相伴 数	企業等 訪問 件数 (回数)	開放機器		依頼試験			受託研究		研 修		共同研究 (資金の受入れがないも の外数)		事業化 ・ 製品化 件数	実施許諾	
			件数	金額	件数	点数	金額	件数	金額	受入研修 (人数)	派遣研修 (件数)	件数	金額		件数 (うち新規)	金額 (うち新規)
食品・飲料関係 (実利用者数)	568 (215)	76 (138)	296 (56)	890	118 (53)	200	2,144	1	109	3	0	0 (0)	0	5	4 (0)	16 (0)
化学・プラスチック関係 (実利用者数)	696 (187)	50 (158)	643 (90)	4,927	43 (10)	224	1,335	0	0	0	0	1 (2)	100	2	2 (0)	0 (0)
窯業・土石関係 (実利用者数)	84 (29)	14 (41)	56 (8)	274	5 (3)	6	165	0	0	0	0	0 (0)	0	0	1 (0)	0 (0)
鉄鋼・金属関係 (実利用者数)	713 (113)	39 (106)	448 (42)	2,217	335 (21)	1,005	2,452	2	1,097	0	1	0 (2)	0	1	9 (1)	0 (0)
機械関係 (実利用者数)	749 (216)	52 (170)	450 (80)	2,818	88 (30)	464	1,974	0	0	1	1	1 (0)	500	0	6 (0)	262 (0)
電気・情報通信関係 (実利用者数)	359 (104)	38 (64)	291 (44)	1,951	3 (2)	15	93	1	411	0	0	0 (1)	0	1	0 (0)	0 (0)
その他製品 (実利用者数)	770 (254)	128 (304)	473 (75)	2,377	58 (23)	89	1,691	2	1,214	2	0	0 (1)	0	0	13 (3)	992 (0)
建設業 (実利用者数)	156 (45)	17 (57)	10 (4)	81	108 (16)	401	860	0	0	0	0	0 (0)	0	0	1 (1)	0 (0)
公的機関・団体・大学・高専・個人 (実利用者数)	273 (122)	122 (466)	401 (55)	1,984	16 (11)	36	1,112	3	877	5	0	1 (3)	290	1	0 (0)	0 (0)
合 計 (実利用者数)	4,368 (1,285)	536 (1,504)	3,068 (454)	17,519	774 (169)	2,440	11,826	9	3,708	11	2	3 (9)	890	10	36 (5)	1,270 (0)

注) 金額の単位は千円。四捨五入の関係で端数処理が合わないことがあります。

共同研究は、1つの研究で相手先が複数(機械関係の企業と電気・情報通信関係の企業)あるものがあるため、一部をまとめて記載しています。以下同じ。

同一企業であっても、異なる地域に複数の事業所がある場合、地域別支援状況と件数で差異が生じる場合があります。

企業等訪問件数については、( )内は訪問回数の合計です。

産業分類別企業支援状況の推移(H26年度～30年度)

種 別 項 目	食品・飲料関係					化学・プラスチック関係					窯業・土石関係					
	H26	H27	H28	H29	H30	H26	H27	H28	H29	H30	H26	H27	H28	H29	H30	
技術相談件数 (実利用者数)	444 (182)	551 (182)	500 (193)	501 (197)	568 (215)	690 (139)	696 (151)	722 (184)	699 (184)	696 (187)	96 (32)	79 (28)	86 (32)	74 (31)	84 (29)	
企業訪問件数 (訪問回数)	74 (107)	59 (103)	67 (124)	64 (119)	76 (138)	46 (160)	52 (150)	40 (145)	57 (153)	50 (158)	19 (37)	12 (38)	15 (38)	19 (49)	14 (41)	
開放機器利用	件 数 (実利用者数)	229 (42)	287 (41)	214 (38)	245 (47)	296 (56)	639 (57)	770 (80)	722 (93)	676 (99)	643 (90)	54 (10)	64 (12)	89 (9)	64 (11)	56 (8)
	金 額	540	685	685	674	890	7,904	4,253	4,467	4,811	4,927	145	226	498	328	274
依頼試験	件 数 (実利用者数)	106 (53)	124 (41)	118 (48)	146 (54)	118 (53)	55 (14)	35 (10)	53 (19)	48 (12)	43 (10)	7 (4)	3 (3)	6 (3)	3 (1)	5 (3)
	点 数	252	240	235	311	200	298	489	233	308	224	26	5	13	3	6
	金 額	1,555	1,381	1,574	1,951	2,144	1,117	1,309	2,556	1,178	1,335	90	29	104	14	165
受託研究	件 数	1	0	2	3	1	2	4	1	0	0	1	1	0	0	0
	金 額	47	0	156	286	109	499	1,368	324	0	0	172	274	0	0	0
研 修	受入人数	2	3	2	2	3	3	1	1	1	0	0	0	0	0	0
	派遣件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
共同研究 (資金の受入れがな いもの外数)	件 数	0 (2)	0 (2)	0 (0)	0 (1)	0 (0)	0 (2)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	1 (2)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	金 額	0	0	0	0	0	0	100	0	344	100	0	0	0	0	0
事業化・商品化件数	1	0	1	4	5	0	2	0	0	2	2	0	0	0	0	
実施許諾	件 数 (うち新規)	6 (0)	6 (0)	6 (0)	5 (0)	4 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	2 (1)	2 (0)	2 (0)	2 (0)	2 (0)	1 (0)	1 (0)
	金 額 (うち新規)	42 (0)	40 (0)	46 (0)	38 (0)	16 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)

注) 金額の単位は千円。四捨五入の関係で端数処理が合わないことがあります。

共同研究は、1つの研究で相手先が複数(機械関係の企業と電気・情報通信関係の企業)あるものがあるため、一部をまとめて記載しています。以下同じ。

産業分類別企業支援状況の推移(H26年度～30年度)

種 別 項 目		鉄鋼・金属関係					機械関係					電気・情報通信関係				
		H 2 6	H 2 7	H 2 8	H 2 9	H 3 0	H 2 6	H 2 7	H 2 8	H 2 9	H 3 0	H 2 6	H 2 7	H 2 8	H 2 9	H 3 0
技術相談件数 (実利用者数)		543 (96)	653 (115)	695 (114)	546 (113)	713 (113)	627 (162)	689 (195)	711 (200)	691 (188)	749 (216)	240 (57)	325 (92)	323 (91)	281 (79)	359 (104)
企業訪問件数 (訪問回数)		40 (118)	38 (111)	44 (162)	47 (136)	39 (106)	51 (178)	45 (150)	67 (218)	57 (164)	52 (170)	22 (36)	23 (43)	21 (27)	28 (58)	38 (64)
開放機器利用	件 数 (実利用者数)	488 (38)	632 (43)	684 (40)	472 (45)	448 (42)	414 (53)	536 (76)	476 (71)	523 (69)	450 (80)	404 (50)	307 (47)	329 (44)	291 (46)	291 (44)
	金 額	2,936	3,380	3,368	2,271	2,217	1,837	3,444	3,882	4,039	2,818	3,251	2,366	1,753	1,744	1,951
依頼試験	件 数 (実利用者数)	175 (11)	183 (11)	225 (18)	215 (19)	335 (21)	70 (22)	57 (17)	63 (17)	83 (32)	88 (30)	8 (5)	6 (4)	8 (7)	2 (2)	3 (2)
	点 数	542	505	653	640	1,005	388	491	306	415	464	8	6	23	2	15
	金 額	1,382	1,387	3,734	2,501	2,452	1,419	998	2,239	5,076	1,974	493	2,829	508	77	93
受託研究	件 数	2	4	2	2	2	0	2	2	2	0	0	0	1	1	1
	金 額	1,014	1,605	1,023	1,496	1,097	0	550	234	716	0	0	0	500	500	411
研 修	受入人数	3	2	0	0	0	1	2	1	2	1	0	0	0	0	0
	派遣件数	2	2	2	2	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
共同研究 (資金の受入れがな いもの外数)	件 数	2 (3)	0 (5)	0 (0)	0 (2)	0 (2)	0 (2)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (2)	0 (4)	0 (0)	0 (1)	0 (1)
	金 額	120	0	0	0	0	0	0	0	0	500	0	0	0	0	0
事業化・商品化件数		1	1	2	2	1	2	0	3	3	0	1	4	1	2	1
実施許諾	件 数 (うち新規)	7 (1)	7 (1)	9 (2)	10 (3)	9 (1)	6 (0)	7 (1)	7 (0)	7 (0)	6 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	金 額 (うち新規)	10,970 (0)	11,976 (0)	11,090 (0)	79 (0)	0 (0)	170 (0)	0 (0)	149 (0)	187 (0)	262 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)

注) 金額の単位は千円。四捨五入の関係で端数処理が合わないことがあります。

共同研究は、1つの研究で相手先が複数(機械関係の企業と電気・情報通信関係の企業)あるものがあるため、一部をまとめて記載しています。以下同じ。

産業分類別企業支援状況の推移(H26年度～30年度)

種 別 項 目	その他の製品					建設業					公的機関・団体・大学・高専・個人					
	H 2 6	H 2 7	H 2 8	H 2 9	H 3 0	H 2 6	H 2 7	H 2 8	H 2 9	H 3 0	H 2 6	H 2 7	H 2 8	H 2 9	H 3 0	
技術相談件数 (実利用者数)	670 (200)	753 (268)	800 (281)	587 (243)	770 (254)	179 (40)	180 (39)	109 (31)	128 (41)	156 (45)	326 (104)	398 (163)	355 (123)	361 (120)	273 (122)	
企業訪問件数 (訪問回数)	88 (248)	102 (245)	157 (334)	158 (314)	128 (304)	8 (18)	10 (42)	12 (39)	10 (41)	17 (57)	81 (871)	80 (475)	109 (505)	124 (462)	122 (466)	
開放機器利用	件 数 (実利用者数)	463 (62)	539 (85)	460 (72)	287 (61)	473 (75)	21 (5)	51 (9)	44 (6)	16 (8)	10 (4)	366 (27)	379 (57)	412 (56)	492 (56)	401 (55)
	金 額	1,949	3,280	3,031	1,901	2,377	74	170	979	228	81	1,993	2,274	1,819	1,910	1,984
依頼試験	件 数 (実利用者数)	53 (29)	7 (6)	44 (28)	40 (25)	58 (23)	117 (17)	96 (14)	37 (10)	89 (20)	108 (16)	30 (10)	47 (32)	23 (14)	17 (10)	16 (11)
	点 数	181	12	90	147	89	428	284	115	290	401	69	105	57	128	36
	金 額	1,164	450	947	1,294	1,691	929	743	424	845	860	691	1,562	1,360	1,240	1,112
受託研究	件 数	0	0	1	2	2	1	0	1	1	0	0	0	0	0	3
	金 額	0	0	500	544	1,214	439	0	576	300	0	0	0	0	0	877
研 修	受入人数	0	1	4	3	2	1	1	0	0	0	1	2	4	1	5
	派遣件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
共同研究 (資金の受入れがな いもの外数)	件 数	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (3)	0 (1)	0 (2)	1 (2)	1 (3)
	金 額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	420	290
事業化・商品化件数	2	0	3	1	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	1	
実施許諾	件 数 (うち新規)	11 (4)	11 (2)	14 (3)	13 (1)	13 (3)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	金 額 (うち新規)	42 (0)	33 (0)	643 (0)	325 (0)	992 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)

注) 金額の単位は千円。四捨五入の関係で端数処理が合わないことがあります。

共同研究は、1つの研究で相手先が複数(機械関係の企業と電気・情報通信関係の企業)あるものがあるため、一部をまとめて記載しています。以下同じ。

産業分類別企業支援状況の推移(H26年度～30年度)

種 別 項 目		合 計				
		H 2 6	H 2 7	H 2 8	H 2 9	H 3 0
技術相談件数 (実利用者数)		3,815 (1,012)	4,324 (1,233)	4,301 (1,249)	3,868 (1,196)	4,368 (1,285)
企業訪問件数 (訪問回数)		429 (1,773)	421 (1,357)	532 (1,592)	564 (1,496)	536 (1,504)
開放機器利用	件 数 (実利用者数)	3,078 (344)	3,565 (450)	3,430 (429)	3,066 (442)	3,068 (454)
	金 額	20,629	20,078	20,482	17,906	17,519
依頼試験	件 数 (実利用者数)	621 (165)	558 (138)	577 (164)	643 (175)	774 (169)
	点 数	2,192	2,137	1,725	2,244	2,440
	金 額	8,840	10,688	13,446	14,176	11,826
受託研究	件 数	7	11	10	11	9
	金 額	2,171	3,797	3,313	3,842	3,708
研 修	受入人数	11	12	12	9	11
	派遣件数	2	2	2	2	2
共同研究 (資金の受入れがな いもの外数)	件 数	2 (14)	1 (13)	0 (3)	2 (7)	3 (9)
	金 額	120	100	0	764	890
事業化・商品化件数		10	8	10	12	10
実施許諾	件 数 (うち新規)	32 (5)	33 (4)	39 (6)	38 (5)	36 (5)
	金 額 (うち新規)	11,224 (0)	12,049 (0)	11,928 (0)	629 (0)	1,270 (0)

注) 金額の単位は千円。四捨五入の関係で端数処理が合わないことがあります。

共同研究は、1つの研究で相手先が複数(機械関係の企業と電気・情報通信関係の企業)あるものがあるため、一部をまとめて記載していま

3 施設利用(H26年度～30年度)

項 目		H26	H27	H28	H29	H30	
施設 利 用	多目的ホール	件 数	24	29	26	32	33
		利用人数	2,570	2,526	2,437	2,767	2,346
		金 額	319,555	287,040	286,920	184,325	265,350
	第一研修室	件 数	21	27	30	29	32
		利用人数	633	675	877	727	674
		金 額	53,820	76,780	72,080	49,100	60,480
	第二研修室	件 数	12	5	12	12	25
		利用人数	289	135	276	246	477
		金 額	33,540	15,020	25,260	22,540	55,840
	第一会議室	件 数	23	17	※6	※0	※0
		利用人数	300	252	※72	※0	※0
		金 額	40,440	24,880	※6,380	※0	※0
第二会議室	件 数	21	25	23	25	14	
	利用人数	424	462	371	295	242	
	金 額	35,960	37,720	33,100	29,410	22,165	
施設 見 学	企業・産業関係団体	件 数	19	12	8	6	6
		利用人数	221	125	126	76	90
	研究者	件 数	2	3	5	1	2
		利用人数	9	11	20	30	38
	学生・生徒	件 数	8	14	13	15	12
		利用人数	463	520	525	774	586
	その他	件 数	12	10	6	19	19
		利用人数	60	124	35	316	328

注) 施設利用は有料のものをカウントしています。

※西日本衛星防災利用センターに貸与

4 財務関係

(1) 資産、負債

(千円)

項 目	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	備考
資産 A	6,198,714	6,102,051	5,832,824	5,737,368	5,623,568	
固定資産	6,024,796	5,847,703	5,666,372	5,500,349	5,413,773	
流動資産	173,918	254,348	166,451	237,019	209,795	
負債 B	380,444	402,832	283,740	336,265	385,105	
固定負債	304,585	228,800	189,017	167,283	227,822	
流動負債	75,859	174,032	94,723	168,982	157,283	
純資産 C	5,818,270	5,699,220	5,549,084	5,401,103	5,238,463	
資本金	6,375,046	6,375,046	6,375,046	6,375,046	6,375,046	
資本剰余金	△ 655,031	△ 756,317	△ 897,864	△ 1,042,154	△ 1,189,269	
うち損益外減価償却費累計額 (-)	△ 823,688	△ 984,649	△ 1,157,576	△ 1,330,382	△ 1,493,036	
利益剰余金	98,255	80,490	71,902	68,211	52,686	
前中期目標期間繰越積立金	77,121	38,201	13,102	9,411	0	
研究・業務運営充実積立金	0	21,134	42,040	58,800	52,686	
当期未処分利益	21,134	21,155	16,760	0	0	
その他有価証券評価差額金	-	-	-	-	-	
負債資本合計 D = B + C	6,198,714	6,102,051	5,832,824	5,737,368	5,623,568	

注1：第2期中期目標期間について記載している。

注2：金額は千円未満四捨五入で、マイナスは△で表示している。なお、四捨五入の関係で端数が合わないことがある。

## (2) 損益計算書

(千円)

項 目	平成 2 6 年度	平成 2 7 年度	平成 2 8 年度	平成 2 9 年度	平成 3 0 年度	備考
経常経費 A	836,127	965,923	948,043	924,028	870,483	
業務費	836,127	965,923	948,043	924,028	870,483	
業務費	271,537	309,856	330,161	309,399	255,593	
役員人件費	13,370	13,539	13,660	13,655	13,505	
職員人件費	435,299	524,100	478,438	482,105	475,414	
管理運営費	115,922	118,429	125,784	118,869	125,889	
財務費用	-	-	-	-	82	
雑損	-	-	-	-	-	
経常収益 B	855,517	981,823	948,864	922,482	870,332	
運営費交付金収益	566,665	662,857	614,451	589,121	602,924	
使用料・手数料収益	36,465	38,292	38,221	36,511	33,711	
特許実施料	11,224	12,048	11,928	628	747	
受託事業等収益	115,291	107,211	105,497	114,971	93,515	
補助金等収益	36,082	52,303	82,967	110,305	78,045	
施設費収益	0	0	4,047	0	0	
その他収益	1,204	960	936	1,054	1,279	
資産見返運営費交付金等戻入	88,588	108,152	90,818	69,892	60,111	
経常利益 C = B - A	19,390	15,900	821	△ 1,546	△ 151	
臨時損失 D	139,267	0	0	0	0	
臨時利益 E	139,611	12	16	371	165	
当期純利益 F = C - D + E	19,734	15,912	837	△ 1,175	14	
目的別積立金取崩額 G	1,400	5,243	15,923	1,175	0	
当期総利益 H = F + G	21,134	21,155	16,760	0	14	

注1：第2期中期目標期間について記載している。

注2：金額は千円未満四捨五入で、マイナスは△で表示している。なお、四捨五入の関係で端数が合わないことがある。

## (3) キャッシュ・フロー計算書

(千円)

項 目	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	備考
業務活動によるキャッシュ・フロー A	168,789	78,637	△ 99,697	63,130	△ 58,430	
投資活動によるキャッシュ・フロー B	△ 155,232	△ 13,127	△ 24,674	△ 27,338	△ 36,944	
財務活動によるキャッシュ・フロー C	-	-	-	-	70,000	
資金に係る換算差額 D	-	-	-	-	-	
資金増加額 E = A+B+C+D	13,557	65,511	△ 124,371	35,792	△ 25,373	
資金期首残高 F	88,805	102,362	167,873	43,502	79,295	
資金期末残高 G	102,362	167,873	43,502	79,295	53,921	

注1：第2期中期目標期間について記載している。

注2：金額は千円未満四捨五入で、マイナスは△で表示している。なお、四捨五入の関係で端数が合わないことがある。

## (4) 行政サービス実施コスト計算書

(千円)

項 目	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	備考
業務費用 A	804,407	799,168	788,701	770,849	741,205	
損益計算書上の費用	975,394	965,923	948,043	924,028	870,483	
(控除) 自己収入等	△ 170,988	△ 166,755	△ 159,342	△ 153,180	△ 129,278	
損益外減価償却相当額 B	154,132	160,962	172,926	172,806	162,640	
損益外減損損失相当額 C	-	-	-	-	-	
引当外賞与増加見積額 D	535	△ 318	238	2,015	944	
引当外退職金給付増加見積額 E	△ 2,670	36,869	△ 12,621	△ 25,625	5,455	
機会費用 F	49,447	16,609	13,014	6,319	0	
(控除) 設立団体納額 G	-	-	-	-	-	
行政サービス実施コスト F = A+B+C+D+E+F-G	1,005,851	1,013,290	962,259	926,364	910,244	

注1：第2期中期目標期間について記載している。

注2：金額は千円未満四捨五入で、マイナスは△で表示している。なお、四捨五入の関係で端数が合わないことがある。

5 組織関係

(1) 役職員数

(人)

年度 区分	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	備考
常勤役員数	2	2	2	2	2	
非常勤役員数	1	1	1	1	1	
常勤職員数	47	48	48	49	49	
非常勤職員数	26	24	25	26	23	

(2) 役員の状況

氏名	役職名	任期	任期途中の異動の有無	備考
木村悦博	理事長	H29.4.1 ~ H31.3.31	有	
小泉良	副理事長	H29.4.1 ~ H31.3.31	無	
河口雅邦	監事	H29.4.1 ~ H31.3.31	無	非常勤

6 主要な設備等の状況

種類	構造	床面積 (m <sup>2</sup> )	築年度	経過年度	備考
事務室・実験室	鉄筋コンクリート造陸屋根、ステンレス鋼板葺地下1階付4階建	15,712.67	H11年度	19年	
実験室・倉庫	鉄筋コンクリート造陸屋根地下1階建	157.56	H11年度	19年	
車庫・倉庫	鉄筋コンクリート造陸屋根平屋建	73.22	H11年度	19年	
新事業創造支援センター	鉄筋コンクリート造陸屋根平屋建	891.00	H16年度	14年	

7 その他の評価結果等の活用状況

評価等実施機関の名称	評価結果等の確定	指摘事項等	指摘事項への対応策
H25年度包括外部監査	一点指摘事項あり	「固定資産貸付要項」第1号様式「固定資産使用申込書」には、「減免を受けようとする場合はその理由」を記載する欄が設けられているが、記載されていないケースが散見された。申込書を別途様式で行うか等を検討して、ルール of 徹底を図ること。	申込書の様式変更は行わないが、申請者に対してルールを徹底することとした。また、H26年度の申込に当たり、減免理由を記載するよう通知文書により周知徹底を図った。

8 その他法人の現況に関する重要事項

該当なし。